ケイブンシャの大百科

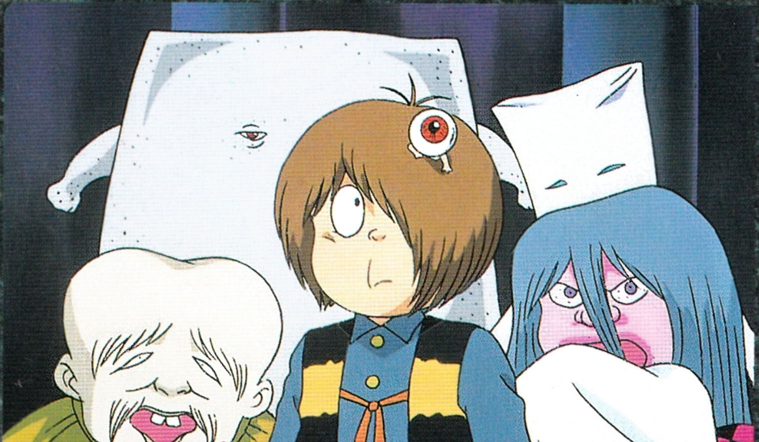
大公開！
鬼太郎の秘密
妖怪紳士録

ゲゲゲの鬼太郎（きたろう）大百科

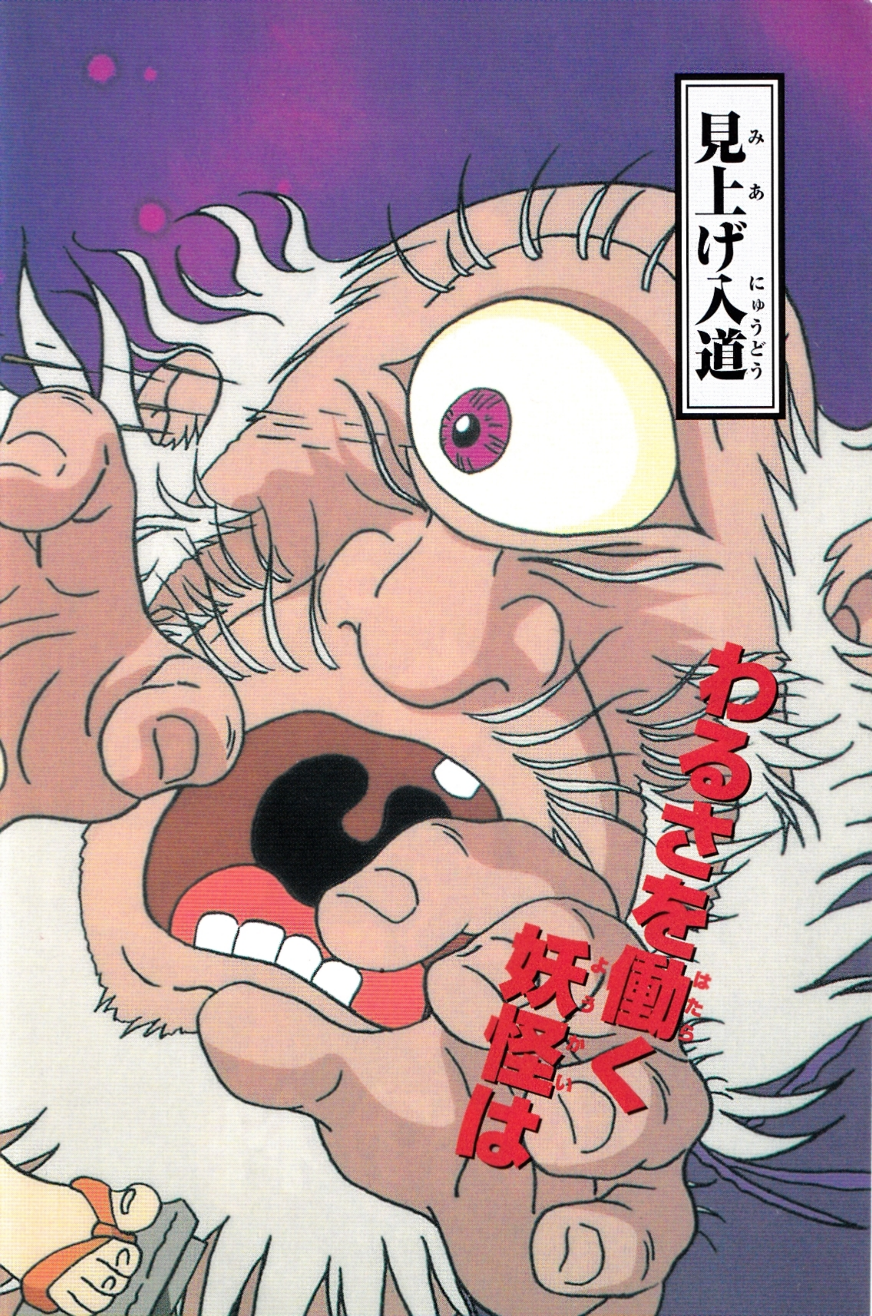
映画
「ゲゲゲの鬼太郎 大海獣」
誌上ストーリー



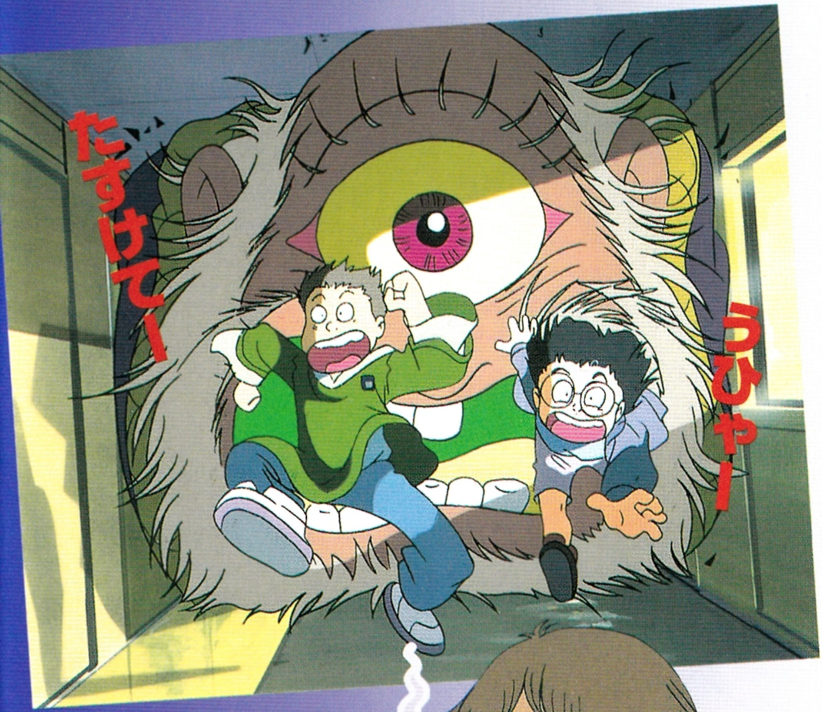
ゲゲゲの鬼太郎（きたろう）



大百科（だいひゃっか）


見上げ入道
わるさを働く
妖怪は


鬼太郎(きたろう)がゆるさない!!



妖怪があばれはじめた

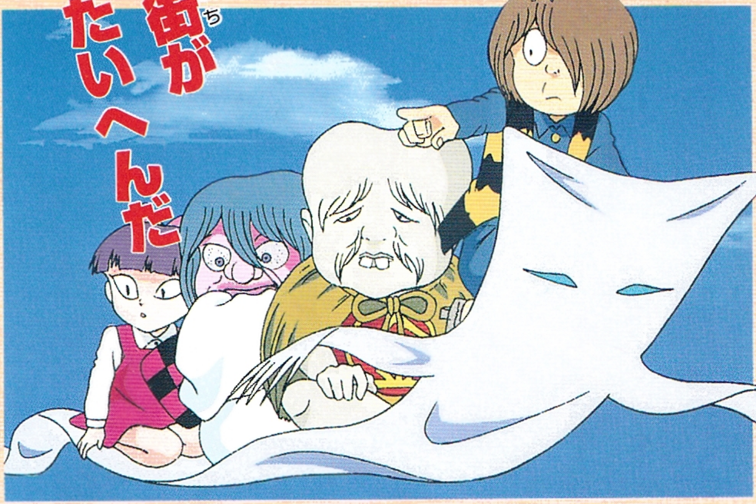
人間を襲う妖怪、といっても妖怪ばかりが悪いわけではない。妖怪がひっそりとトラブルをさけてくらしているのに、人間の身勝手が彼らを怒らせることもある。ご用心ご用心。





妖怪は腕力、あるいは超能力、はたまた知力など、何かしら人間の能力を上回っている。ただではかなわない。

天邪鬼


街（まち）がたいへんだ


夜叉（やしゃ）

怒りにわれを忘れた妖怪、あるいは生まれつき人間と対立する存在として現れた妖怪は強力だ。自衛隊が出動するほどのさわぎになったりする。しかも、相手によってはその近代兵器すら通用しない。人間の技術力をこえた力をもっているのだ。これはもはや地震や台風と同じで、人間は、だまって去ってくれるのを待つしかないのかもしれない。



命がけだぞ妖怪退治

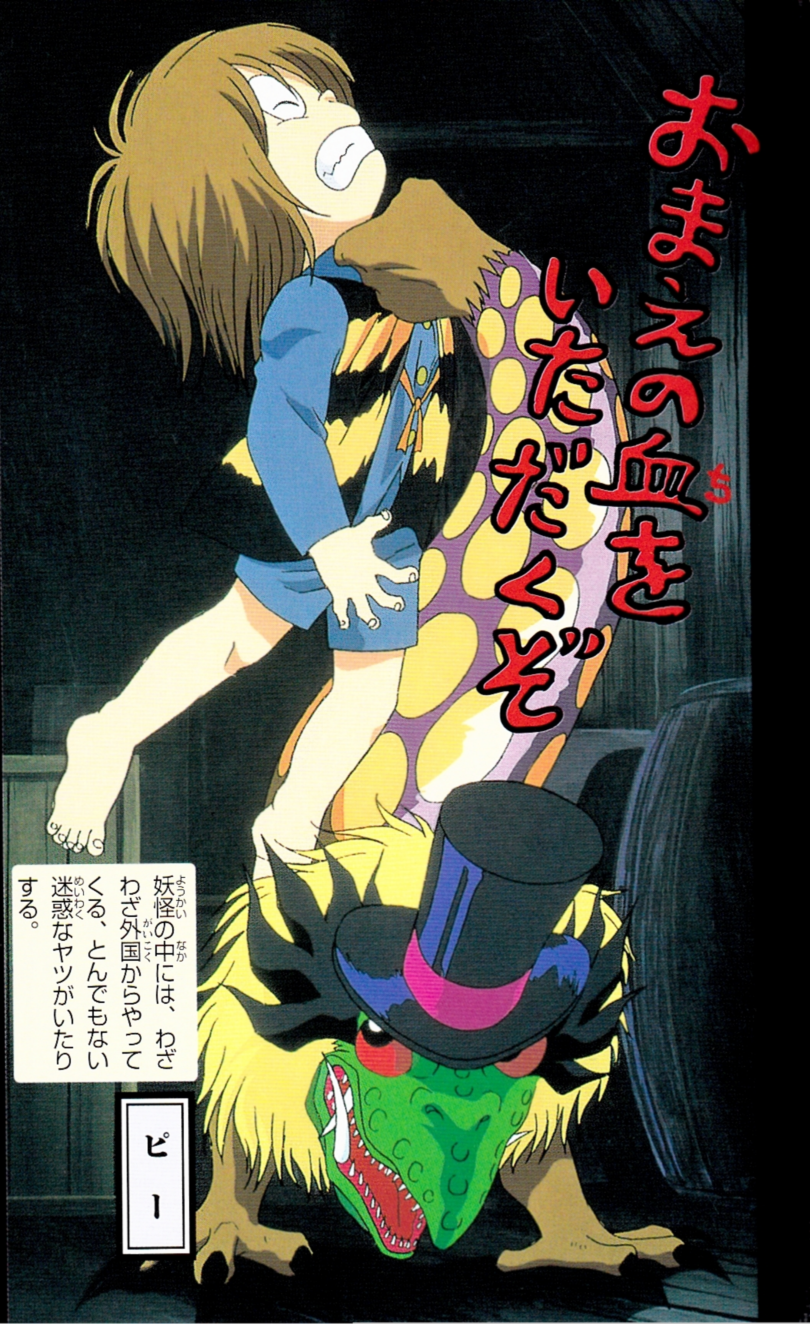




鬼太郎のたたかい

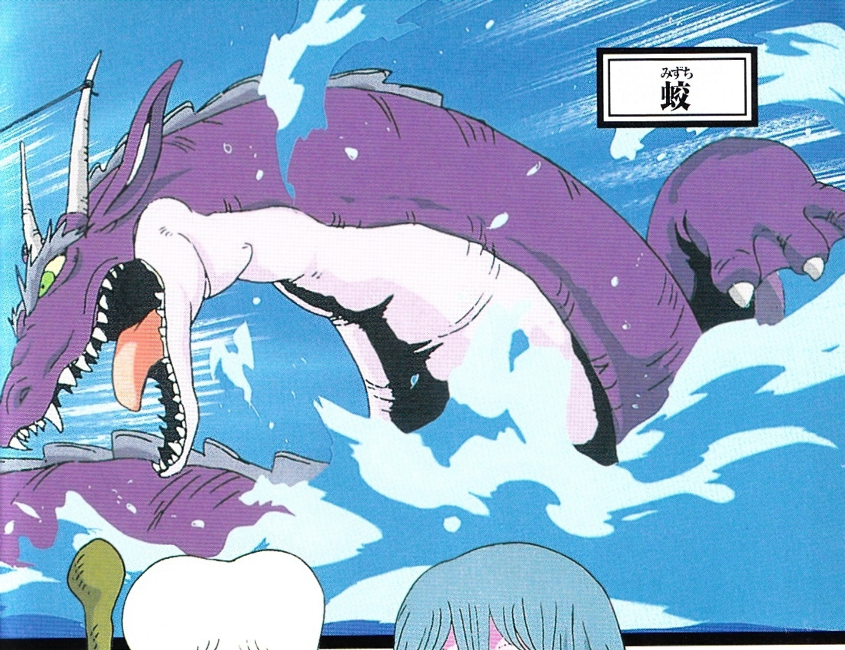
そんな超能力の妖怪に立ち向かえるのは鬼太郎しかいない。凶悪な妖怪ほど、その能力も強いものだ。楽には倒せないぞ。がんばれ鬼太郎!!

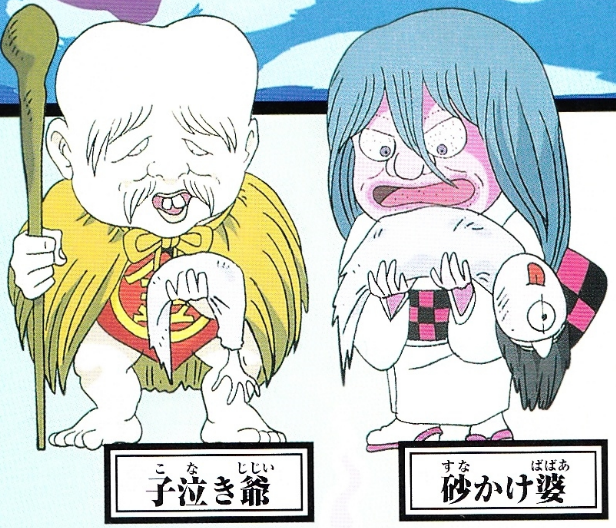

いただきま〜す
さざえ鬼
鬼太郎大ピンチ!!
おまえをくしざしにしてやる
陰摩羅鬼


おまえの血をいただくぞ
妖怪の中には、わざ
わざ外国からやって
くる、とんでもない
迷惑なヤツがいたり
する。
ピー


ぬりかべ〜
ぬりかべ
一反木綿
開始!!
仲間が助けにやってきた。さぁ、力を合わせて敵をやっつけろ！


見上げ入道がその巨大な姿を現す！立ちふさがるのは怪力ぬりかべ。先へはいかせないぞ!!
鬼太郎反撃





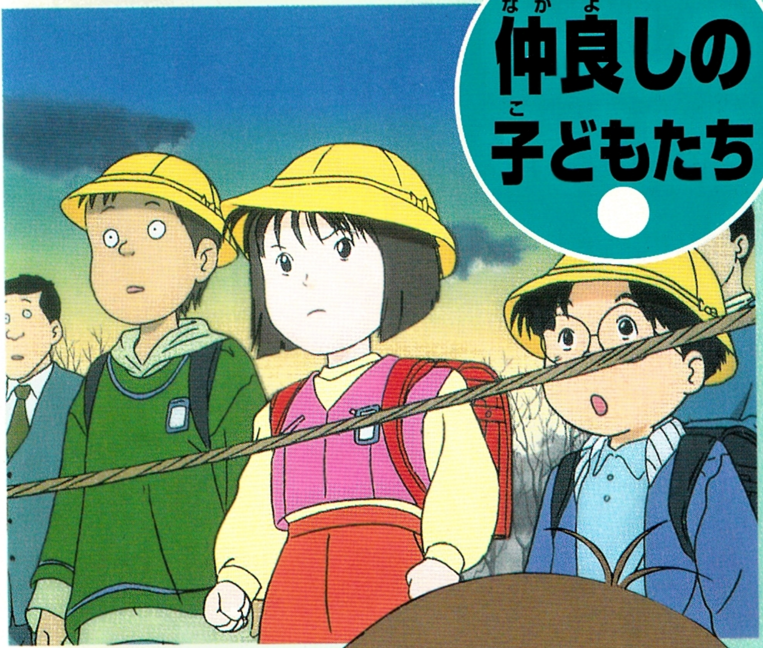
鬼太郎のピンチには、いつもかけつけてくれる砂かけ婆と子泣き爺。人生（?）の大先輩だ。目玉おやじの信頼もあつい、とってもたよりになる仲間なのだ

鬼太郎の心強い仲間たち!!



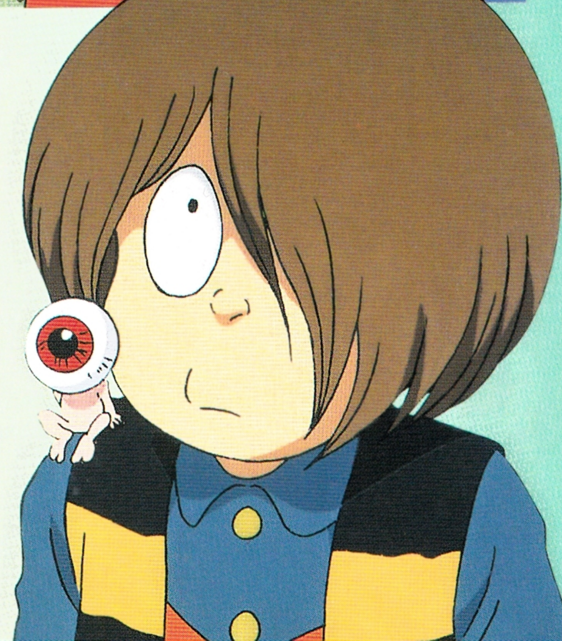
ねこ娘
いつもはやさしいねこ娘も、怒ると怖い妖怪なのだ！
みんな、いつも助けてくれて、ほんとうにありがとう。これからも、人間と妖怪の平和共存のためにがんばろう!!

仲良しの子どもたち



鬼太郎の仲間は妖怪だけではない。妖怪を差別せず、仲良くしてくれるものはみんな友達なんだ。

祐子、淳、翔太の3人は、いつも鬼太郎に事件を通報してくれるんだ。




'96夏の東映アニメフェアで公開された
迫力の映画を紹介するぞ!!
誌上アンコール劇場
ゲゲゲの鬼太郎
大海獣

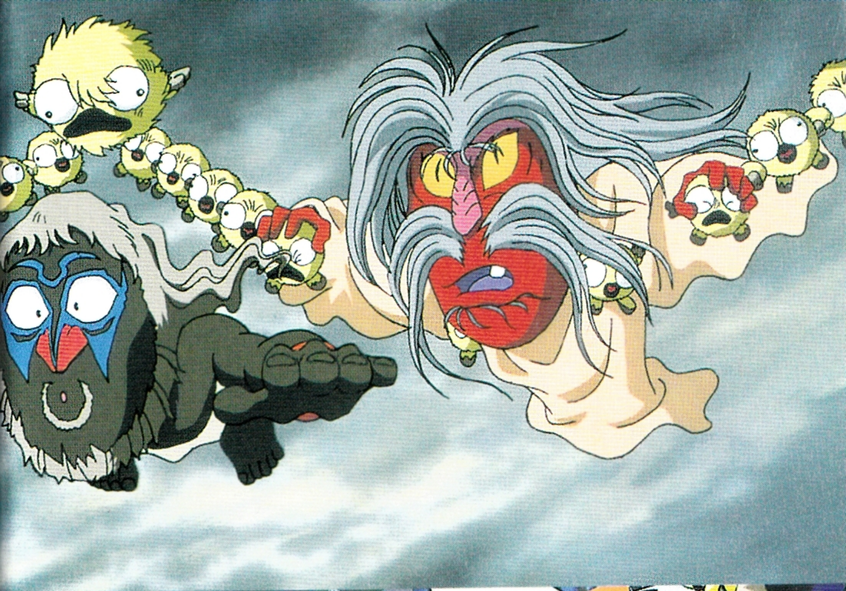
生命の神秘 ゼオクロノドンの復活!?

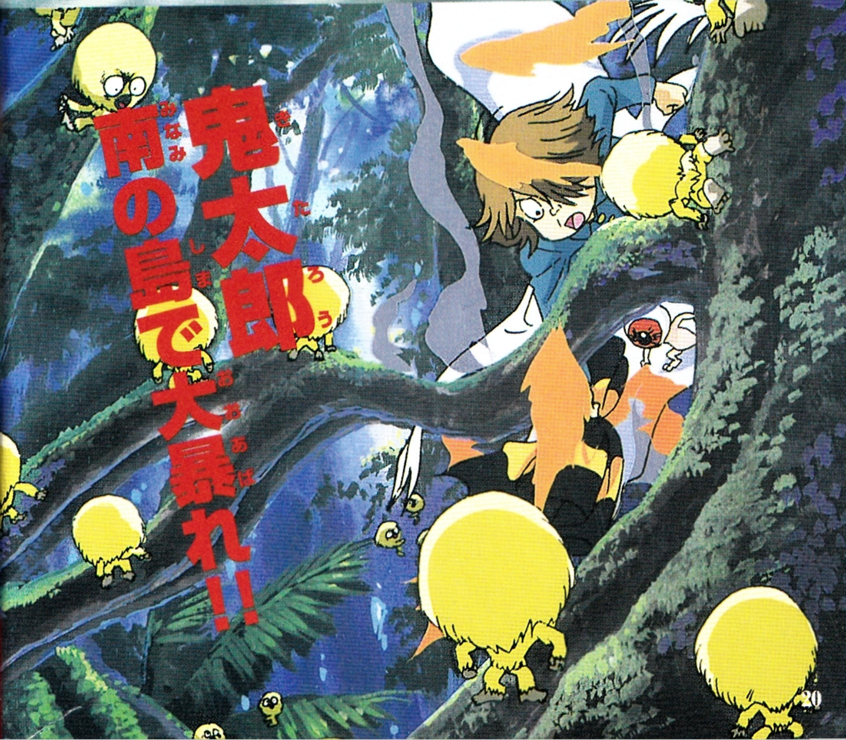
南の島のバルル島民が恐れる妖怪・アカマタ。そのアカマタたちが『神』と呼ぶ、太古の大海獣ゼオクロノドン!! 妖怪たちの聖地にいるというそのクジラの祖先は、一体どんな力を持っているのだろうか?! 今、その正体が明らかに!!



大海獣
ゼオクロノドン

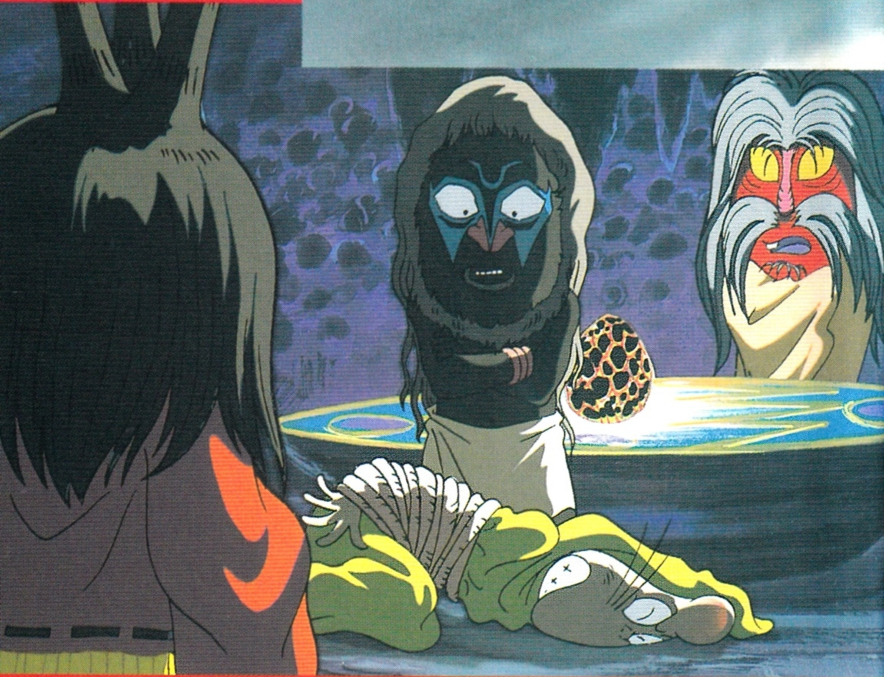

太古の眠りをやぶり
破滅と恐怖をもたらすのか!!?




鬼太郎
南の島で大暴れ!!

怒れる南方妖怪が日本に上陸!!





またも余計なことをして、ねずみ男は捕まった！



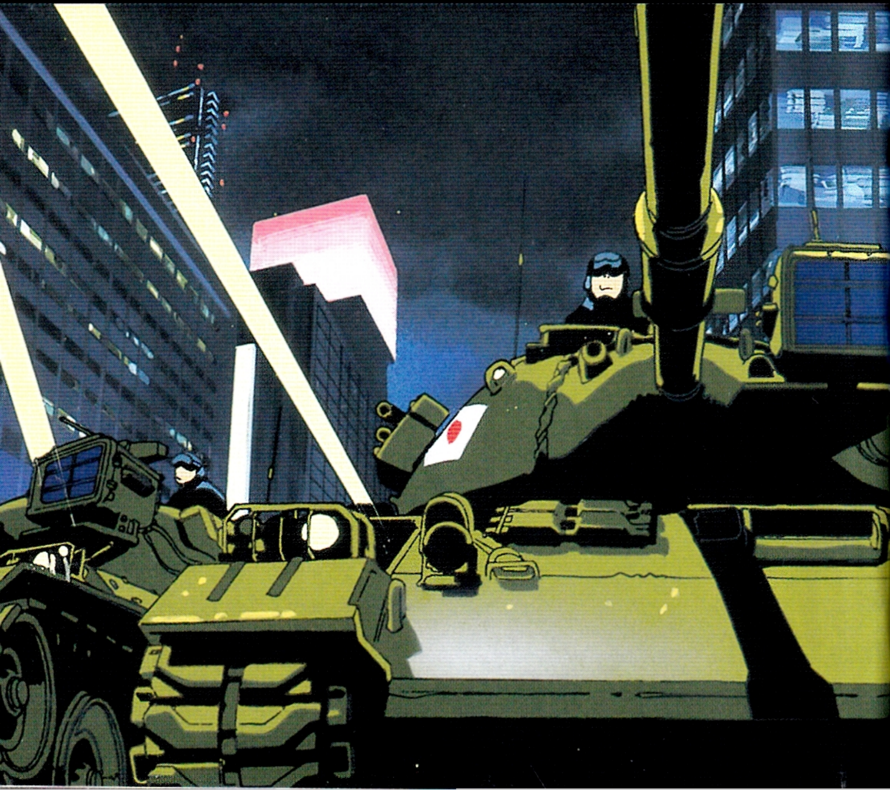
とつじょ羽田空港に出現した大海獣ゼオクロノドン！　ジャンボジェット機がおもちゃのように、管制塔が積み木のように壊されていく!!
大海獣を倒す方法はあるのか？

大海獣日本上陸!!

ゼオクロノドンの進路上には国会議事堂が！　市街地での砲撃をしぶる防衛庁長官であったが、ついに攻撃命令をだす！

集結する戦車隊。飛び立つ戦闘機。ついに自衛隊は本格的な戦闘行動のために出動する！

はたして自衛隊じまんの兵器群は、太古の神秘であるゼオクロノドンを、撃退することができるのだろうか?!







大海獣の正体は鬼太郎!?　ゼオクロノドンの化石が浮かぶ泉の水『命の水』は、不老不死の薬だというのだが……?


熱帯の島・バルル島に眠る
これが巨大海獣
ゼオクロノドンの骨だ!!
アカマタたちの『ご神体』は化石だった。彼らの超能力は、これを復活させるのか?!
くわしくは
106ページへGO

ふだんの鬼太郎はのんびり屋学校もない試験もない

主題歌にも歌われている通り、ふだんの妖怪の生活はのんびりとしているにちがいない。

しかし、人間には学校も試験もある。会社も仕事もあるし、病気になるし、死ぬ。そんなめんどくさいことは、妖怪たちは大きらいなのだ。お金だって必要ない！



今日はちょっと温泉気分

だから、妖怪たちには人間の気持ちがわからないのだ。その間に立って、鬼太郎はおたがいの理解を深めてほしいと願っている。
そのためには鬼太郎は命だってかけるんだ。まずは人間同士、そして妖怪とも仲良く暮らせることができれば、きっと楽しいよ。

鬼太郎は人間と妖怪が仲良く暮らせるようにがんばるぞ



MIZUKI SHIGERU ROAD

鬼太郎の街出現!!

鬼太郎の生みの親、水木しげる先生は鳥取県は境港市の出身。その境港に鬼太郎たちがいるという！



鳥取県 境港市 水木しげるロード

いま、境港市にはこのページに載っているような、鬼太郎をはじめとする妖怪たちの、彫刻による像がズラリと立ちならぶ通りがあるのだ！　その数なんと80体というからスゴイ。どんな妖怪たちと会えるかな？

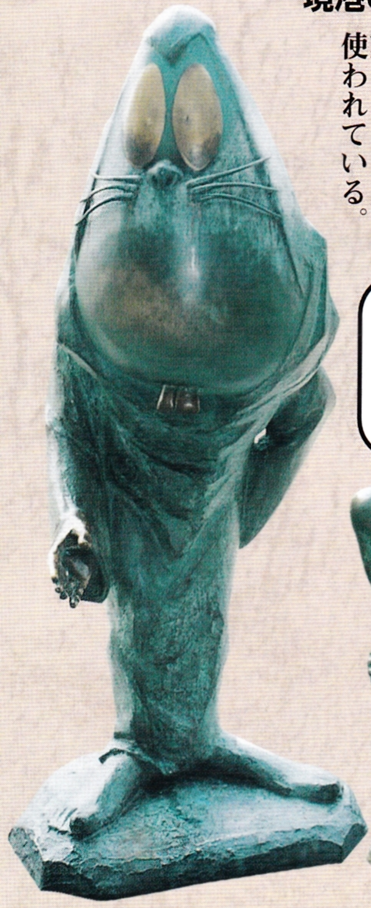


境港の駅



鬼太郎の機関車が走る!!

おや？ この機関車には鬼太郎たちが描いてあるぞ！ そう、これは境港市と隣の米子市をつないでいる、境線の鬼太郎機関車なのだ！ 主に通勤、通学に使われている。





こまったことがあったら
妖怪(ようかい)ポストに手紙(てがみ)を
入(い)れよう…
カランコロンとゲタの音(おと)…
鬼太郎(きたろう)がやってくる





このモデルは編集部でイメージし、作ったものです。


戦いすんで日がくれて…
苦しい戦いも、みんなが仲良くできれば、鬼太郎は忘れちゃう。さあ、カラスに乗って帰ろう！

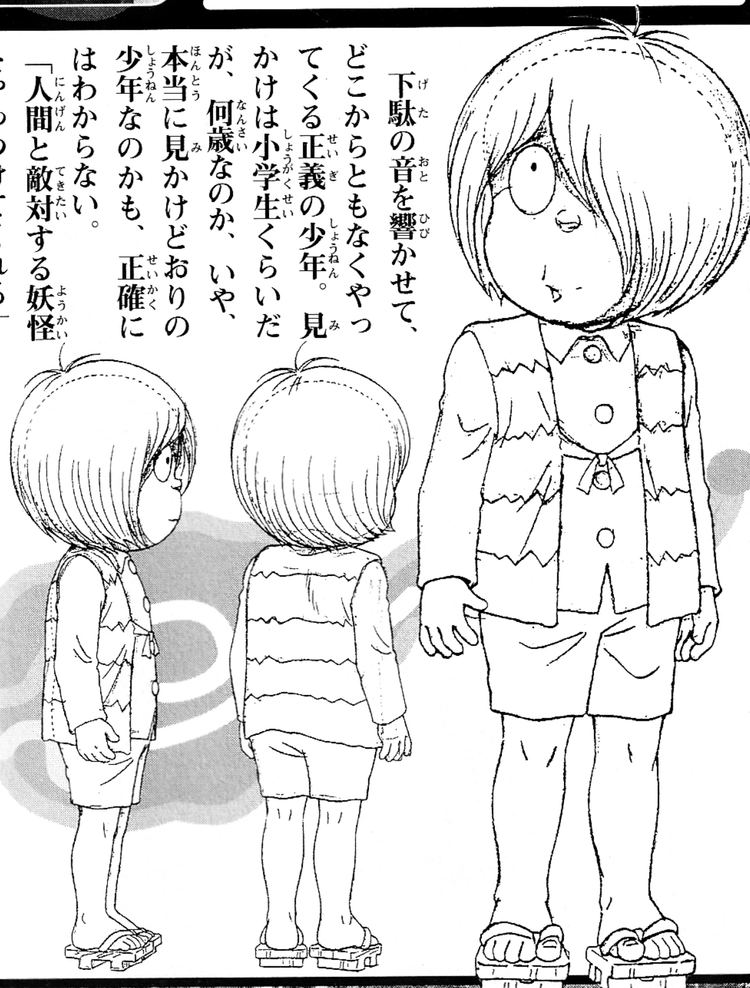


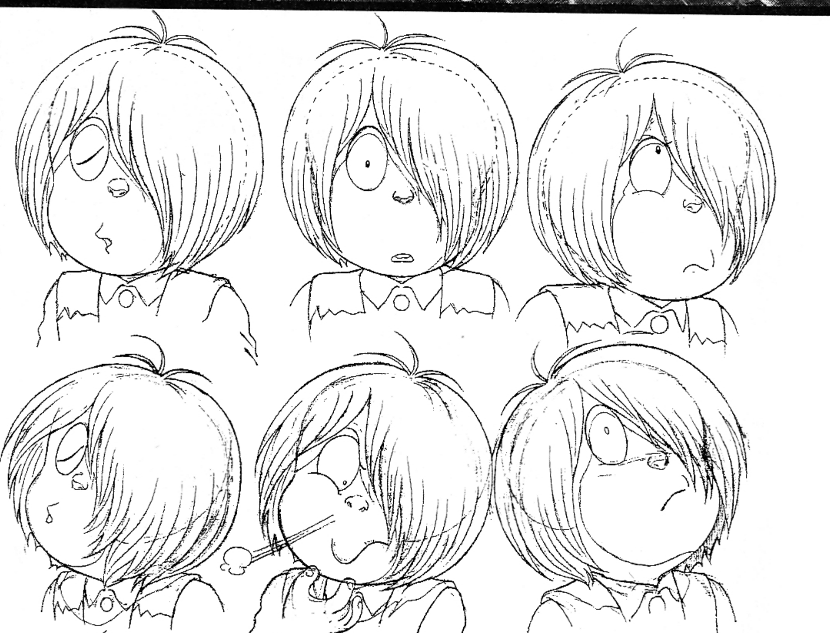
大公開



鬼太郎の秘密

下駄の音を響かせて、どこからともなくやってくる正義の少年。見かけは小学生くらいだが、何歳なのか、いや、本当に見かけどおりの少年なのかも、正確にはわからない。「人間と敵対する妖怪をやっつけてくれる」







と思われているようだが、彼は人類誕生以前にすぐれた精神文明を築いた『幽霊族』の生き残りで、必ずしも人間の味方なわけではない。人間と妖怪が争っている場合、おたがいの言い分を聞き、必要ならば人間の方をこらしめることもあるのだ。

　ではそのすごい超能力の数々を、次のページから紹介していくぞ。いくつ知ってるかな？

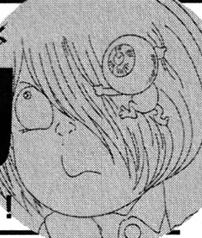




鬼太郎の家

鬼太郎の超能力

人知を越えた神秘の戦闘力だ！



髪の毛バリ

鬼太郎がもっともよく使用する超能力のひとつ。髪の毛が針のようにかたくなって、鬼太郎の思った方向へ猛スピードで飛びだす。
目つぶしや足どめに力を発揮し、相手をパンクさせたこともあるが、かたい妖怪にはきかないこともある。
使用後、髪はすぐ生えてくるようだ。



髪の毛バリを使うようす。まるでマシンガンだ！



髪の毛づな

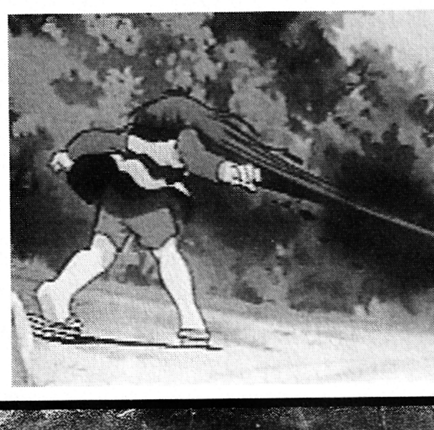
こちらは髪が長くのびて、敵をからめとったり、しばりあげたりする。細ひものようにしてロープのように使ったり、網のように使ったり、自由自在だ。かんたんに切られることもない。











長さも思ったとおり。大きな敵でもへっちゃらだ

リモコン下駄

先祖から伝わったという下駄で、いくらはいてもすりへらない。

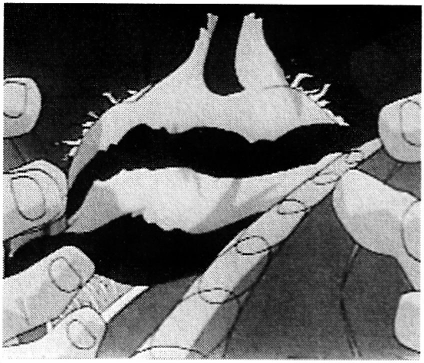
鬼太郎の思ったとおりに飛び、下駄だけを歩かせることもある。

戦いのときは主に敵にぶつける戦法をとるが、なにせすりへらない下駄であるから、そのかたさは並ではない。

鏡爺のときは、はげしく回転しながら空中でかみ合って、相手にぶつかる『ゲタトルネード』という技も登場した。

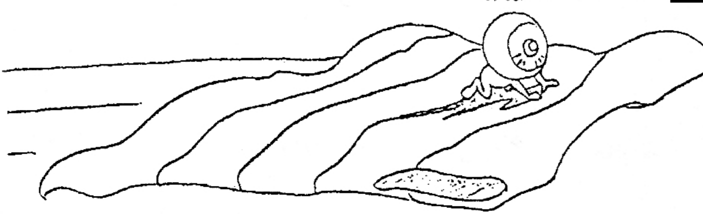


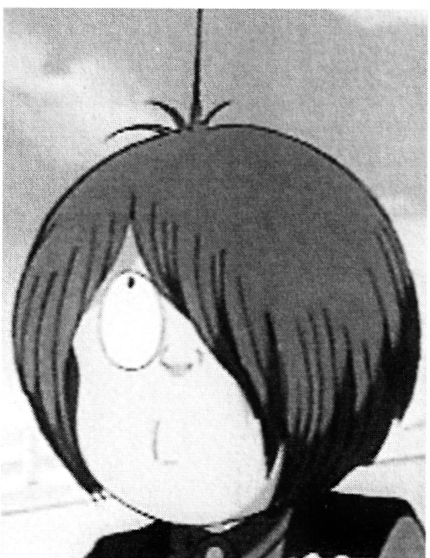




霊毛ちゃんちゃんこ

先祖の霊毛で編まれているという上着。鬼太郎の思ったとおりに動き、敵の攻撃をはねかえすこともできる。心強い鬼太郎じまんのアイテム。



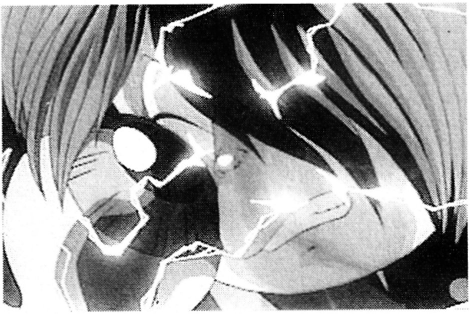


妖怪アンテナ

人でないものの霊気や妖気を感じると、髪の毛がさか立って知らせる。相手のいる方向、距離、強さなどが、かなり正確にわかる。受信範囲はけっこう広いようだ。

放電

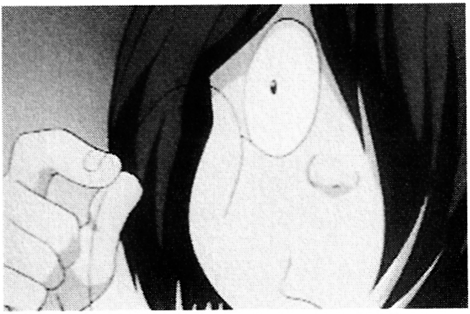
電気ウナギのように、強い電気をだすことができるので、体が動かせなくても攻撃ができるのだ。

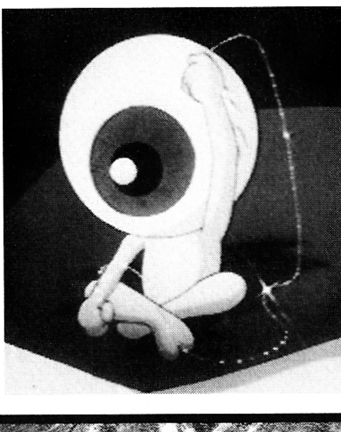


さざえ鬼の毒で動けなくなってしまった鬼太郎は、放電で抵抗するのだった

髪の毛電話

鬼太郎の髪の毛は、相手の頭に接触させると直接脳と会話ができるテレパシー増幅機能があるのだ。





雨ふり天狗の帽子にかくれ、あばれる事情を聞きだそうとする目玉おやじ



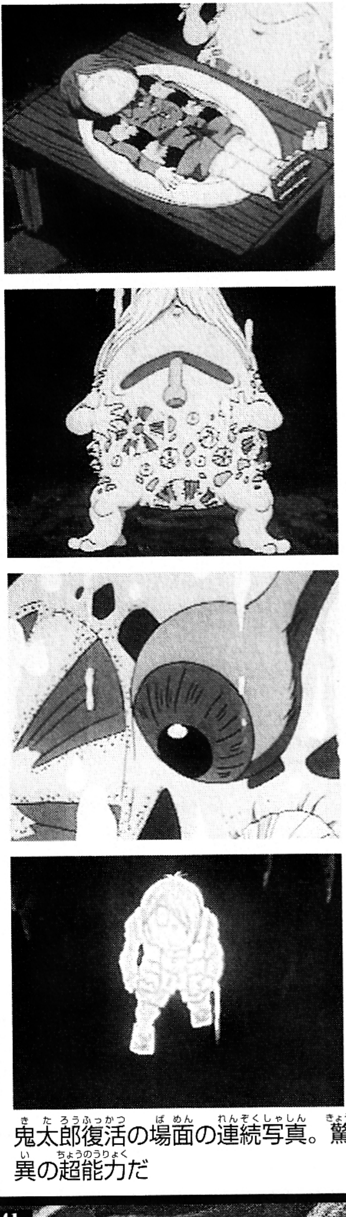
復活の能力

超能力の妖怪と戦う鬼太郎は、たびたび危険な目にあっている。人間なら死んでしまうような打撃を受けてもだいじょうぶだったり、あるいは、ほとんど死んでいるのに生き返ったりするのは、人間にはない強い霊力があるからだ。

左の写真はさざえ鬼に岩でつぶされてペラペラになってしまい、塩・コショウで食べられてしまう鬼太郎。この後、鬼太郎は汗のようになってさざえ鬼の体の外へ流れだし、空中で固まって復活した。

他にも、餅にされたり、牛鬼にされたり、吸血鬼にされたりと、さんざんな目にあっているが、最後は必ずもとにもどっている。

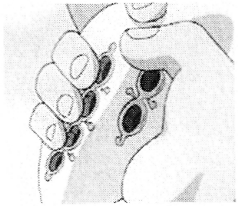
それから、ちゃんちゃんこに妖力を集める、『妖怪竜巻』という技もある。



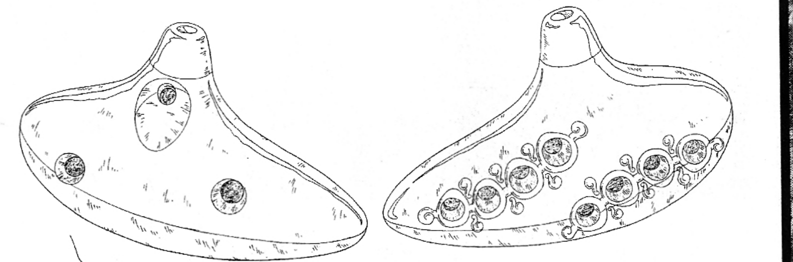
鬼太郎復活の場面の連続写真。驚異の超能力だ

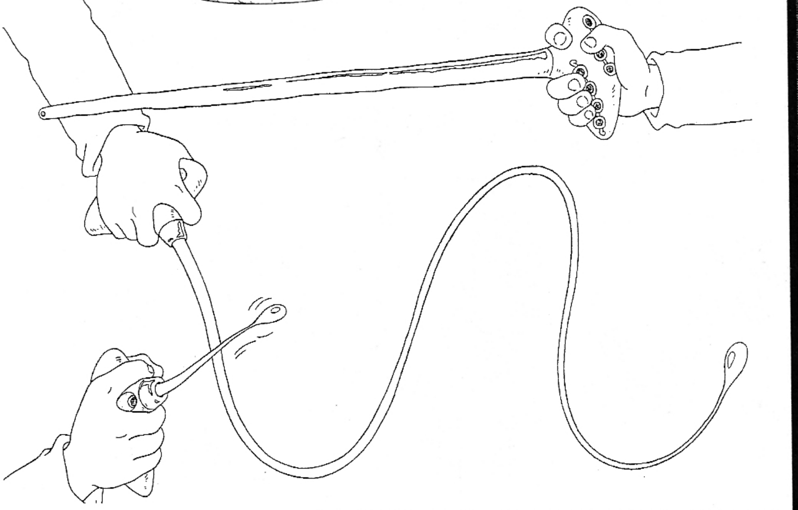
妖怪ぶえ（オカリナ）



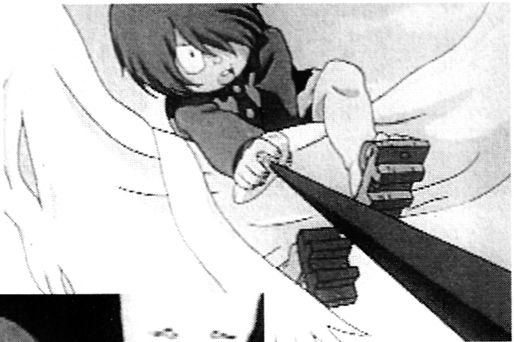


いつも鬼太郎がふところに持っていて、その笛の音で仲間を呼んだりすることにも使われる。
　下の絵のようにスティックやムチにもなり、鬼太郎の意思で自由に使いわけることができるのだ。もちろんふえとして使うこともできる。やはり吹くのは「ゲゲゲの鬼太郎」なのか？



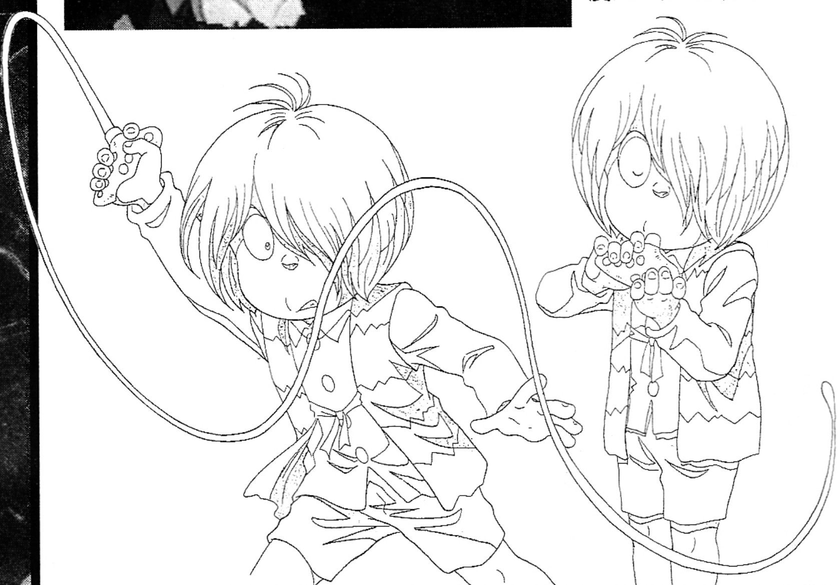


一反木綿に乗って、空中からムチの一撃！こりゃ痛いぞ！





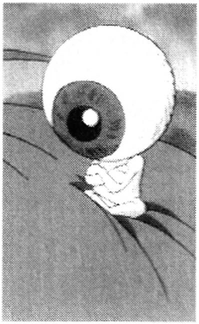
ムチをからませ相手の動きを封じる。その速度はマッハの速さ！

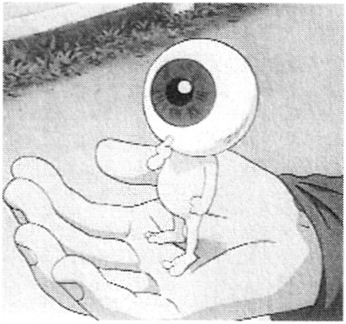


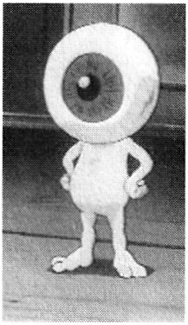
鬼太郎の仲間たち



鬼太郎とともに活躍する日本の妖怪実力者



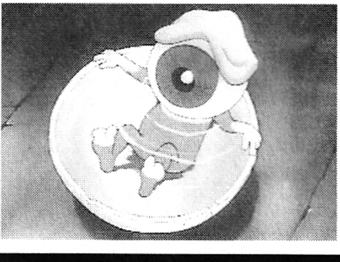


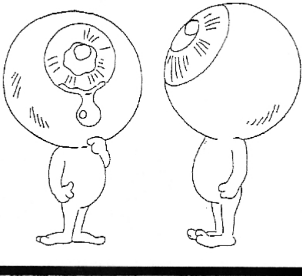


目玉おやじ

鬼太郎のお父さんだが、鬼次郎とか鬼三郎といった名前はなく、「おやじ」と呼ばれている。もともとはちゃんと体があったのだが、死後、まだ小さかった鬼太郎のことが心配で死に切れず、目玉だけが生き返ってきたのだ。

特にすごい力は持っていない（目玉だけで生きていることがスゴい、という話もある）が、妖怪の正体や弱点にくわしい。

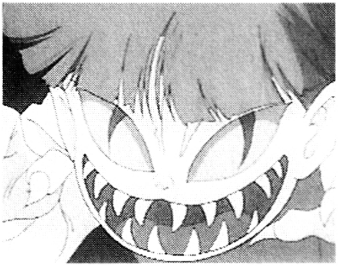




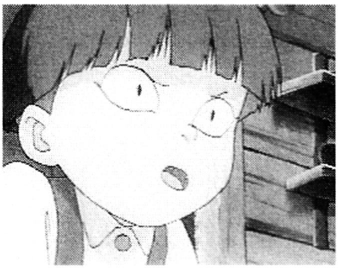
茶碗のお風呂が大好きで、いつも入っている

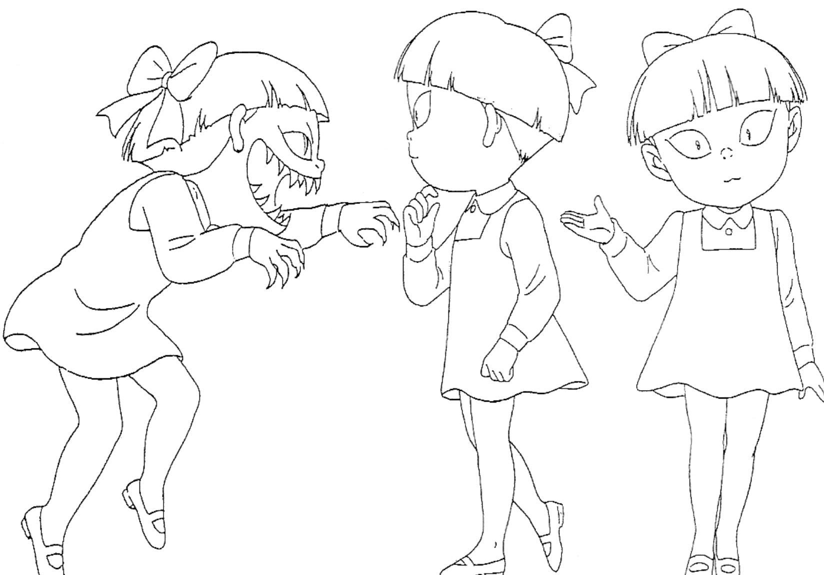
ねこ娘

鬼太郎のガールフレンド。ふだんは人間とそう変わらない姿をしているが、怒るとすさまじい顔になる。必殺技はかみつきとひっかき。見た目よりはやさしい妖怪だ。



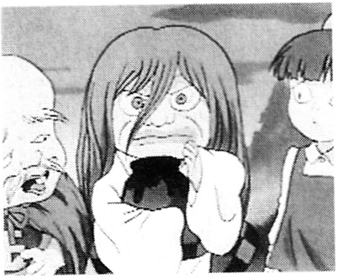


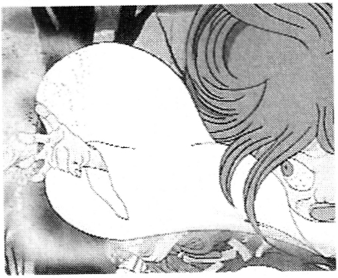




砂かけ婆

おばあさんの姿をした妖怪で、50年以上生きているらしい（若いころは『砂かけ娘』だったのか？）。戦うときは、砂をまいて相手の動きを止める他、粉薬をまいてさまざまな効果をもたらしたりもする。目玉おやじに次いで妖怪にはくわしいぞ。





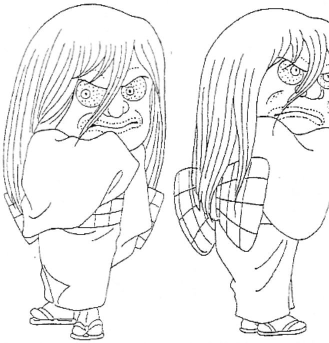




砂マシンガン

手先から、すごいいきおいで連続して砂を噴射する荒技。

ふだんは目つぶし程度の攻撃のようだが、これはかなり痛い、攻撃的な技といえる！



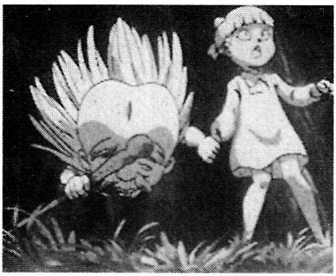
子泣き爺

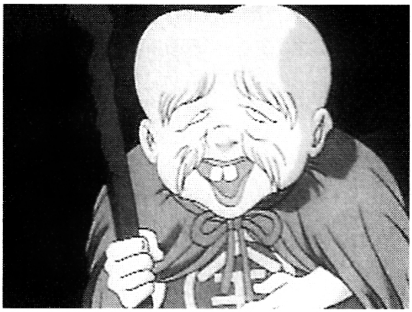
おじいさんの姿をした妖怪。赤ん坊のような声で泣き、その一声ごとに体が重くなる。同時に石のようにかたくなり、電気や火にもたえられるようになるのだ。

ふだんは蓑と腹掛けを着けているが、羽織袴の礼服も持っていた。





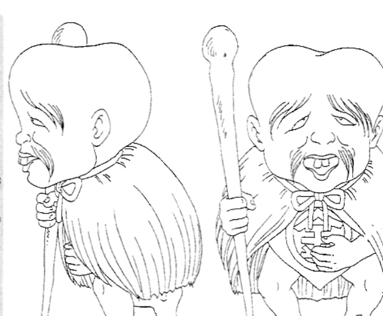




ごっつん頭突き

宙に飛びあがってかたくなりながら敵に頭突きを食らわせる技。

つかんだ相手を自分と同じようにかたくする、「めったにつかわない技」も持っているぞ。

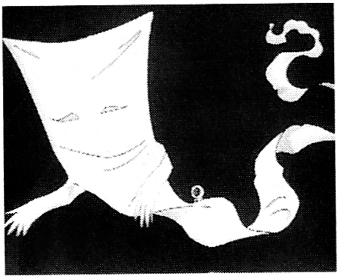


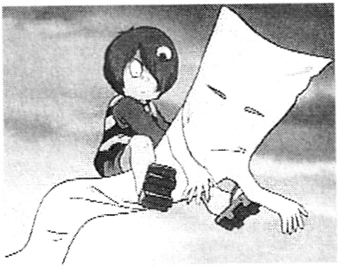
一反木綿

ヒラヒラと空中を飛ぶ布の妖怪。鬼太郎たちを乗せて現場へ急行する。

敵に巻きついて息をつまらせたり、はしの方をかたくして、ものをスパッと切ったりする能力を持つ。

鹿児島県の大隅地方にでるという妖怪で、現在も鹿児島弁をしゃべっている。



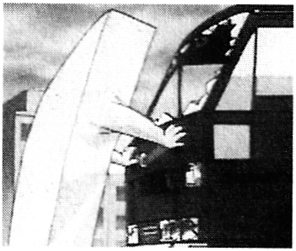


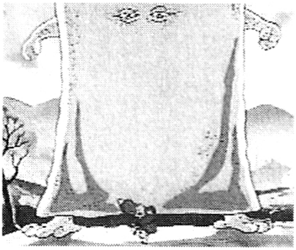
鬼太郎たちを乗せて現場に急行。
一反というのは約10.9メートル

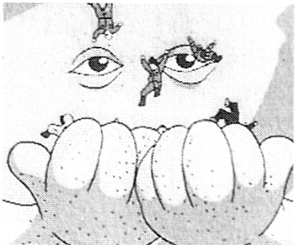


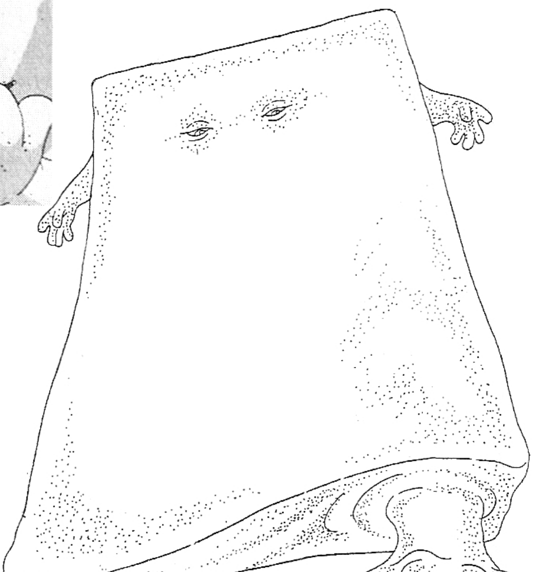
ぬりかべ

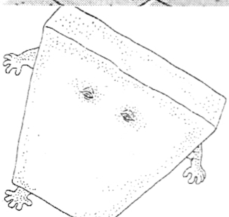
福岡県の妖怪で『塗壁』と書く。
巨体と怪力をいかして鬼太郎に協力。
敵を自分の体に塗りこめることもできる。
「ヌリカベ」としかいわない。
伝説では、とおせんぼうをする妖怪で、これに立ちふさがられると、いくら周りこんでも先に進めなくなるが、足下をはらうと消えるといわれている。



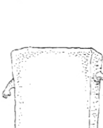












ねずみ男

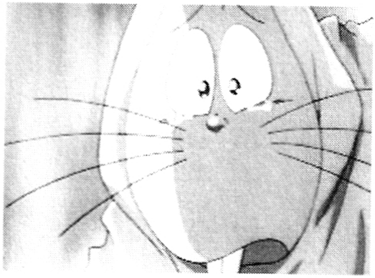


人間と妖怪のハーフだが、超能力はない。いや、どんなに不潔な環境でも死なない、というスゴい能力の持ち主。

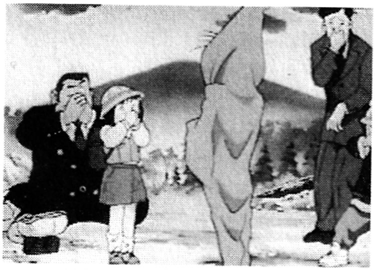
お金が大好きで、お金のためには平気で鬼太郎も裏切るが、考える商売はインチキばかりでろくな結果にならない。



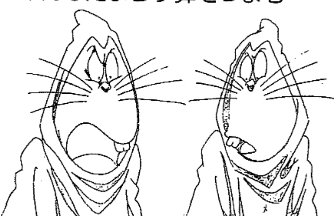


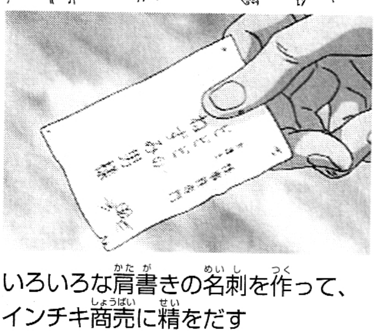


最後は鬼太郎に泣きついてくるのだ。
「200年風呂に入っていない」と豪語するだけあり、体も服（ボロ布）もたいへんクサく、口臭は武器になるほど強力である。



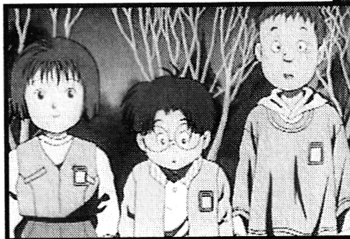
ねずみ男登場。そのあまりのクサさにみんなたまらず鼻をつまむ





いろいろな肩書きの名刺を作って、インチキ商売に精をだす

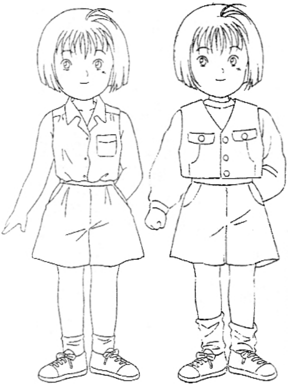




送信側妖怪ポストのある荒寺、茂林寺の近くにある小学校に通う、4年3組の仲よしトリオ。
祐子が見上げ入道にさらわれた事件のとき、淳と翔太が手紙を書いて鬼太郎と知り合う。
それ以来、たびたび妖怪の事件に巻きこまれたり、友達の妖怪事件の相談にのったりするようになるのだった。
祐子は誰にでも親切なやさしい女の子。淳は体育が得意でわんぱくタイプ。翔太はゲームが大好きな男の子だ。

村上祐子





谷本　淳



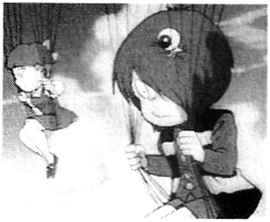


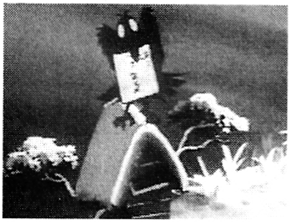
鈴木翔太

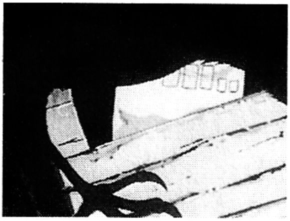




カラス

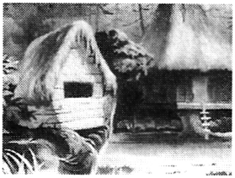






たくさん集まって、鬼太郎たちを運んで飛んだり（カラスヘリコプター）、鬼太郎の家まで手紙を運んだりして協力する。
動物たちは鬼太郎の友達だ。

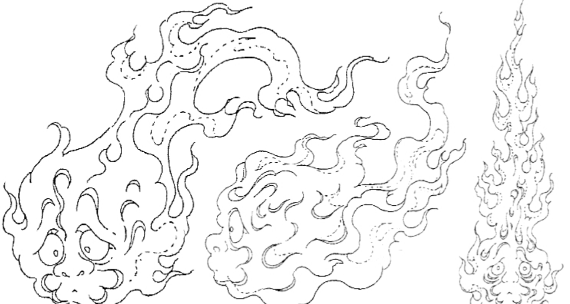
妖怪ポスト





人間から妖怪事件の知らせを受けるポスト。手紙は、妖怪に困っている人達が、妖怪ポストに入れる。そうすると、カラスが鬼太郎の家のポストまで届けてくれるのだ。
郵便局のおじさんが運んでくるわけではない。

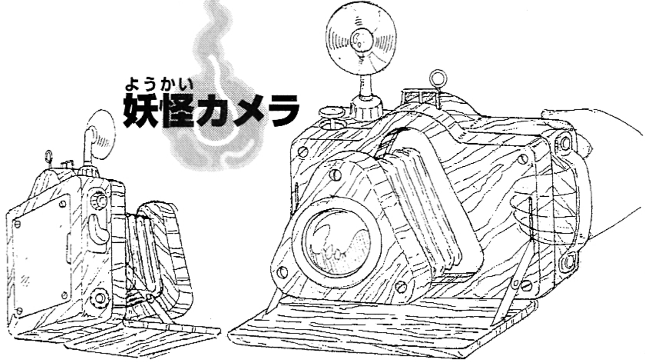
つるべ火



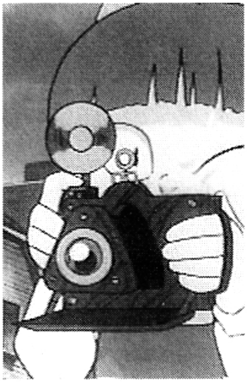
明かりとなって鬼太郎に手を貸す、人魂の一種

妖怪の不思議アイテム

妖怪カメラ



写したものを写真の中に閉じこめるオカルトグッズ。閉じこめられたものは、ネガフィルムに定着させられるのではなく、そのままプリントになって現れる、いわゆるポラロイドカメラ。目目連を捕らえるため使用。



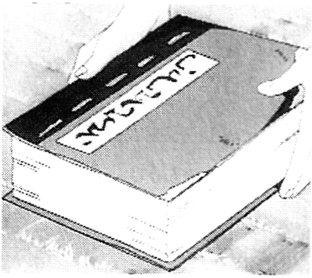
妖怪遠目鏡

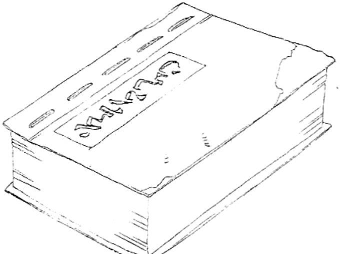
人の魂の健康状態を見ることができる、単眼鏡型のアイテム。くびれ鬼事件のときに使われた。他にも、虫眼鏡型の妖怪天眼鏡という透視眼鏡もある。





妖怪辞典

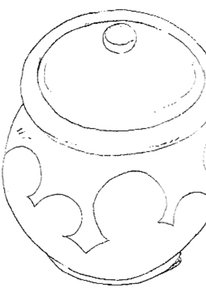




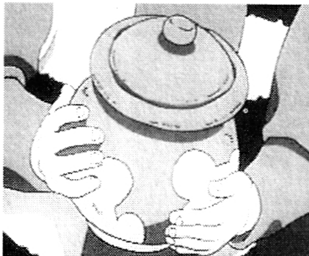
全国の妖怪のことがくわしく載っている、人間界の本に例えれば『人名辞典』のようなもの。

オカルトマニアあこがれの書だ。

分野別に何冊もあるらしく、猫仙人事件のときには猫族妖怪専門のものが登場した。



猫壺



すぐれた術によって、妖怪は小さな入れ物に封印することができる。

この猫壺は、猫仙人を封じるために用意されたものだ。

正体あばきの秘術

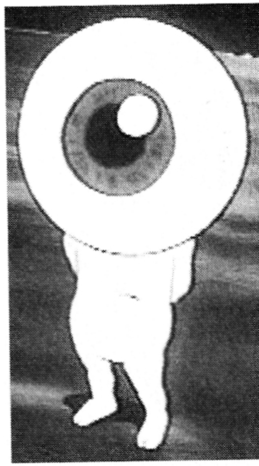
専用の紙を用意し、正体を知りたい相手に108の質問をする。答えに点をうっていき、最後の質問のあと、その点を結ぶと相手の本性が描きだされるという術。陰摩羅鬼の正体をあばいた。

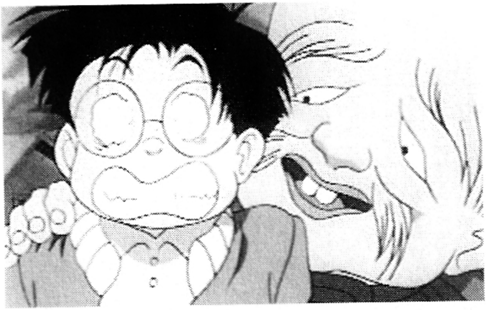




妖怪とは？…

そもそも妖怪とは何じゃか、
みんなは知っとるかな？
それについてすこし
考えてみるぞ

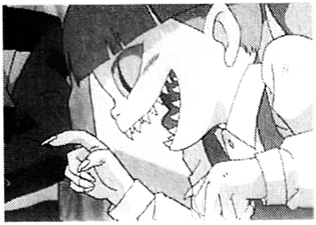




オバケと妖怪は違うの？

「オバケ」とは大ざっぱな言い方で、それには幽霊もふくまれるのじゃ。幽霊は死んだ人の魂が、何かの理由であの世へいけずに残ってしまったものじゃが、妖怪は「妖怪と呼ばれる生き物」なのじゃ。もちろん動物図鑑に載っているような生き物とは違うぞ。「姿形が変わっている」とか「超能力を持っている」というのは妖怪として必要な条件ではないのじゃ。「こういうものが妖怪である」と決めるのはむずかしいんじゃよ。妖怪を研究するのは民俗学という社会科の一分野じゃが、妖怪とは何か、正確に決めることができたものはいないんじゃ。





ふだんどこにいるの？

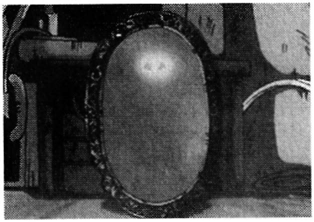
たいがいは人里はなれたところにおるのう。夜でも明るくて人通りのある都会のまん中におるヤツは少ない。妖怪もふだんは人間とのトラブルをさけたいんじゃ。

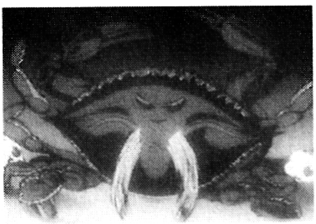
あとは、その昔に悪さをして、神様やえらい坊さん、強い武人などに封印されたものもおるぞ。

妖怪のタイプはいろいろ

幽霊も、強いうらみの心で妖力が増したりすると、妖怪に変わってしまうこともある。付喪神というのは、古道具に命が宿った妖怪じゃ。ものを大切にせんと仕返しされてしまうぞ。うんと長生きした生き物、あるいは心残りのあるまま死んだ生き物も妖怪になることがあるんじゃ。他には、最初から妖怪として生まれたとしか思えんものもおる。そうでないものは『変化』と呼んで区別することもあるんじゃ。







なぜ妖怪はあばれるのか？

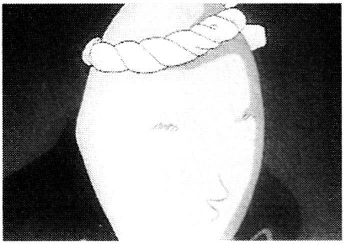


自分たちの欲望を満たすために

妖怪といえども生き物だから、何か食べなければならない。その食べ物が人間の体だったり、あるいはその魂だったりしたら……。とすると、人間も他の生き物を食べているわけだから、妖怪にも言い分はあることになる。でも、人間も食べられまいと抵抗するから、どうしたって衝突するわけだ。



それよりもタチの悪いのは、必ずしも獲物は人間でなくてもいいのに、あえて人間を襲ったり（たいていは「人間がウマいから」というが……）、人間を何かの材料にしようとしたり、ヒドいのはおもしろ半分に人間を襲ったりする「悪い妖怪」だ。





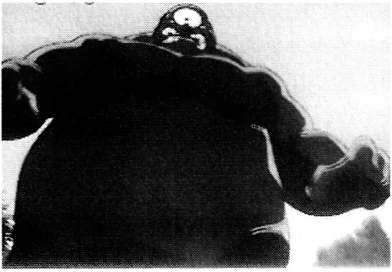
のっぺらぼうは顔、輪入道は魂が食べ物。輪入道の方が怖い？

人間の自然破壊と器物をそまつにする行い

誰かが、べんりな生活のために開発をする、ということ自体は悪いことではない。だが、そのために他のものをふみつけにしていい、ということにはならない。また、今まで役に立ってきてくれた器物を、古くなったからとかんたんにすててしまうのも考えもの。ぜいたくな習慣は、最後には自分の首をしめることになる。

妖怪の出現、というのは、そういう行いに対する警告でもある。「妖怪なんて本当はいないじゃん」とそこで笑ってるキミ。自然があることをあたりまえと思い、ものがあることをありがたいと思う気持ちを忘れてしまうと、妖怪に襲われるより恐ろしい結果が待ってる。







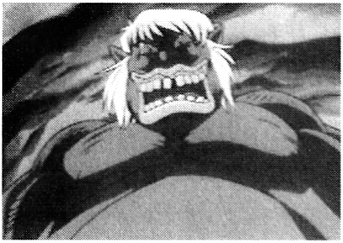
やむをえない世の中の変化といわれても…。納得できないおぼろ車

人間やねずみ男が封印を解いてしまう

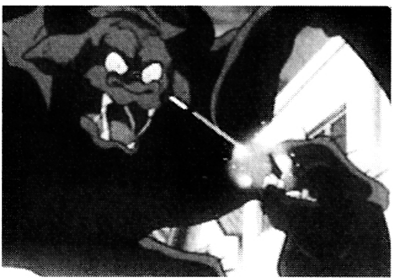
　封印とは、神様や仏様の力をかりて、妖怪や魔物を人間と出会わないところに閉じこめてしまうことだ。それが行われた場所には、お札がはってあったり、仏像がおいてあったり、しめ縄がはってあったりするが、これを取ってしまうとたいへんなことになるのだ。

　封印されている、ということは、人間にとっては敵であり、しかも人間の力ではたおせない、ということだから、とてもやっかいな妖怪だということになる。

　似たようなパターンに、相手が神聖な場所として大事にしているところに、無神経に入りこみ怒りを買うというのがある。いわくのある場所にはやたらに近づいてはダメ。

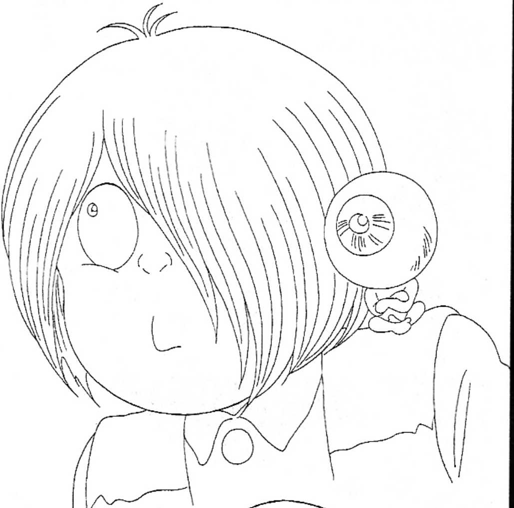


ひさしぶりに封印を解かれた天邪鬼はあばれたくてウズウズ





妖怪と仲良くつきあうためには…



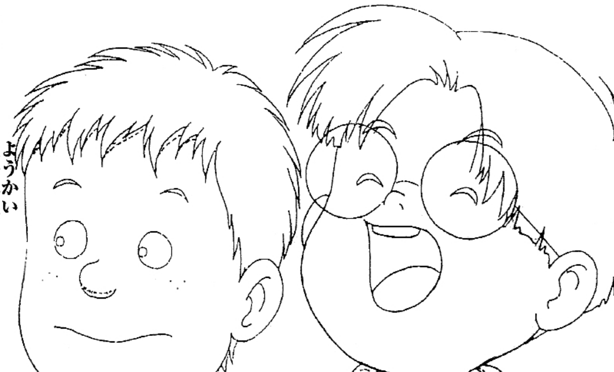
妖怪は人間と会話ができる。きっとボクたちの心も通じるはずだ。どうしたらおたがいに何の得もない争いをやめられるか、キミたちも考えてみてね



自然は人間には作れない。古くなったものにはお金では買えない思い出がある。そして昔の人の考えがすべて『迷信』なわけではないぞ。科学技術だけが正しいとか、お金があれば何でもできる、などとそればかりに気をとられすぎず、ちょっと周りを見てみれば、新しい発見がいろいろあるかもしれないぞ！



みんなも妖怪と仲良くできるかな？



妖怪紳士録

鬼太郎と戦った妖怪たちをここで大紹介！
キミはいくつの妖怪をおぼえているかな!?



見上げ入道











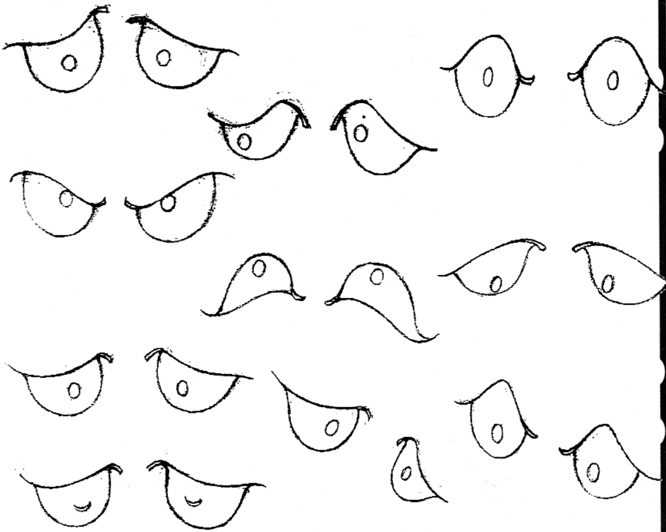
石碑（写真下）を蹴飛ばしたために封印が…

見上げれば無限に大きく

はじめは小さな姿で現れ、目撃者が見上げる限り無限に大きくなるという妖怪。見越し入道ともよばれ、全国的にでるらしいが、劇中では工事で自然が壊され、封印がとかれたために出現した、という設定になっている。

これに襲われたときは「見上げ入道見越した」というと難を逃れる、と伝えられており、鬼太郎もそうして封印した。

目目連

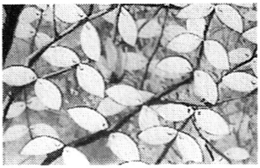


木連の里を取りかえしに

廃屋のしょうじなどに、とつぜんたくさんの目が連なって現れる、という妖怪だが、人の命をうばうような悪さをした、という記録はない。

劇中でも、自然を愛する温厚な性格で、人間にすみかをうばわれたため、やむなくおどしにきたことになっている。

あらゆるものに自由にとりつき、それを思うままに動かす力があるようだ。





鬼太郎のちゃんちゃんこにもとりついた！

夜叉



本体





地獄の手

ギターの音に要注意！

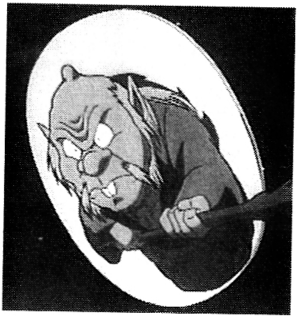
食料となる魂を、ギターを弾いて墓場から集めていた。生きているものから魂をぬくこともできる。体の部分はただのボロ人形で、本体は髪の毛の部分だが、妖力は強い。

インドの神話にでてくるヤシャ（あるいはヤクシャ）という魔物が仏教とともに日本に伝わったものである、といわれている。



本体が離れてしまえばこのとおりただの人形

鏡爺







古いものには命が宿る

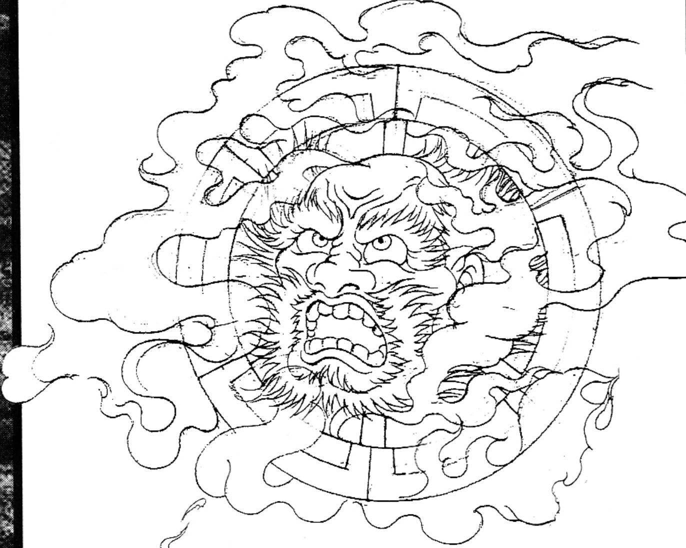
祐子たちの通う学校の古い鏡に宿っていた妖怪。おばあちゃんが小学生だったころから学校にあり、ずっと子どもたちを見守っていた。鏡の世界の中では強い力を持つ。

「かがみ」という日本語は蛇（ヘビのこと）見の意味で、神聖な蛇の目のように輝くもの、ということで、霊験あらたかである、と昔の人は考えていたようだ。



鏡のむこうとこちらを自由に行き来できる

輪入道



よくばると不幸をまねく

夕暮れになるとすさまじい勢いで都の大通りをかけぬけ、人の命をようしゃなくうばう恐ろしい妖怪と伝えられている。鬼太郎と戦った妖怪のうちでもかなりの強敵で、生き物の魂をぬき取り、ダイヤモンドに変えてしまうという技を使い、大苦戦させる。

心がきたないものほどきれいなダイヤに変わる、というのはなんとも皮肉な話。





魂をツルリとひとのみする

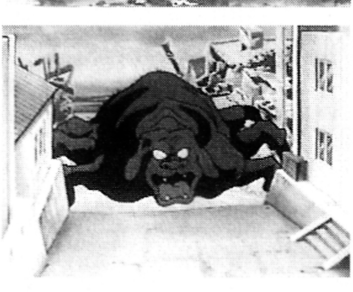
牛鬼



無限にあばれ続ける恐怖

自分を殺したものにとりつき、ふたたび新しい体で復活する。とりつかれたものは身も心も牛鬼になってしまい、破壊の限りをつくす、という恐ろしい妖怪なのだ。
言い伝えでは、牛鬼は正しい行いをすると死んでしまうので、いやでも悪事を働き続けるしかない、ともいわれている。





カルラ様





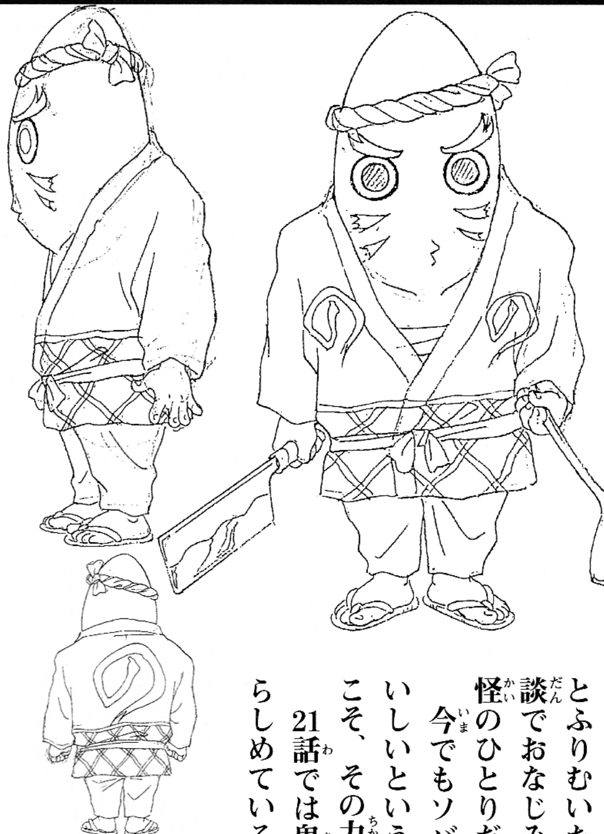
強力パワーの異国の神

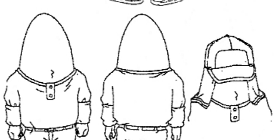
牛鬼を封じることのできる、おそらく日本でただひとつの存在。計り知れない能力と慈悲の心を持っていて、笛の音で牛鬼の暴走を止めることができる。牛鬼村では神社にまつられていた。

インド神話の神鳥ガルーダが日本に伝わったもの。仏教では、仏様の教えを守る天龍八部衆のひとりとされており、『迦僂羅』と書く。

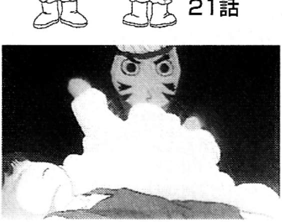


のっぺらぼう





21話

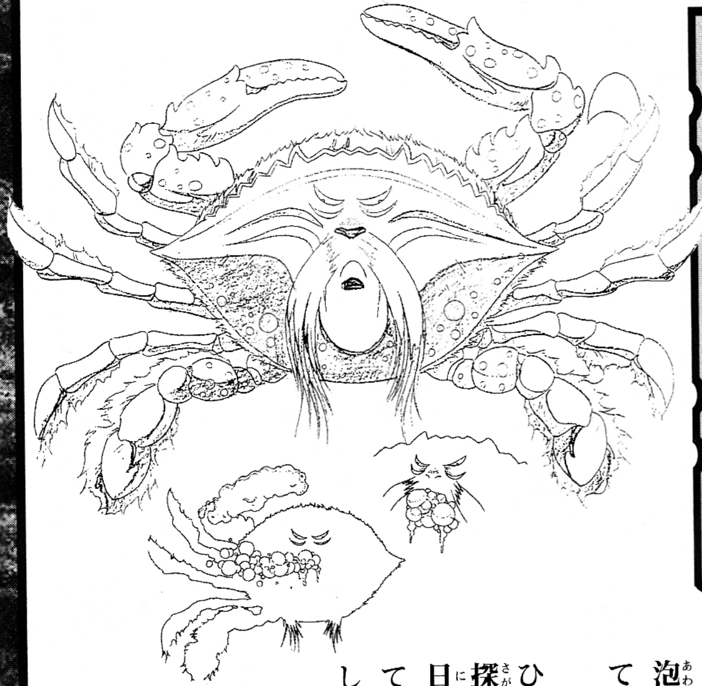


今も昔もソバ屋のおやじ

「そいつはこんな顔じゃなかったかい」とふりむいたソバ屋の顔は…。という怪談でおなじみ。妖怪の中でも超有名な妖怪のひとりだろう。

今でもソバ屋に化けていて、しかもおいしいという評判を取っており、厨房でこそ、その力を発揮するという律義さだ。21話では鬼太郎に協力して白粉婆をこらしめている。

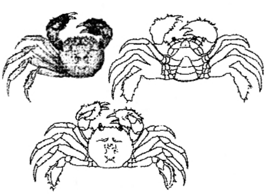
かに坊主



カニも長寿で妖怪になる

黒雲のような状態で現れ、口からはく泡をあびせられたものはいいなりになってしまうという能力の持ち主。

その昔、徐福［皇帝の命令で大船団をひきい、不老長寿の世界である蓬萊島を探しにでた、秦（現在の中国）の人物で、日本にもきたと伝えられている」によって日本に持ちこまれた上海ガニの長生きしたものがその正体だった。



上海ガニ



妖力をぬかれるとただのカニになってしまう

河童





日本人なら知っているね

日本で最も広い範囲に分布する妖怪。この物語で活躍するのは河童淵にすむ河童たちだが、かに坊主にあやつられ、悪さをさせられてしまった被害者だ。きれいな川に住み、キュウリを好む。

3匹の子どもは、たまたま仲間と離れていたために、かに坊主の術にかからず、助けを求めて街へ現れたところ、鬼太郎に出会う。



河童淵は人間と妖怪の共存モデル地区らしい

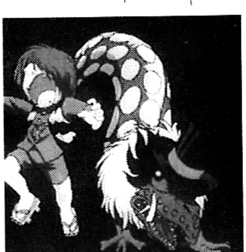
吸血鬼ピー／モンロー





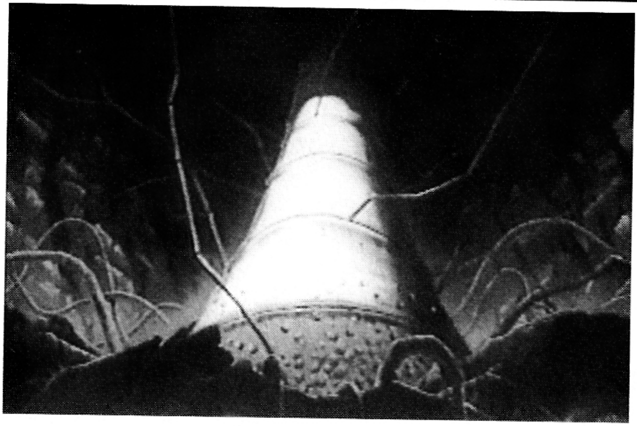
吸血鬼、外国より来る

ピーはどこか外国からやってきて、日本を吸血鬼の国にしようとした、あつかましい妖怪。その形と色使いから察するに、おそらく出身地は南方だろう。
それに協力するモンローは金髪美女だが、なぜこういう取り合わせなのかは不明。最後にふたりして首まで地面に埋められるところはかっこ悪いぞ。



鬼太郎をピンチにおとしいれた実力はあなどれぬ

万年竹



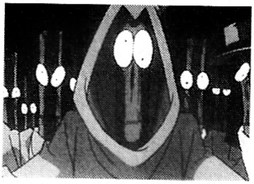


竹人間

松は千年、竹は万年？

竹屋敷と呼ばれる古い豪邸の地下に、数万年の時を越えて生えていた巨大な竹。もちろん自分の意思を持ち、人を竹人間に変える妖術も使うが、争いを好むわけではないようだ。

実際に竹という植物はかなりの長生きで、増えても古い方が枯れないため、竹林というのはどんどん広がっていく。君の近くにはいないかな？





エリとの思い出を守るため人間をつぎつぎと……

毛羽毛現





無ぼうな自然破壊に怒る

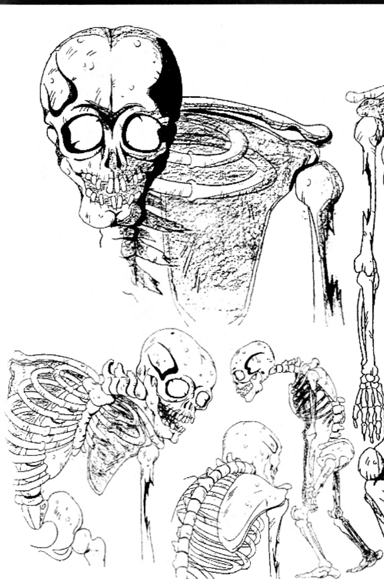
劇中では、動物や妖怪をひきいて霊山ハイウェイを襲った、過激な妖怪になっていたが、本来はじめじめしたところにひっそりと住んでいるという。

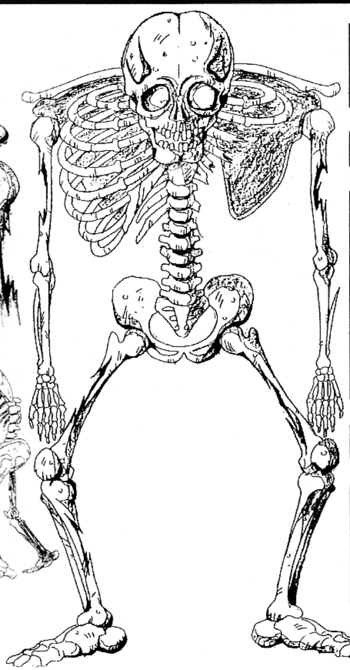
『けうけげん』という名前は、稀有（ものすごくめずらしいこと）怪訝（怪しげに思えること）に引っかけたものらしいが、みずからそう名乗ってしまうところが妖怪気質でいい。

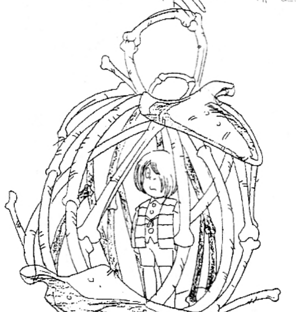


人間の横暴に怒りが爆発する。「許さん!!」

がしゃどくろ

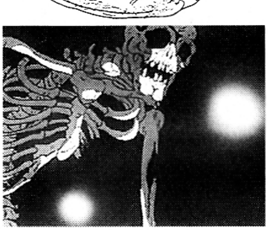






大髑髏、ハイウェイに起つ

誰にも知られず、山深いところで死んだ人の骨が集まってできる、といわれている巨大なガイコツがしゃどくろだ。その名のとおり、ガシャガシャと音を立てながら、夜な夜な歩くというのだから、ぶきみさもひとしお。山中に道路が通って、眠りをさまたげられたのだろうか。必要に応じて、さまざまな形に骨を組みかえる力があるようだ。



自動車を見おろすがしゃどくろ。コワイ

猫仙人



大黒猫







権利主張の実力行使

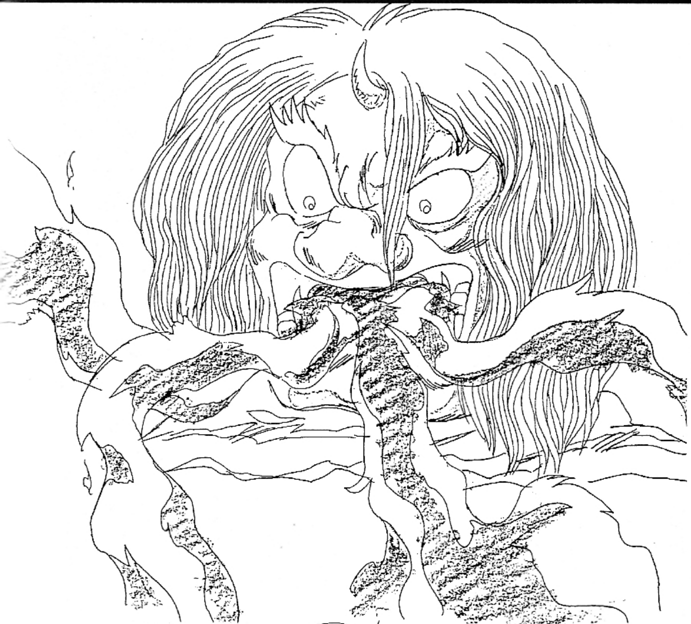
動物をペットとして勝手に飼いならし、あきればすててしまう人間の態度に怒って立ちあがった。主張はもっともな部分もあり、ネコの街をつくるまでに計画は進行したが、ちょっとやり過ぎだったようだ。

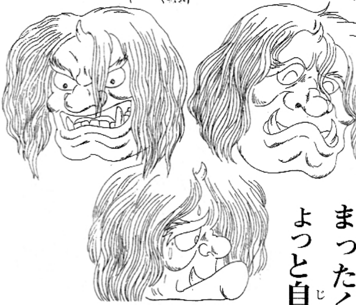
仙人のようになったネコなのか、ネコのようになった仙人なのかはわからない。ふだんは大黒猫に化けている。



大黒猫として裁判長も務めている

畑怨霊





あっとおどろくデカい顔

凶作で餓死した人の霊が集まってできたものと考えられていて、近づく人をあの世へさそうという幽霊だ。

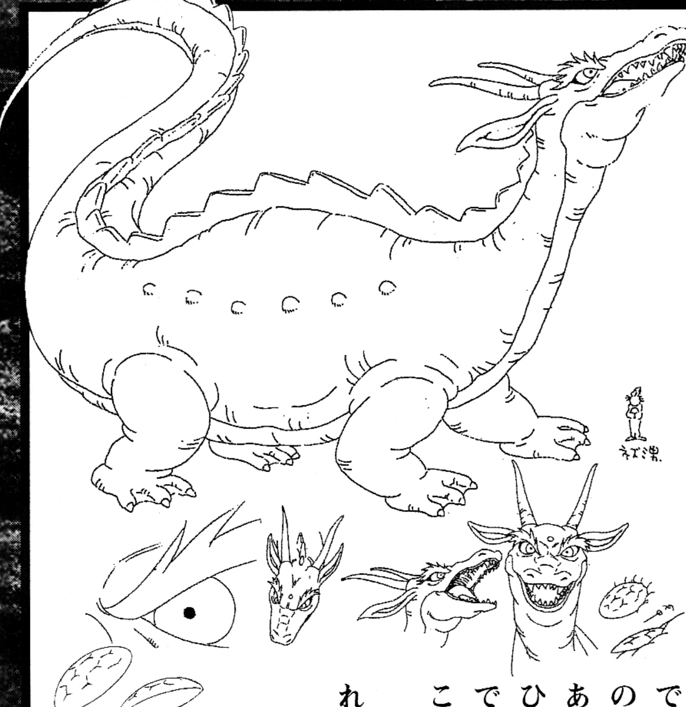
今回の物語では、悪さはせず、鬼太郎たちとともに妖怪屋敷で、妖怪を信じない人間をおどかす役まわりだ。

しかし、小学生の太郎にはまったく驚いてもらえず、ちょっと自信をなくしたかも…。



どこからともなく、とつぜん大きな顔で現れる

蛟(みずち)



逆鱗(げきりん)





ねずみ男(おとこ)が逆鱗(げきりん)をはがしたから、さぁたいへん

蜃気楼(しんきろう)を作(つく)りだす海龍(かいりゅう)

『蜃気楼(しんきろう)』という言葉(ことば)は、「蜃(しん)のはく息(いき)でできた楼閣(ろうかく)」の意味(いみ)で、この蜃(しん)というのが蛟(みずち)のことだ。年(とし)をとったハマグリであるともいわれている。逆鱗(げきりん)というのはひとつだけ逆(ぎゃく)むきに生(は)えたウロコのことで、どんなにおだやかな性格(せいかく)の龍(りゅう)でも、ここにさわるとものすごく怒(おこ)るという。現代(げんだい)でも怒(いか)りを買(か)うことを「逆鱗(げきりん)にふれる」というのは、ここからきている。

まくら返し



おちおち寝てられない？

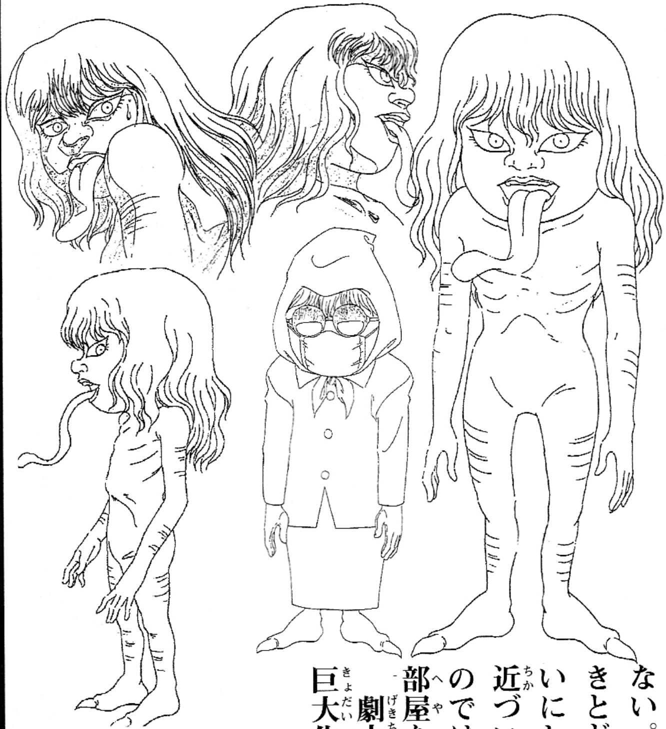
朝、目が覚めるとあらぬ方向をむいていた…。これがまくら返しのしわざだ、といえば「それは寝相が悪いからだよ」と笑われて終わりだろう。だが、朝見たら死体のむきが変わっていた…、となればこれは恐怖である。まくら返しとは、こういうことをする妖怪らしい。
劇中では眠らせた人の魂を盗っていく、という強力な魔物になっていた。





塩がにがてで、かけられると溶けてしまう

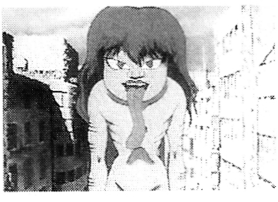
あかなめ



汚ないままにしておくと…

見かけは気持ち悪いが、悪いことはしない。寝たきりの人の体や、そうじの行きとどかない風呂場のあかをなめてきれいにしてくれるのだ。とはいえ、妖怪が近づいてくるのはあまり気持ちのいいものではない。きてほしくなければ、体や部屋をきれいにしておくことだ。

劇中では都会のよごれを吸収しすぎて巨大化してしまった。『垢嘗』と書く。





性格はおだやかだが、ちょっとブキミかな…

白うねり





よごれるほど巨大に……

ボロきれが妖怪化したもの。『うねり』というのは布が風にたなびくようすのことで、『白容裔』と書く。人が命を落とすほどの悪さはしないらしいが、近づくとすさまじくくさいという。

今回は、取れないカビを生やしてしまう能力をねずみ男に利用され、インチキ商売を手伝わされた上に、あかなめとともに都会のよごれで巨大化してしまう。



ねずみ男の家でおとなしく暮らしていたのだが…





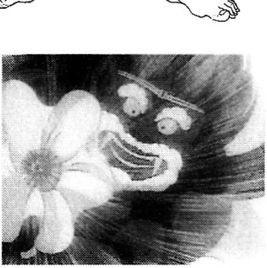
雷神・風神



風を呼び雨をふらせる

雷神は背中の太鼓を亜鈴枹でたたいて雷を鳴らし、雨を自由にふらせる。風神は背中にかついだ袋から無限に風をだすことができる。つまり、嵐をおこす神様コンビというわけだ。

実は、神様と妖怪をはっきり区別することはとてもむずかしいのだが、このふたりのように、気象をあやつるほどの力を持つと、やはり神様と呼ばれるようだ。



さざえ鬼

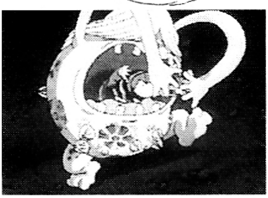


本体

鬼太郎食べて妖力アップ

年をとったサザエが妖怪化したもの。動植物から古道具まで、あらゆるものは寿命をこえて時をへると妖怪になる、と昔の人は考えた。さざえ鬼はそういった種類の妖怪の中でも特に強力で、言い伝えによると、男性の大事なところを盗ってしまうというから恐ろしい。

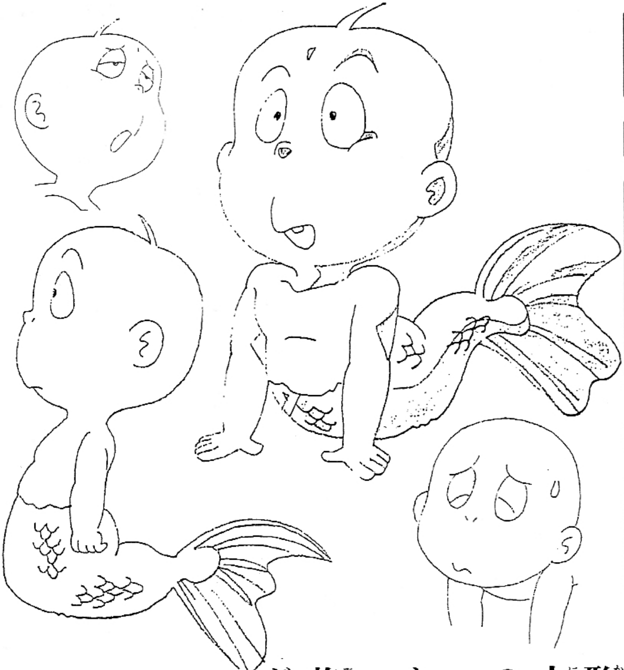
鬼太郎も、一度は負けて食べられてしまうという苦戦をしいられた。





鬼太郎に敗れ、最後にはその本体をさらすことに

人魚

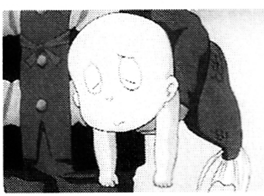


平和を好む種族

日本はもちろん、世界中にすんでいる。形や性格、能力はさまざまなようだが、人魚をはたして『妖怪』と呼んでいいものか、ちょっと疑問だ。

今回は、子どもたちがさざえ鬼につかまって売られてしまう、という役回りだったが、人間とは仲良く暮らしている種族で、さざえ鬼退治のときには人間の子どもたちとも協力した。





ニセ鬼太郎（さざえ鬼）によって売られている

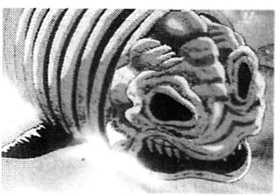
化け鯨





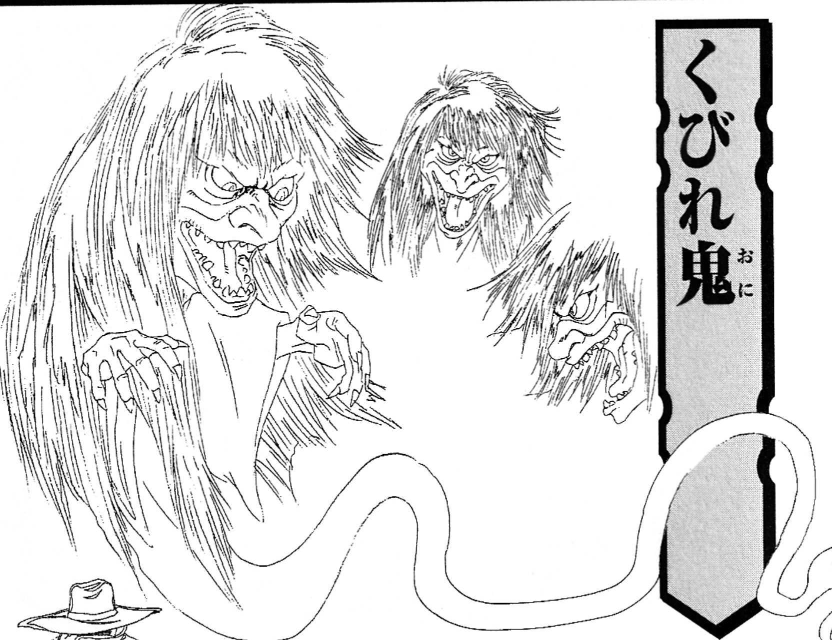
クジラの聖地を守る

ゾウに『ゾウの墓場』と呼ばれる場所があるように（伝説で、実際にはありません）、深海にはクジラの墓場があり、そこにおこないの正しくないものが近づかないように守っているのが化け鯨だ。大きな体と、それに見あった力を持っているが、不要な暴力は働かない。その昔、クジラ捕りの漁師がモリを投げたが、少しも手応えがなかったという話がある。



おっかない顔だが、悪い妖怪ではない

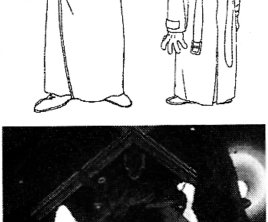
くびれ鬼



恐るべき悪霊策士

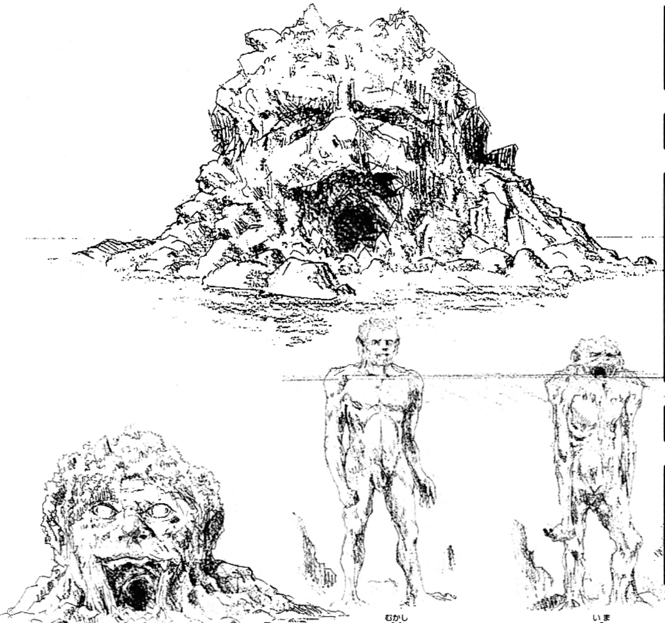
川のほとりを歩いていると、わけもなく飛びこみたくなることがある。これがくびれ鬼のしわざで、この誘惑に負けると死んでしまう、というわけだ。殺し方にはさまざまな方法があるらしく、今回は仕事に行きづまったオジさんに、幸せだった子どものころの夢を見せるという、さからいにくい手段を使ってあの世にさそう。『縊れ鬼』と書く。





異界への出入口は神だなのような形をしている

人食い島

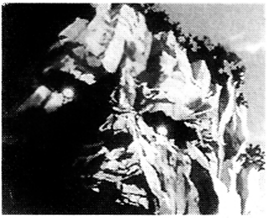


―昔―　―今―

千年の永きに渡り……

沖合の小島になりきって立っている、巨大な妖怪。その昔は実際に人を食べていたが、千年前のある日、娘の命がけの願いにこたえて人食いをやめる。ふだんはおとなしくしているが、その娘のささげものであった真珠の首飾りを盗っていこうとするものにはようしゃしない。

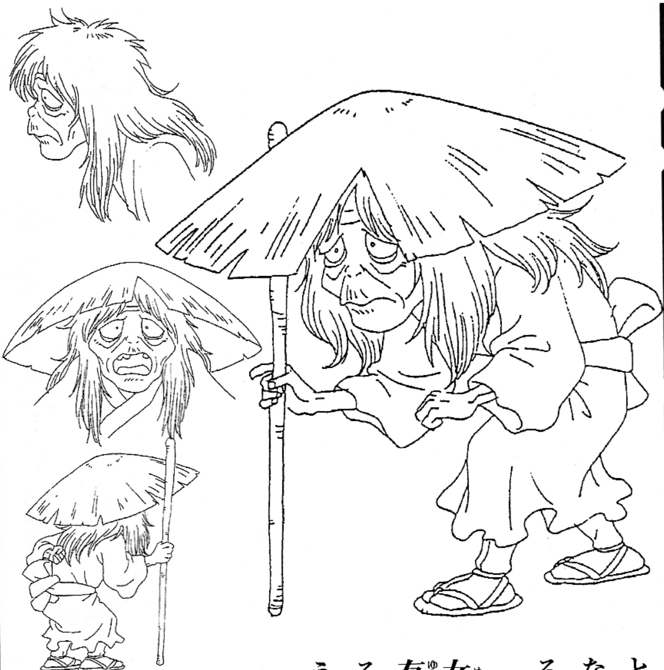
昔とくらべると頭の樹木がちょっとさびしくなっているのが年齢を表している。





離れて見ると人の形をしているのがわかる

白粉婆（おしろいばばぁ）

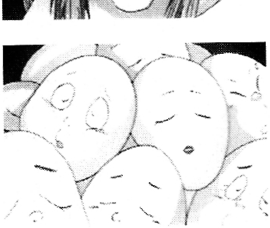


いつまでも若くいたい！

自分が若返るための薬の材料にしようと人の顔を盗っていた、というとんでもない妖怪。ねずみ男を利用して、顔を盗る白粉を売らせた。

一説によると、脂粉仙娘という化粧の女神様に仕える妖怪だともいわれ、かの有名な一休さんも、これと同類と思われる妖怪を目撃した、と伝えられているそうだ。





瓶の中には盗った顔がいっぱい入っている

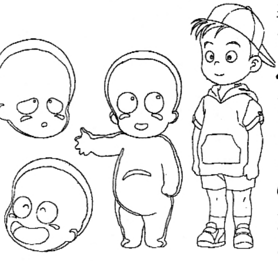
泥田坊



田の減るのが悲しくて

新興住宅地に残った数少ない田んぼにひっそりとすんでいたが、土地の持ち主が農業をやめる、といっているのを聞いてあばれてしまった。

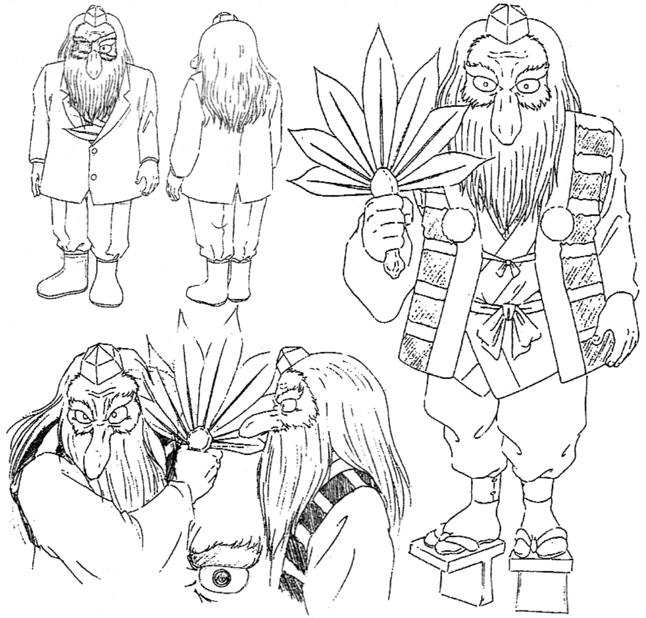
言い伝えの泥田坊は、指が3本しかなく、これは善い心を表す2本の指が欠けているため、といわれているが、この泥田坊は田んぼの守り神なので、ちゃんと善い心があるのだろう。





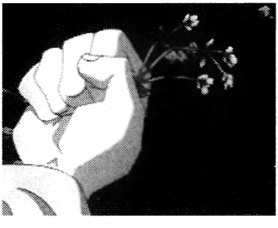
怒りのため、合体して巨大化した泥田坊

雨降り天狗

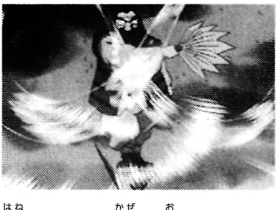


ぬれるのはちょっと苦手

以前は人間と対立することはなかったが、道路が開通し、自動車が通るようになってから、排気ガスで食物のカスミ草がかれてしまい、人間を憎むようになる。
天狗という妖怪は個々の名前がわかっているものも多く、目玉おやじの名乗った「鞍馬山の大天狗」というのは『鞍馬山僧正坊』という、牛若丸に剣術を教えた天狗のことだ。



カスミ草がかれてしまう



羽ウチワで風を起こす

陰摩羅鬼



先祖を大事にしているか

死者が充分な供養を受けていないと、その無念の想いが集まって怪鳥・陰摩羅鬼になるといわれている。言い伝えでは、なまけ者のお坊さんをおどすといわれているが、今回はそのおどすべき住職がいなかったわけだ。結果として寺の外へ被害が広がってしまった。

生者の魂を吸って、乗り移っていた死者・小百合の姿をこの世に保っている。

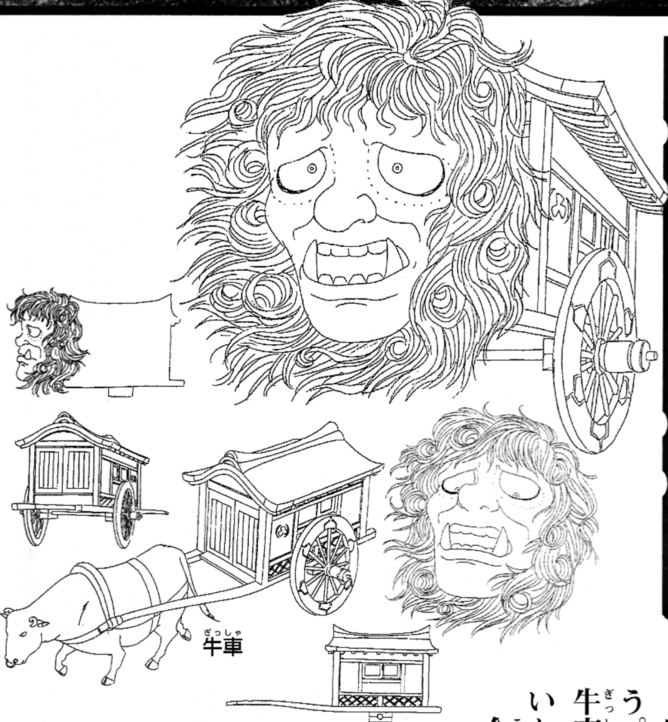


美しい小百合の正体は…



描きだされた陰摩羅鬼

おぼろ車



牛車、古都を全力疾走！

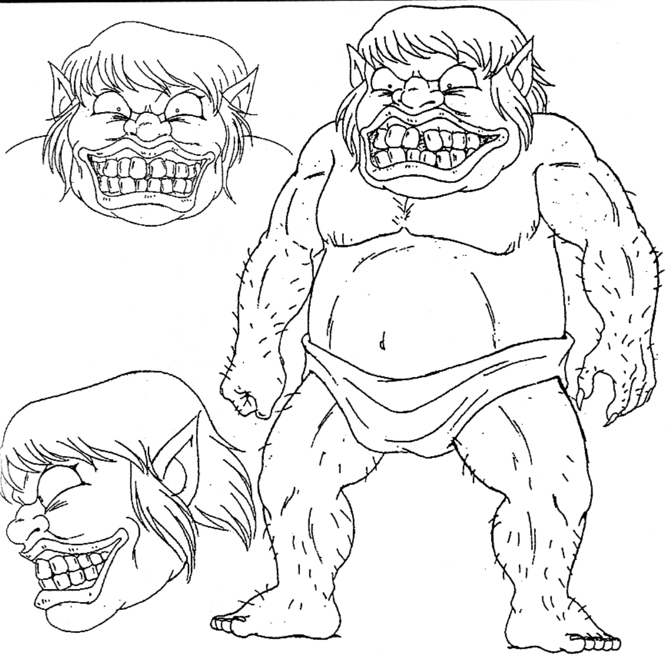
時をへて命をえた古道具を付喪神という。このおぼろ車はその付喪神の一種で、牛車が使用されていた時代から出現していた古株の妖怪なのだ。

今回の物語では、発掘された木片をもとに、新たに再現された牛車が化けたものなので、元気でスピードもでたようだが、トラックとの衝突にはかなわなかった。『朧車』と書く。





牛車の『心』が残っていた木片



天邪鬼

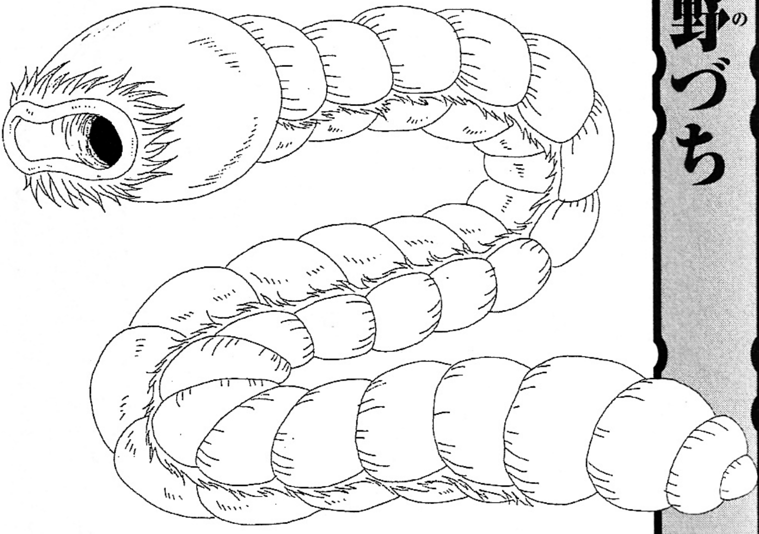
オレはいつも自由だ！

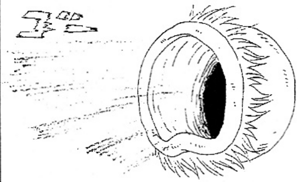
人のいうことを聞くのがきらいで、わざと反対のことをしたりする人物のことを『天邪鬼』というが、それはまさにこの妖怪からきている。根性曲がりの上に怪力なので、始末が悪い。

四天王と呼ばれる仏像（持国天、増長天、広目天、多聞天）を見ると、足もとに鬼をふんづけているが、これが天邪鬼である。

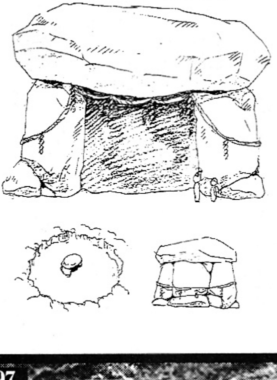


野づち





のづち塚



無限の怪物バキューム

ねずみ男がのづち塚のしめ縄をはずしてしまったために封印がとけて現れた。腸がメビウスの環のようにねじれていて、他の空間につながっているため、いくらでもものが吸いこめる。『野槌』と書く。『ち』というのは、神聖なものを表す言葉。ヘビは神聖な動物と考えられていて、大きいヘビはおろち、水のヘビは水つち、野のヘビは野つちと呼んだのだ。

猫又

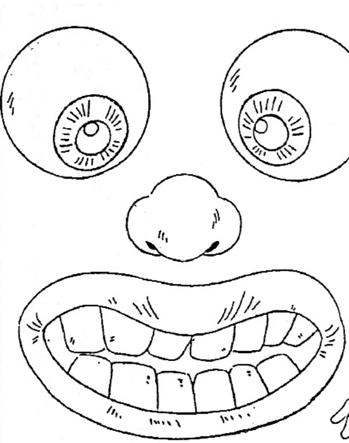


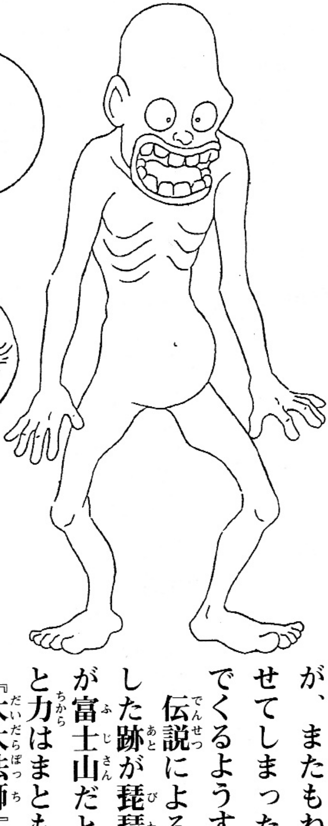


わがはいは猫又である

これは年をとったネコが化けるもの。劇中では猫町の有力者という設定。昔は、今のように栄養状態がよくなかったので、ペットも長生きではなく「ネコは10年生きると尻尾がふたまたに分かれ、人間の言葉を話すようになる」といわれた。今のペットのネコは15年ぐらい生きるので、キミのうちのネコは化けていないか、よく観察しておこう。

ダイダラボッチ







頭を雲の上にだし

体をバラバラにされて封印されていたが、またもねずみ男のよくばりで復活させてしまった。目、鼻、口が別々に飛んでくるようすはブキミ。

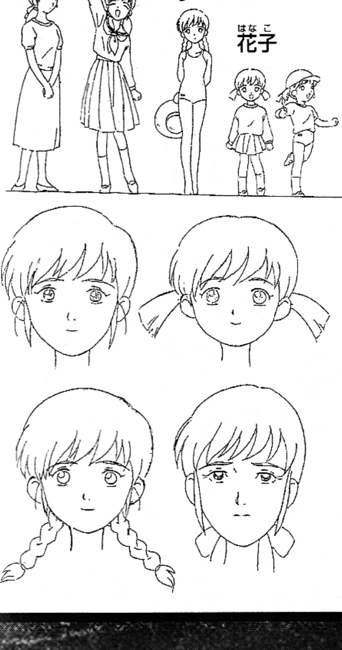
伝説によると、手で地面をひとすくいした跡が琵琶湖で、そのときすくった土が富士山だというのだから、その巨大さと力はまともではない。『大太法師』と書くらしい。

妖花

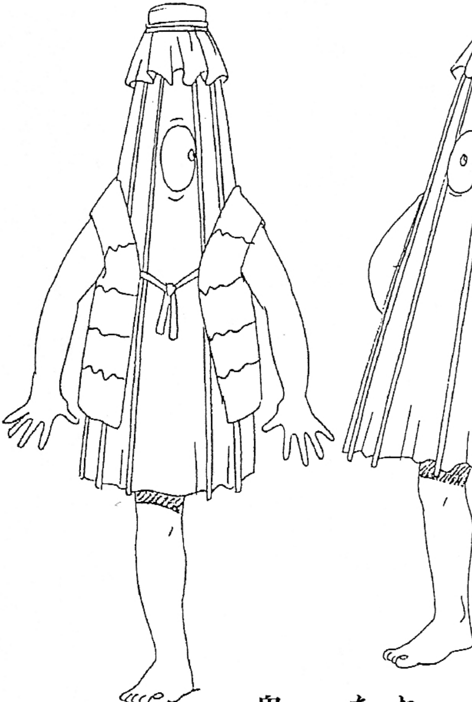


花に宿った人の心……

夏の暑い季節になると花子の部屋に狂い咲く、謎の熱帯植物。太平洋戦争中、戦場になった南方の小さい島が原産地。意思と霊力があるらしく、戦死したおじいさんの心を、奥さんだったおばあさんに伝え、さらにおばあさんの気持ちを孫の花子に伝えた。霊的にはかなりの高等生物で、島にある長寿のものは巨木である。



傘化け



見かけより強い！

化け唐傘、唐傘小僧など、さまざまな名前で呼ばれる、付喪神の代表格だが、化け番傘とか、蛇の目傘小僧とか、コウモリ傘化けというのは聞かない。

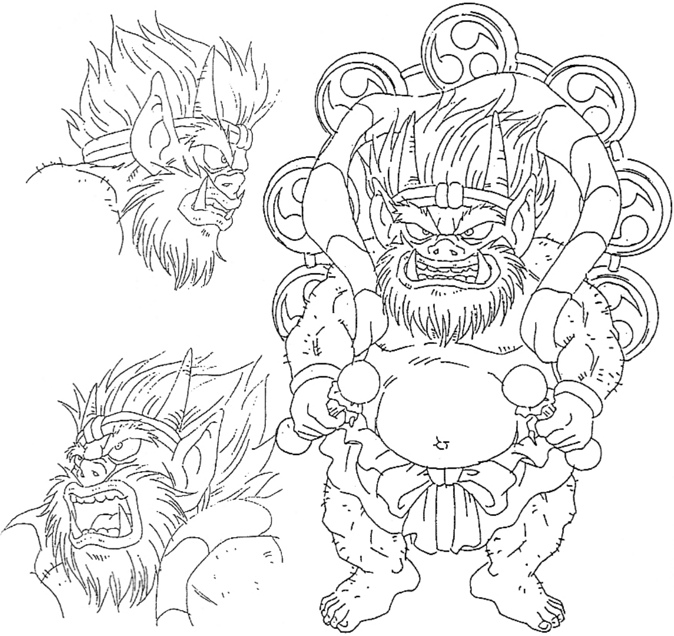
見かけどおりのおだやかな性格だが、ねずみ男にそそのかされ、サギの片棒をかつがされそうになる。

妖力は強く、戦ったときはけっこう鬼太郎をあわてさせた。



ねずみ男の仙人

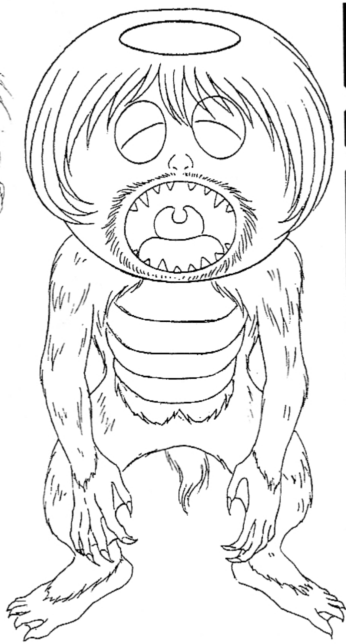
電気妖怪カミナリ

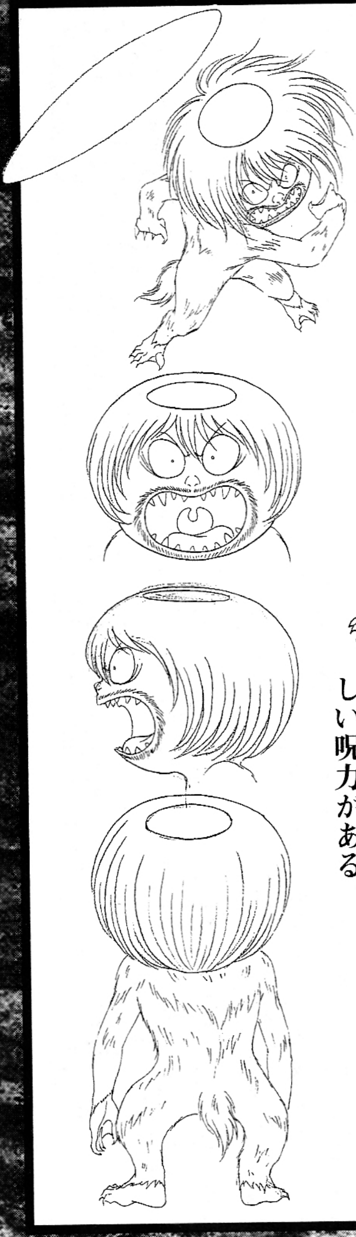




神鳴り様おおいに怒る

ふだんは、雲の中にかくれた宙に浮く石の上にいて、人間には見えない。雷雲から直接電気エネルギーを取りだす実験に怒って現れた。ふつうは雷神・風神と同じと考えられているが、この物語を見る限りではちがうキャラクターのようだ。落雷の電気エネルギーは、東京で1日に使われる電気エネルギーより多いというから、まさに人知を越えた自然の力だ。





さら小僧

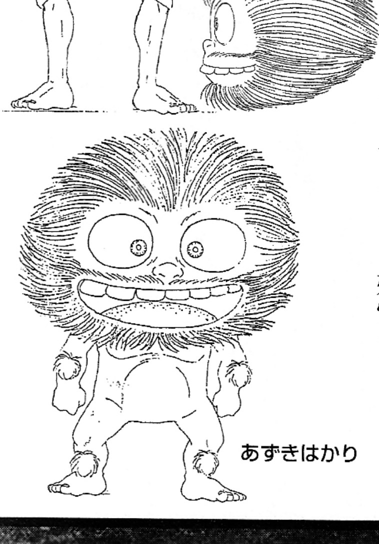
著作権は守りましょう

全国に河童の仲間は多いが、これもそのひとつ。頭のお皿で光を反射させ、光線技のように使うという武器も強力だ。持ち歌である「ぺったらぺたらこ」を勝手に憂歌団に歌われたため、怒って人間の社会へやってきた。

その「ぺったらぺたらこ」には4番を歌うと時間が逆転してしまうという恐ろしい呪力がある。

34～37話に登場の妖怪





強力妖怪続々登場!!

これから登場する妖怪をちょっとだけ紹介しよう。あずきあらいは、「あずき研ごうか人とって食おうか、ショキショキ」と山奥で歌いながらあずきを洗っているという妖怪。おりたたみ入道は、紙のように自分の体をたたんでつづらに入っている妖怪だ。



おりたたみ入道
あぶらすまし
呼子
スピードメーターのみ
ドア
キー
運転席
ブレーキ
アクセル
※クラッチなし
ワラのシート
ハンドル 輪入道になる
キー
ヒモの長さこのくらい
夜行さん印
バックミラー 動かせます
車輪ごとドア開く
後部トランク開く
6本
タイヤ 正面から見ると逆八の字形
スモークガラス 中・見えない
無理して4人がけ
鬼火のライト
炎 走行時に有
UP (止まっている時)
対 成人男性サイズ
輪入道
妖怪自動車

大海獣 誌上ストーリー

ここからは10年ぶりの新作劇場映画『大海獣』の内容をチェックしよう！　まずは、この映画に登場するキャラクターから紹介するぞ！

南方妖怪が『神』としてあがめているのが、ゼオクロノドンの化石だ。ゼオクロノドンというのはクジラの祖先と考えられている実在した絶滅動物。その化石が浮かぶ泉の水は『命の水』と呼ばれる。





大海獣



その水を飲めば不老不死になるといわれる。ところが、実際に命の水を飲むと、絵のような巨大生物・大海獣に変わってしまうのだ！





アカマタ

今回、日本に攻めてくる南方妖怪たちのリーダー格。

ふだんは進んで人間と対立することはないが、戦闘力の高い、強力な妖怪だ。





相手の妖気を吸い取ってしまう力を持っている。

南の島のバルル島にすむ。

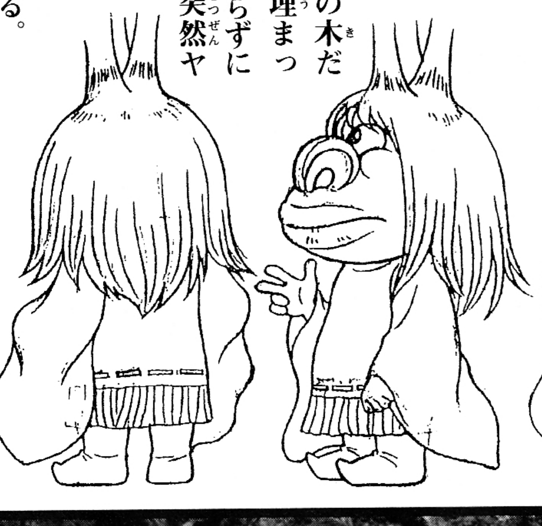


やし落とし



ふだんは、ヤシの木だけを地上にだして埋まっている。なにも知らずに近づいた人間に、突然ヤシの実を落としておどかす妖怪だ。ヤシの実を飛ばすこともできる。





チンポ

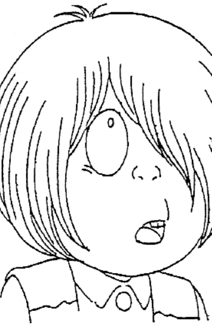
オチンチンが3つもあり、そこから火炎を発射する、というあまり近づきたくない妖怪。





キジムナー

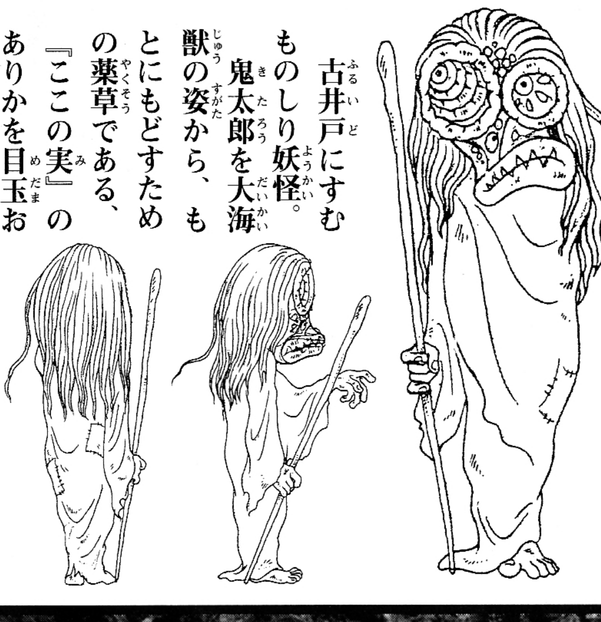
大勢で群れをなし、火を吹きながら襲ってくる、手のひらほどの大きさの集団妖怪。南方妖怪の仲間になっているが、日本の沖縄にも住んでいる。





井戸仙人

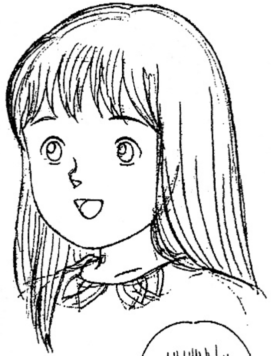
古井戸にすむものしり妖怪。鬼太郎を大海獣の姿から、もとにもどすための薬草である、『ここの実』のありかを目玉おやじに教えた。

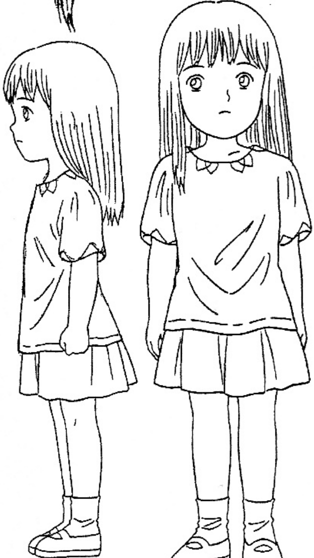


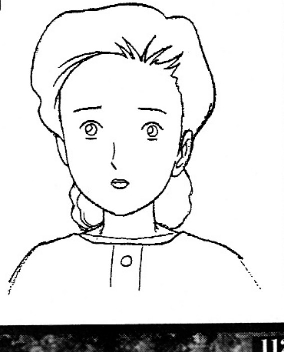
川村一家

お父さんは植物学者で、バル島で行方不明になってしまった。

そのお父さんを探してほしい、と鬼太郎にたのみにきたのが娘のメグミである。





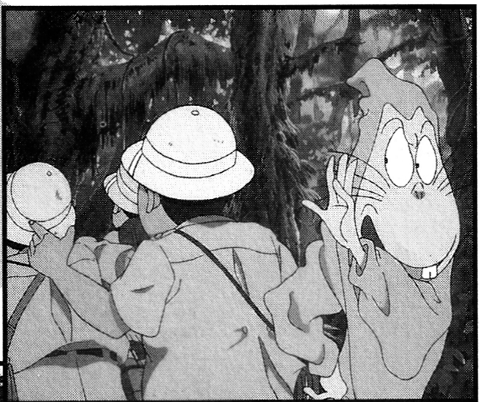




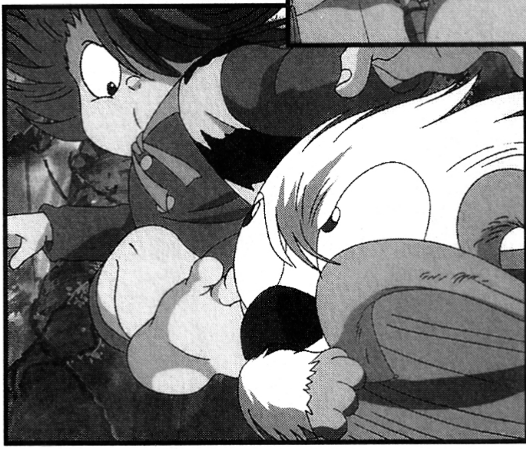
遠い南の空の下……

今日も鬼太郎のもとへ手紙が届く。差出人は川村メグミ。植物学者のお父さんが、南の島のバルル島で行方不明になってしまった、妖怪のしわざではないだろうか？ と、メグミは考えていた。

目玉おやじとともに、一反木綿に乗りバルル島にきた鬼太郎に、島民は、島の奥地ですでに何人かの日本人が、行方不明になっていることを話す。しかし「川村は金めあての日本人とは違う。アカマタ様の怒りにふれるはずはない」ともいった。



調子のいいねずみ男は、またいつの間にかガイドなどやっている。これが事件の引き金に…



次々と襲いくるキジムナーに、下駄と髪の毛バリで応戦する鬼太郎。「なぜ攻撃的なんだ？」

昼なお暗い密林で

金めあての日本人、というのは、島の奥からわきだしている『命の水』を盗りにくる連中のことらしい。飲めば不老不死になれる、という命の水。健康ブームの日本で売れば大金持ちだ、と考えた欲ばりどもが、妖怪たちの聖地にズカズカと入りこんだようだ。まじめな研究者の川村も同類と思われてしまったのだろう。

同じ島でねずみ男は、欲ばり日本人相手のガイドをしていた。だが、ねずみ男



不思議な息を吹きつけるアカマタ。ふだんは人間を襲ったりしないはずなのだが……？



油断していた鬼太郎は、アカマタの術にやられてしまう。妖気を抜かれて立つこともできない状態に！

も命の水のありかなど実際には知らない。またもインチキ商売だ。

一方、南方妖怪のリーダー・アカマタを捜していた鬼太郎は、突然キジムナーの群れに襲われた。話しにきたのだ、といっても説得には応じず、火を吹きながら迫ってくる。やむなく鬼太郎は髪の毛バリと下駄でキジムナーを撃ち落とした。そこにアカマタが登場。もともと戦う気のない鬼太郎は、妖気を吸い取られてしまい、あっさり捕まってしまうのだった。



南方妖怪、日本へ打って出る

鬼太郎が閉じこめられた洞くつには、ねずみ男も、その同行人も、川村博士も捕まっていた。なんとか助けださなくては……とはいえ、今の鬼太郎の体ではどうにもならない。南方妖怪たちは「もう日本人にはがまんならない、こちらから攻撃しよう」といきりた







命の水を飲まされて苦しむ鬼太郎。一体どうなってしまうのか?!

ち、人質をつれて妖怪船に乗りこんだ。そして鬼太郎に「我々の聖地を荒らすな、と総理大臣に伝えろ」というと、下駄とちゃんちゃんこを取りあげ、命の水を飲ませた……。
命の水は確かに不老不死の薬だった。だが、人間のままそんな都合のいい力を手に入れることができるはずはないのだ。
苦しむ鬼太郎の体はじわじわと巨大化し、全身に毛が生えはじめたのである。船から落ちた鬼太郎は……。



南方妖怪はその戦力に恐るべき切り札を持っていた



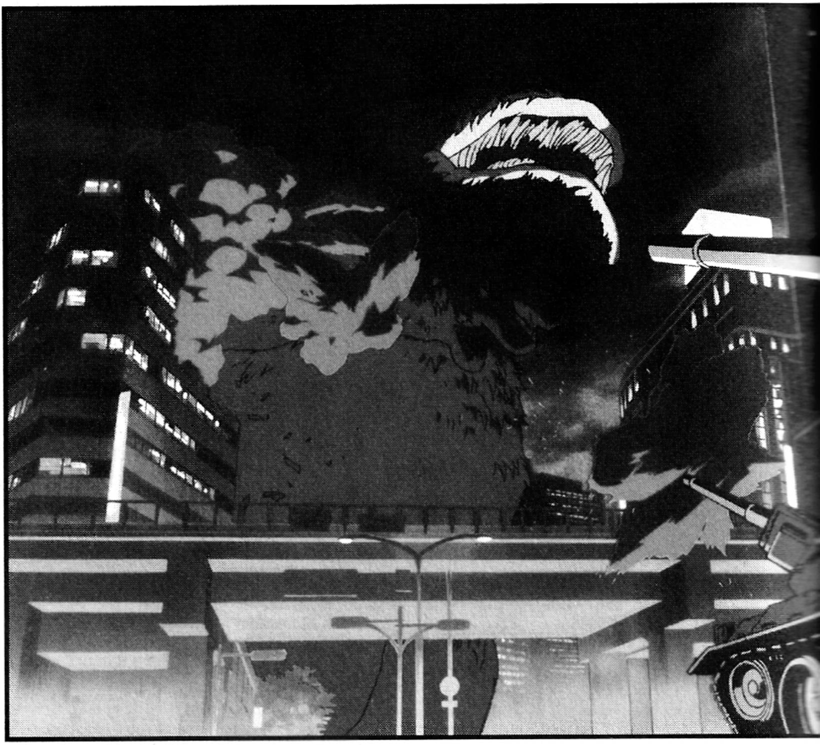
妖怪船



大海獣・ゼオクロノドン東京上陸！

鬼太郎の姿は大海獣に変わってしまった！　しかし、意識のハッキリしない鬼太郎は、そのこともわからず、総理大臣に南方妖怪の要求を伝えるべく、東京に上陸した。

もちろん、人間にそんなことがわかるはずがない。鬼太郎がアカマタに捕まったとき、霊力回復の薬草を採りに日本へもどった目玉おやじにもわからないのだ。いくら話をしようとしても大海獣

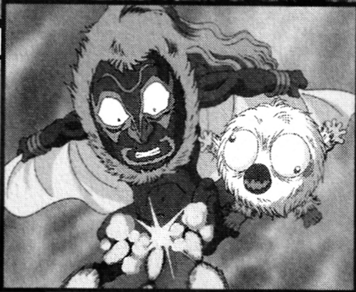


のほえ声にしかならない。歩くだけでまわりの建物は壊れてしまう。それでも鬼太郎は国会議事堂をめざして進む。防衛庁長官は自衛隊に出動を命令。戦車や戦闘機は、ようしゃなく大海獣を攻撃した。

「やめろ〜！」叫ぶが声にならない。それどころか、自分の意志とは関係なく、叫んだ方向へ口から奇怪な光がはなたれ、建物にも戦車にも、大海獣と同じような毛が生えてしまい、使い物にならなくなっていく。

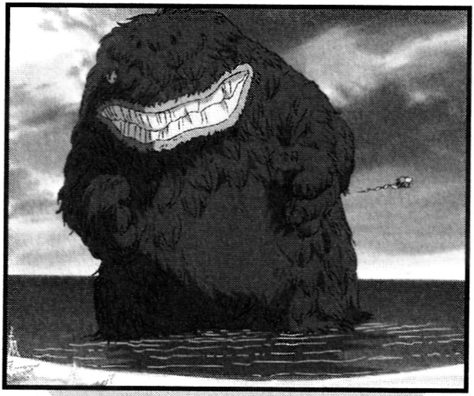
「何てことだ。ぼくのせいなのか……」鬼太郎はしかたなく海の方へもどっていった。





南方妖怪のチンポは、オチンチンから火炎を発射する。

鬼太郎を助けるクジラたち。姿は変わってしまっても、動物たちはいつも鬼太郎の味方だ



人間たちの砲撃をのがれ、田舎の海岸で仲間たちと再開する

クジラの詩が響く

自衛隊の攻撃で傷ついた鬼太郎が海に沈んでいく……。とその鬼太郎に肩を貸すように、よりそってきたのはクジラだった。クジラ



たちは沖の小島に鬼太郎を届ける。

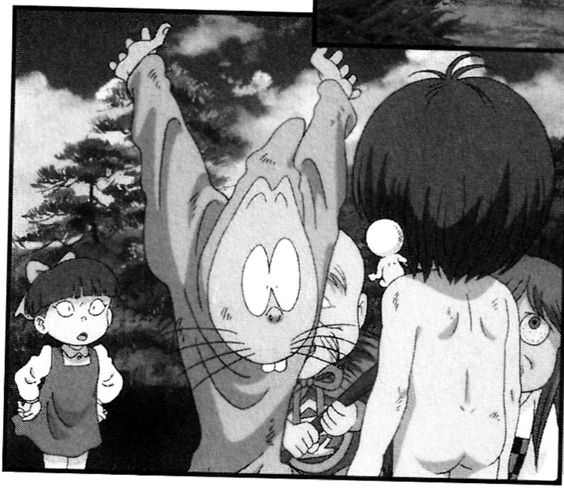
「ありがとう、クジラさん」

一方、南方妖怪のスキをついて妖怪船から脱出したねずみ男は、大海獣は鬼太郎だと目玉おやじたちに伝える。妖力を取りもどす薬草とともに、姿をもどす薬草も探さなければ……。

しかし、鬼太郎の姿をもとにもどす薬草のありかを、目玉おやじたちは知らなかった。自分たちの心当たりを探していたのではどうしようもない。生き字引の井戸仙人に相談してみよう。目玉おやじを乗せた一反木綿は古井戸へ急行する。はたして井戸仙人は薬草のありかを知っているのか？



井戸仙人に情報を聞く目玉おやじ。「ここの実のあるのは山の祠じゃ」さすがものしり！



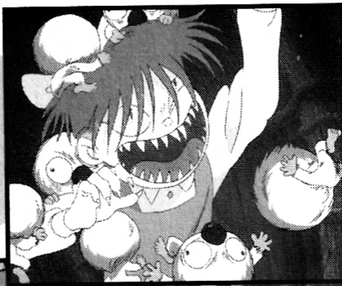
薬の力でもとの姿にもどった鬼太郎。まだ喜ぶわけにはいかない、南方妖怪たちを止めなくては

さぁ反撃だ！南方妖怪を追い返せ

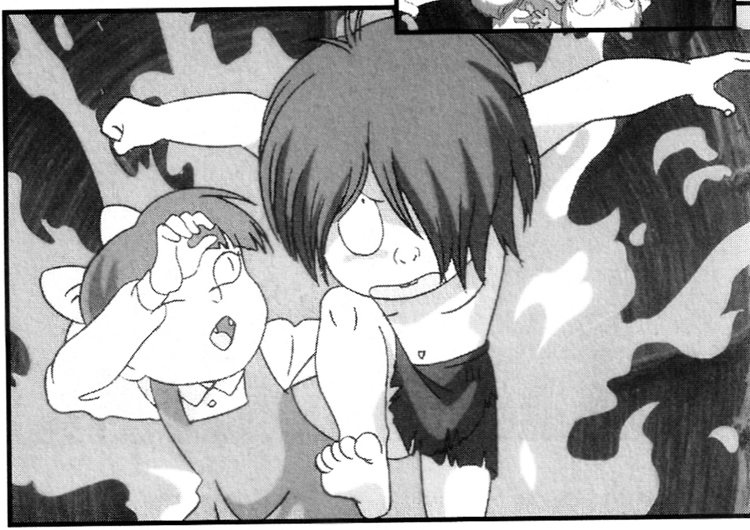
妖気のもどる薬草をやっと発見し、姿をもどすには『ここの実』がきく、と井戸仙人に教わった目玉おやじは、薬を持って鬼太郎のもとへ。

今の鬼太郎には自分たちと戦う力がない、と判断した南方妖怪たちは日本に上陸し、無関係な人も襲いはじめた。

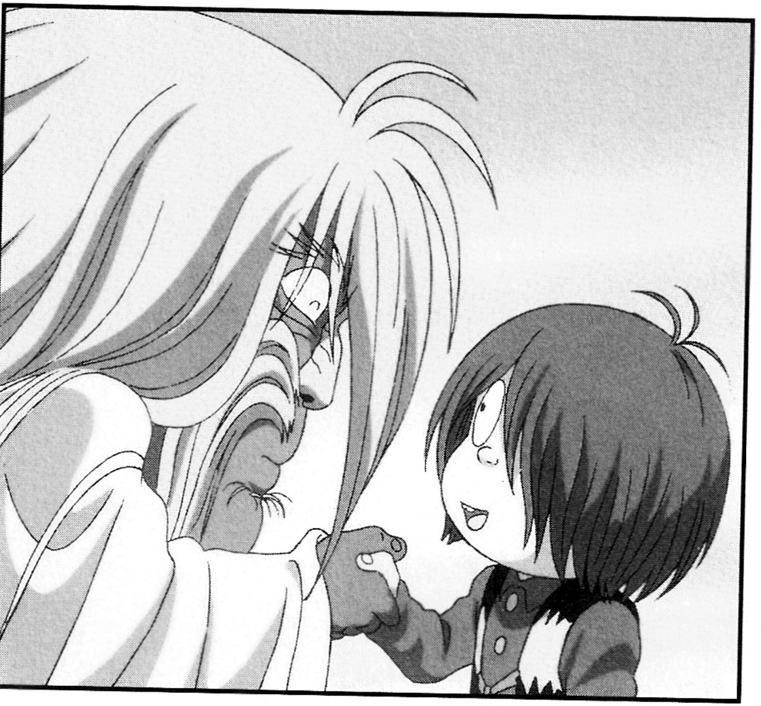
しかし、南方妖怪たちが油断している間に、目玉おやじは鬼太郎に薬をとどける。薬はきいて、鬼太郎は姿と力を



切りなく現れるキジムナーたちにキレるねこ娘。たちまちやられていくのでした



取りもどした。
妖怪船に乗りこみ、下駄とちゃんちゃんこを取り返した鬼太郎は、人質を助け、留守を守っていたキジムナーたちを蹴ちらす。
騒ぎにもどってきた他の南方妖怪たち。だが、本気になった鬼太郎の敵ではなかった。
空中から襲いかかるチンポはじまんのオチンチンに下駄の一撃を食らってバタン。やし落としは子泣き爺に抱きつかれて身動きがとれなくなり、キジムナーの大群はぬりかべに立ちふさがられて次々と墜落していく。そして……。



南方妖怪と仲直り

ついにアカマタとの一騎討ち。アカマタはふたたび妖気を吸い取ろうと鬼太郎を攻める！　だが、鬼太郎はちゃんちゃんこを盾にすばやくそれを防いだ。ムキになって吹き続けるアカマタ。だが、霊毛ちゃんちゃんこは逆にアカマタの妖気を吸い取っていた。

とうとう力つきて倒れるアカマタ。「うう……オレの負けだ……」鬼太郎はアカマタに近づき、今回はゆるすからおとなしく帰れ、という。「おまえたちが神とあがめるゼオクロノドンの子孫であるクジラに助けられたんだ」



南方妖怪たちは、日本人の方が無神経なふるまいをしないのであれば、とことわった上で、鬼太郎たちと仲直りをしてさっていった。「鬼太郎さん、ありがとう」お父さんがもどってきて、うれしそうなメグミとお母さん。

事件はこれで一件落着。しかし、今回の事件は、もうかるとなれば他人の迷惑をかえりみない、欲ばった人の行動が原因だった。ほんの数人のために、島の人をこまらせ、妖怪の怒りを買い、仲間の日本人にも迷惑をかけたのだ。

キミも、知らず知らずのうちにそんなことをしてはいないかな？気をつけようね。

ゲゲゲの鬼太郎ヒストリー



鬼太郎の映像作品は
まだまだ他にもあったんだ！



昭和45年版



鬼太郎がはじめてテレビに登場したのがこの作品だ。水木先生は漫画家として有名になる以前から、紙芝居などで鬼太郎を描き続けてこられ、この時点で10年以上の歴史がある。はじめは『墓場の鬼太郎』というタイトルだった。今も歌いつがれる主題歌は、この作品以前にラジオドラマ化された時に、滝口順平さんによって歌われたのが最初（テレビ版は熊倉一雄さん）。鬼太郎の声はドラゴンボールなどでもおなじみの野沢雅子さん。

白黒で65話が製作・放送された。



昭和46年版



前作終了から2年7ヶ月後、鬼太郎はカラーになって再登場した。この作品からねこ娘がレギュラー入り。設定は前作の続き、ということになっていて、声の出演者も製作スタッフもほぼ同じだが、内容は鬼太郎の超人的活躍よりも、妖怪のぶきみさ、物語の不思議さに力が入れられている。

新しい作品ではひかえめな表現になっている鬼太郎自身の妖怪的能力（指が弾丸のように飛びだす、手首がはずれるなどといった力）も、このころは強力に描かれていた。45話が製作され、再放送を入れて52回放送した。

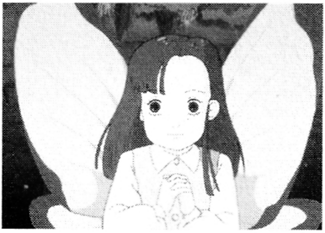


昭和61年版



その次の鬼太郎登場は13年後。すべて一新されたリニューアル版で、鬼太郎もなんとなく二枚目な感じに描かれている。人間と妖怪を橋渡しする役として天童ユメコがレギュラー入り。鬼太郎の声は戸田恵子さんで、主題歌は吉幾三さんが歌った。

視聴率が常に20％をこえる人気番組となり、2年半に渡って115話を放送。



天童ユメコちゃん



昭和60年版（実写）



実は61年版が登場する前、俳優の演じる実写鬼太郎が一度放送されている。「月曜ドラマランド」という1時間30分の放送枠だ。

ぬらりひょん、あみきり、おっかむろ、見上げ入道、のびあがり、といった妖怪たちが、着ぐるみや特殊メイクであばれまわった。

この作品が好評で、後にもうひとりの水木スター・悪魔くんと共演する「ゲゲゲの鬼太郎　エロイムエッサイム—魔笛伝説—」というビデオ作品も61年に製作されている。



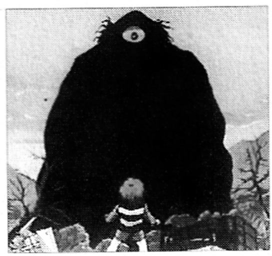
第1話

妖怪！ 見上げ入道

自然が切り開かれ、入道沼のある、学校の裏の土地にもビルが建つことに。その土地には昔から小さな祠があったが、工事をたのんだよくばり社長は、そんなものは気にしない。迷信だ、とせせら笑っていたが……。飛び立つ鳥の大群。泡立つ入道沼。工作機械や作業員は不思議なつむじ風に巻きあげられ、消えていく。

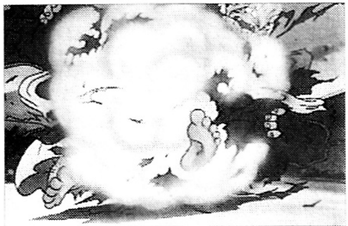
そのようすや謎の影を目撃した祐子は、社長に話すが信じてもらえない。

そこに、また話をややこしくする男が登場。ねずみ男である。「これは妖怪のしわざだ、解決してやるからお金をだせ」というねずみ男を、社長はどなり飛ばすが、ひとり祐子は妖怪の存在を信じていた。夕方、下校の途中妖怪に襲われる祐子！見上げる方向に合わせてどんどん巨大化するその妖怪は、祐子を飲みこんで消えていった……。

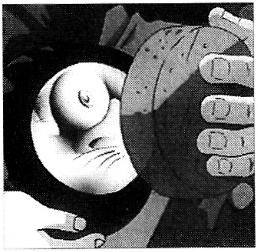


行方不明になった祐子を心配している淳と翔太。ふたりは、近くの茂林寺に妖怪ポストというのがあって、そこに手紙





をだすと鬼太郎という人がきて助けてくれるらしい、といううわさを信じ、手紙をだす。しかし、なかなか鬼太郎がこないまま3日目になった。あきらめかけたふたりの耳に、下駄の音が聞こえてくる。鬼太郎だ！　しかし、子どもの姿の鬼太郎に淳たちは不安を感じてしまう。「ん!?　妖気が強くなった」工事が再開され、妖怪もふたたび動きだしたのだ。妖怪は見上げ入道だった。その昔、偉いお坊さんに封じこめられたのだが、工事で祠を



動かしたためによみがえったのだ。社長からお金をせしめるため、説得しようとしたねずみ男も吸いこみ、大あばれする見上げ入道。鬼太郎も一度は吸いこまれ、苦戦するが、最後はちゃんちゃんこでのどをふさぎ、ふくらんだところを髪の毛バリでパンクさせた。あわてて逃げだす見上げ入道。が、かけつけたねこ娘や砂かけ婆たちの協力で、ツボの中に封じてしまう。静かになった工事現場には、恐ろしさのあまり腰をぬかしてしまった社長だけが残されていた。



●社長

第2話

妖怪目目連の涙！

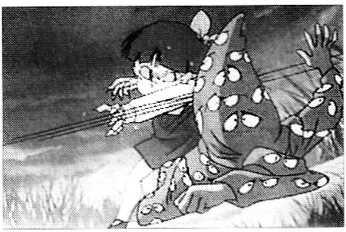
さびしい夜。つむじ風がまるで意志あるもののように一軒の家の前で止まり……。その風の中にはたくさんの目が！

家の中では小学生のお姉さんと弟が眠っている。と、弟が目をさまし……「お姉ちゃん、だれかがズッとこっちを見てるよ」部屋の中にはポスターがはってあるが……。

目はそのポスターの図ではなかった！　本物の目がとつぜん布団の上にバラバラと開いたのだ！

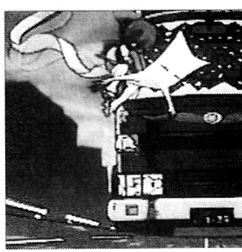
翌日。カラスにとどけられた手紙を持ち鬼太郎がやってくる。その後をねずみ男がつけていたが気づかずに……。

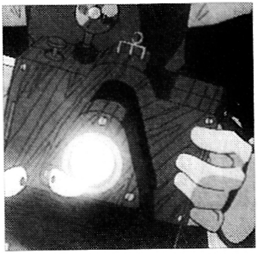
昨夜姉弟をおどかしたのは妖怪・目目連ではないか？　だが目目連は木連の里で葉っぱのようになっている、おとなしい妖怪のはずなのに？　そのとき、鬼太郎のちゃんちゃんこに目目連が現れた。



じゅうたんに、天井に、次々乗り移り「帰れ!!」と鬼太郎に叫びながら家をゆすっての大あばれをする目目連。

目目連は目にしみるものがにがて、と見ぬいた



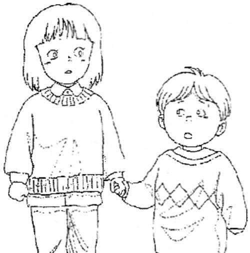


目玉おやじのアドバイスで線香をたき、タマネギを切る鬼太郎たち。目目連はたまらず逃げだす。が、そのとき帰ってきたお父さんとお母さんはビックリ。ちゃっかり現れたねずみ男は妖怪追っ払い代を請求するが、家をあらされたと思っているお父さんが信じるはずがない。そして、お父さんの持っていた、新しい別荘を建てた場所だという写真に写っていたのは木連の里だった。目目連はそれに怒っていたのである。

公園の木連の木で休む目目連。が、少しも休まらない。都会の空気が汚いためだ。激しい怒りにがまんならず、あばれだす目目連。トラックに乗り移り、商店街をメチャメチャにする。

写したものを写真に閉じこめる妖怪カメラを持ってやってくるねこ娘。次々と乗り移るものを代えてなかなか写真を撮らせない目目連だったが、ねずみ男に乗り移ったところを撮影されてしまう。

お父さんは、木連の里をもとにもどすことを約束。おとなしくなった目目連は木連の里に帰っていった。

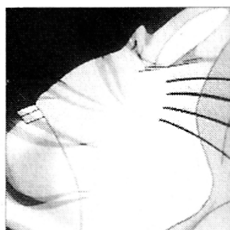




第3話
ギターの戦慄！ 夜叉

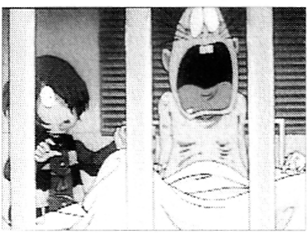
ぶきみな夜の墓場。ギターの音が響いてくる。演奏者も墓場に負けずおとらずの不気味な男。と、墓場にただよっていた古ぼけた魂が、その音に引かれるように集まってくる。そして、その音を聞きつけたのは死者の魂だけではなかった。よっぱらったねずみ男の登場だ。男を見つけ、日ごろの不満をぶっつける。と、たちまちねずみ男も魂をぬかれてしまった……。

鬼太郎の家にカラスが何か荷物をとどけにきた。



小銭にガラクタ、えらくくさい。ねずみ男の全財産だ。ねずみ男は病院にかつぎこまれていた。医者の話では原因不明、まさに魂をぬかれたような状態だという。

魂を集めていた男の正体は妖怪・夜叉だった。古ぼけた魂は地下の亡者たちのいる穴へ投げこみ、ねずみ男の魂は自分で煮て食べた。

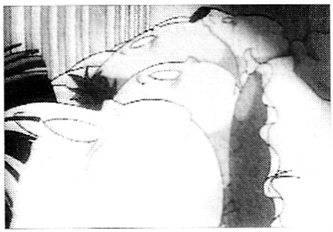


とたんに死んだようになるねずみ男。見舞いにきていたねこ娘や砂かけ婆は、悲しむべきやら喜ぶべきやら……。

直後、強烈に腹具合の

悪くなる夜叉！　どうもねずみ男の魂にあたったらしい。「うう、子どもの魂はどんな痛みも忘れるほどうまいというが…」団地に現れギターを弾く夜叉。集まってきた子どもたちの魂をぬいていく。

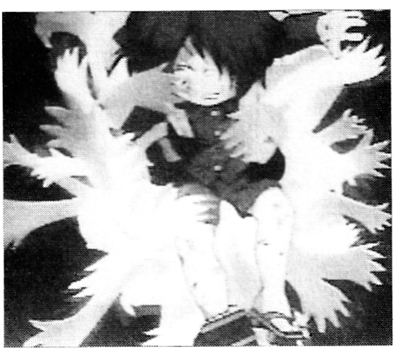
妖気をたどり夜叉を追跡する鬼太郎。行き止まりのところで妖気が消えている。と、エアダクトからねずみ男の魂が…。あまりの苦しさに夜叉が吐きだしたのだ。鬼太郎の足下にはマンホールが！　地下鉄構内での夜叉と鬼太郎の激突。が、夜叉に攻撃がきかない。





体の部分は夜叉の本体ではないのだ。ギターの音攻撃で気を失い、死霊の穴に落とされてしまう鬼太郎。そのとき、ねこ娘が登場。かみつかれた拍子に夜叉が落としたギターは電車にはねられて壊れてしまった。体のもとへ帰っていく魂。髪の毛だけの正体にもどった夜叉は、死霊の穴に引きこまれていく。あとには体の代わりをしていたボロ人形だけが残された。

「あちち！」あやうく焼かれそうになるところだったねずみ男の体にも、ぎりぎりで魂がもどってきた。

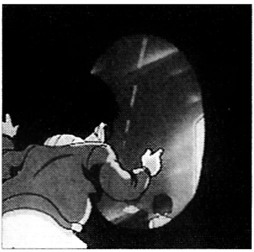


第4話

恐怖！ 鏡の国の鏡爺

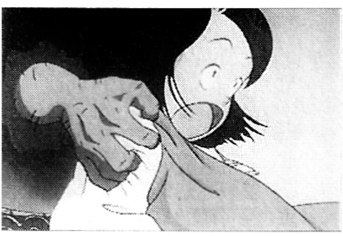
学校の階段。踊り場にかけられている古い鏡をみがいている真由子。と、とつぜん作業員の手がすべり、運んでいた大きなたなを落としてしまう。真由子にぶつかる！ 間一髪、真由子は鏡の中からでてきた手に、鏡の中へ引きこまれ、助かった。一体どうなっているのだろう？ そして、その鏡もゴミとして運びだされていくのだったが……。

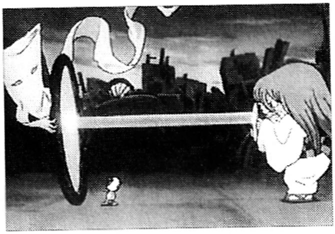
「あの古い鏡は、下校のチャイムが鳴るときにのぞくと、何も映らないって知ってたか？」とウソのうわさを祐子と淳に教えられた翔太は、おそるおそる下校時刻に鏡の前に立ってみた。あれ？ 鏡は持ち去られたはずでは……。



「何だ、ちゃんと映るじゃないか」翔太は調子に乗って『翔太参上』と鏡に書いた。そのとたん、鏡の中に引きずりこまれ、その鏡もスウッと消えていく！

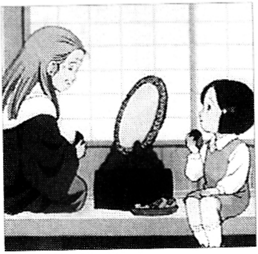
ゴミ置き場に置きざりになった鏡。それにサッカーのボールが当たると、ボールを蹴った子どもは鏡に引きこまれ、そうじのほこりがかかれ





ば、はいた子どもが引きこまれた。学校は誘拐事件かと警察に捜査をたのむが警察はねずみ男を逮捕した。

祐子の話を聞き、やってきた鬼太郎も、まんまと鏡の中へ引きこまれてしまう。鏡爺のしわざだ。鏡爺は鏡の中の世界では無敵である。体を回転させて下駄を飛ばす、鬼太郎の必殺技ゲタトルネードも通用しない。しかも、目玉おやじが助けを呼びにいっている間に、鏡は清掃員に運びだされトラックから落ちて割れてしまったのだ。



あわてて破片を広い集め、合わせ鏡でこちらの世界との通路を開く砂かけ婆。逆にこちらの世界では、鏡爺は鬼太郎の敵ではなかった…。そこへいきなり鏡爺を助けてほしいと真由子が飛びこんできた。鏡爺の鏡は学校ができたときからあり、学校を守ってきたのに、古くなったからとかんたんにゴミ扱いされてしまうのが悔しかったのだ……。

その後、鏡爺の鏡は田舎の学校におくられ、今もたいせつにされている。

一方、ねずみ男は最後まで留置場に入れられたままだった。



●立間真由子



●校長先生

第5話

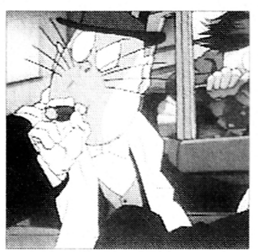
ダイヤ妖怪・輪入道

　ケンが交番にかけこんできた。父親が行方不明になってしまったというのだ。実は他にも同じような被害者が、いっぱい交番につめかけていた。

　ケンの町にやってきた鬼太郎だが、神隠しがこわくて店はどこも閉じていた。だが、一軒だけ妙に繁盛している店がある。『ダイヤモンドの大安売り！』社長はなんとねずみ男。しかもダイヤからは、ただならぬ妖気が発せられているのであった。

　ねずみ男がゴーストタウンであやし気な男と取り引きをしている。ここは景気がよかったときにドンドン開発されていったが、とつぜんの不景気で放りだされ、完成もしないままに、住む人もなくなってしまった欲望の墓場だった。こういうところには、妖怪・輪入道がでるのだ。

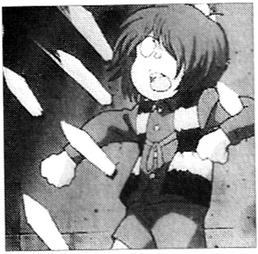




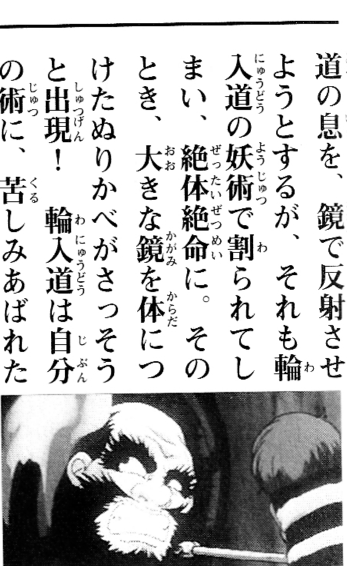
　ねずみ男がいかにも欲の深そうなオバさんたちをつれてゴーストタウンの地下に入っていく。そこには地下鉄を通そうとした跡まであり、車両もそのまま打ちすてられていた。鬼太郎につけられ

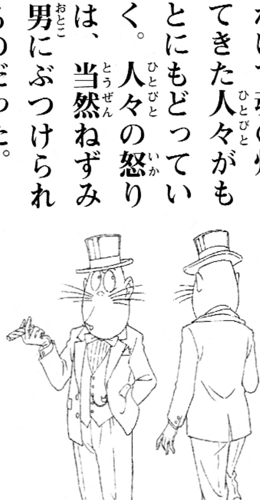
ていることに気づいたねずみ男は、その地下鉄を動かして鬼太郎をはね飛ばそうとする。しかし危ないところで一反木綿が登場。

ねずみ男たちの入った地下には、まさに心配したとおり、輪入道が待ち構えていた。オバさんたちが次々と魂を抜かれて、ダイヤモンドに変えられてしまう。「魂よりも食いカスのダイヤの方がいいのか？」とたずねる輪入道に、ねずみ男は「人間社会では、魂よりダイヤの方が価値があるんですよ」と、なかなかするどい答えをする。



そこに一反木綿に乗る鬼太郎とねこ娘が現れる。だが、ねこ娘もダイヤに変えられてしまった！ 鬼太郎は人をダイヤに変える輪入道の息を、鏡で反射させようとするが、それも輪入道の妖術で割られてしまい、絶体絶命に。そのとき、大きな鏡を体につけたぬりかべがさっそうと出現！ 輪入道は自分の術に、苦しみあばれたために生き埋めになる。そのおかげで魂の帰ってきた人々がもとにもどっていく。人々の怒りは、当然ねずみ男にぶつけられるのだった。





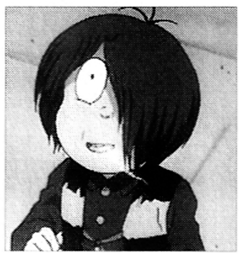
●ねずみ男

第6話

暴走！　鬼太郎牛鬼

小さな牛鬼島には外国からきた神様・カルラがまつられていた。その沖には奇怪な形の牛鬼岩がある。その岩には、昔、カルラ様が妖怪・牛鬼を封じたという伝説があった。

　豪華クルーザーでやってくる社長とその取り巻き。牛鬼岩で釣りをしようという社長をたしなめるが、「そんなものは迷信」だ、と相手にしない。岩にはられていたお札もはがしてしまう。するととつぜん海から巨大な牛鬼が現れた！　とても逃げられそうにない。そこで社長はクルーザーで体当たりをする。苦しみもがいて沈んでいく牛鬼。と、ここまではよかったのだが……。



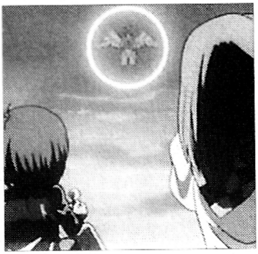
旅館にもどった社長は急に性格が荒々しくなり、かくれて生肉をかじるようになってしまった。牛鬼を殺したものは牛鬼になってしまう、ということを知ったねずみ男は、またもお金をせしめようと考え、おはらいをしてやろうと申してるが、凶暴化した社長には近づくこともできない。ついには完全な牛鬼になってあばれだしてしまう。



強い妖気を感じて鬼太郎がやってきた。激戦のすえ牛鬼を倒すが、なんと牛鬼の魂は、鬼太郎にも乗り移ってしまった！　同じ牛鬼でも鬼太郎の化けたものだ、その妖力は並ではない。しかも牛鬼は自分の意思とかかわりなく、あばれ回るのだ。急を聞いてかけつけた子泣き爺も一反木綿も、ヌリカベも倒された。飛びだした目玉おやじの説得に一時は動きが止まるが、それ以上はどうしたらいいのか……。

そのとき、村人たちの避難していた神社から、カルラ様がその姿を現した。カルラ様の吹く笛に牛鬼の動きは止まり、海の方へさそわれていく。そして、とうとう鬼太郎牛鬼は海の中へ沈んでいった。鬼太郎は死んでしまったのだろうか？　悲しむ目玉おやじにカルラ様はいった。「封印をといた人間はけしからんが、今回は目玉おやじに免じて許す」もとの姿にもどった鬼太郎が海の上に浮かんでくる。「人間は世界の支配者ではない。おごってはいけない」そういってカルラ様はもどっていった。親の愛が息子を救ったのだ。







●開発会社社長

●ねずみ男の巫女

第7話

妖怪のっぺらぼう！

下校途中、信号待ちをしていた祐子は、向い側に帽子にサングラス、マフラーで顔を隠している男を見かける。最近、街ではのっぺらぼうのうわさが流れていた。その男のふんい気が、妙にそののっぺらぼうを思いおこさせるものだったので、祐子は急にドキドキしはじめた。

でも、サングラスを外したその顔はふつうの人だった。いっしょに横断歩道を渡ってきた女の人と待ち合わせていたのだ。

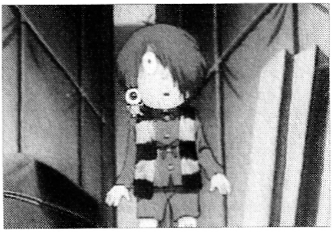


ソバ屋で食事をするそのカップル。のっぺらぼうの話を思いだして笑っている。「本当にいるんなら会ってみたいわよねぇ」「会わせてあげましょうか」そういったソバ屋の顔は……。

雨がはげしくふっている。ソバ屋さんの軒先で雨宿りをするねずみ男。「入りなさいよ、ソバをおごりますよ」といわれて遠慮なく入り、おかわりをするねずみ男。そして……。

鬼太郎がカップルの相談にのっている。ふたり





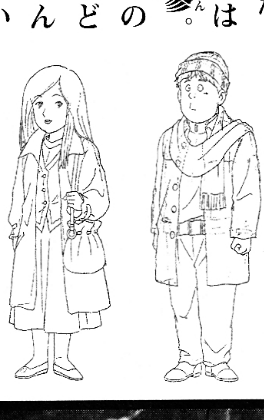
は顔を盗られていたのだ。のっぺらぼうを探す鬼太郎。そこでやはり顔を盗れたねずみ男に会う。あわれにも顔を描いてごまかしているではないか。

祐子の知らせでのっぺらぼうのでた工事現場へ鬼太郎たちはむかった。顔を盗られたねずみ男がのっぺらぼうに飛びかかる。厨房の方へ逃げるのっぺらぼう。料理上手ののっぺらぼうは、台所でこそ、その力を発揮するのだ。すばやい動きにねこ娘、一反木綿、ヌリカベと、次々と顔を盗られていく。ねずみ



男とぶつかる鬼太郎。「おい、うろうろするな」「鬼太郎、そいつはねずみ男じゃないわ」ねこ娘の声によく相手を見ると、のっぺらぼうがねずみ男の顔を描いていたのだ。そして鬼太郎も捕まり、とうとう餅にされてしまう。

しかしのっぺらぼうがそれを食べたとたん、お腹がふくれはじめた。霊毛ちゃんちゃんこが体の中で広がったのだ。のっぺらぼうはたまらず降参。鬼太郎は人々の顔をもとにもどし、二度とこんなことをしないと誓わせた。



●美女

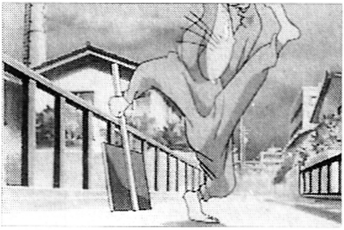
●青年

第8話 妖怪かに坊主と河童

河童淵で、老人とその孫が河童をまつった祠にキュウリをそなえている。こうしてまつられるようになってから、河童はイタズラをしなくなり、人間と争わずにすんでいたのだったが、とつぜん河童がふたりに襲いかかり、トラックに積んであった野菜まで持っていってしまった。一体どうしたことなのだろう？

そのころ、あいかわらずお金のないねずみ男は「何でもするよ～」と職探し。そのとき「本当に何でもするか？」「お前強いか？」と姿なき声がたずねてくる。そして、「おう、オレは強いぞ」と答えたとたん、ねずみ男は川に投げこまれていた。

鬼太郎は、河童があばれて困るという手紙を受け取ったが、どうも納得できない。



そこへねずみ男がやってきて、妖怪に襲われた、とすがりつく。川にいってみると、そこにいたのは3匹の子河童だった。子河童たちの話では、しばらく前に現れたふしぎな黒雲からでる泡で、仲





間が凶暴になってしまったのだという。そこで助けてくれる強い人を探していたのだ。
河童淵までやってきた鬼太郎は河童たちを説得しようとするが、何か術にかけられていて話が通じない。河童とは戦えない鬼太郎がつれてこられたのは、かに坊主のすみかだった。かに坊主も本来は山の沼の中でおとなしくしている妖怪なのだが、人間の無神経な開発に怒り、ここを乗っ取ったのだ。毒で動けなくされた鬼太郎だったが、子河童たちに助けられ、なんとか地上へ脱出した。砂かけ婆のまいた気つけ薬で、正気にもどった河童たちは、かに坊主に石を投げて対抗！　元気になった鬼太郎はすばやく走ってかに坊主の目をくらませた。かには横にしか歩けないのだ。鬼太郎に髪の毛でしばられてエネルギーをぬかれるかに坊主。
　かに坊主の正体は、長生きした上海ガニだった。その昔、徐福という方士（占いや不老不死を研究する人）に中国から日本へつれてこられて以来、2千年も生きていたのであった。



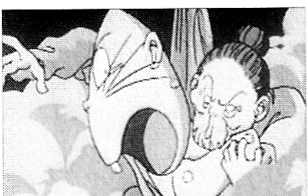


第9話
爆走！ 鬼太郎機関車

見るからに人相の悪いふたりのヤクザがゲゲゲの森にやってきた。「鬼太郎っていうのはおまえさんか？」彼らは借金の取り立てにきたという。ねずみ男がかってに鬼太郎を保証人にしたのだ。すごむヤクザ。ところが、目玉おやじが姿を見せたとたん、一目散に逃げてしまった。

　一方そのころ、ねずみ男は借金取りから逃げるため、あわてて汽車に乗りこんでいた。今日で廃線になる雪泊村行きの列車だ。中では今日の記念にと、金髪美女モンローがワインのサービス。しかし、そのモンローの正体は、吸血鬼ピーの仲間だった。

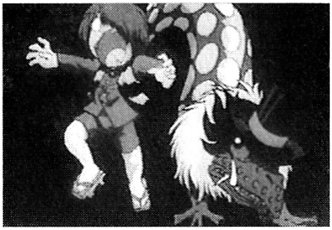


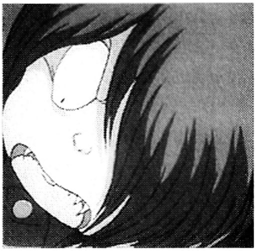


いねむりしていて終点までできてしまったねずみ男は、おこしてくれたお婆さんに、泊めてもらえないか、とたのむ。しかし「どこの家にでも勝手に泊まれ。ここは過疎の村で空き家ばかりじゃ」という。

　その夜。空き家で寝ていたねずみ男は、お婆さんにかみつかれる。幸いなことに、お婆さんには歯がなかったのだが、ね

ずみ男もすでに吸血鬼となっていた。列車で飲んだワインのせいだ。
　モンローのにせ手紙でおびきだされた鬼太郎がその村にやってくるが、ねずみ男にかまれて傷をおった。手当てをしなくては、とモンローがつけた薬こそ、実はワインに入っていたのと同じ吸血鬼になる薬だった。反対にねずみ男は吸血鬼の毒がぬけていた。鬼太郎にはり飛ばされてポストの下じきになったため、フグの毒を消すときのように、土に毒が逃げたのだ（迷信です）。





　ピーは廃線になった列車に吸血鬼になった人々を乗せ、街に送りだそうとしていた。運転しているのは吸血鬼にされて、正気を失ってしまった鬼太郎だ。だが、ヌリカベたちの活躍で客車が切り離された。怒ったピーはポイントを切りかえて、鬼太郎の乗る機関車を山に激突させた。だが、それは大失敗！　土にうまったおかげで、鬼太郎の毒がぬけてしまったのだ。
　ピーは正気にもどった鬼太郎の敵ではなく、毒ぬきのため、よく朝モンローと首まで土に埋められていた。



第10話

怪奇！　妖怪万年竹

深い竹やぶの中。ふたり組のドロボウが歩いていく先に、古いがりっぱな屋敷が見えてくる。どうやら空き家になっているその屋敷に、お宝があるといううわさを聞きつけてやってきたらしい。

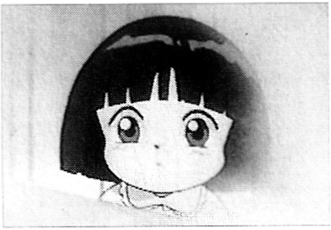
しかし、竹やぶの中にはするどく光る目が……。

さて、鬼太郎たちがトランプを楽しんでいると、手紙が運ばれてくる。その差出人は、なんとねずみ男だった。こんどは不動産屋になって、例の竹屋敷を売りつけようとしているらしい。そこの妖怪を追っぱらえ、というわけだ。成金趣味の奥さんとその秘書が、もうお客としてついてきているため、鬼太郎もしかたなくついていく。しかし、いくら歩いても竹屋敷は見えてこない、ようやく到着したときには夜になっていた。入ってみると電気はちゃんときていた。室内はちょっとよごれてはいるが、家具もりっぱなものだ。風呂場のお湯もでるようになっていた。



鬼太郎は別の部屋で女の子の肖像画を見つける。

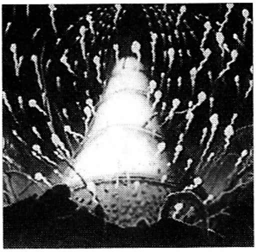




『エリ・8歳』。日記もそのままだ。その中には秘密の入口がある、とか、光の中にお友達がいる、などと書いてある。

そのとき、秘書が鏡に引きこまれ、竹人間に変えられてしまった。そして、風呂場にいた奥さんも！　鬼太郎とねずみ男は、ゾロゾロと現れる竹人間にマッチの火で立ちむかうがキリがない。とうとうねずみ男も捕まって竹人間にされてしまった。

日記の内容を思いだした鬼太郎は、肖像画のあった部屋で秘密の入口を見つけ、地下道



へ脱出する。そして、光の中の友達とは、妖怪・万年竹であった。体が弱く、友達のいなかったエリは、いつも万年竹のところへきては遊んでいたが、ある日とうとう病気が悪くなって死んでしまった。万年竹はその思い出の場所を荒らされないよう、近づく人間を竹人間に変えていたのだ。目玉おやじはいった「エリちゃんは悲しんでおるぞ。彼女はあと百年でお前のとなりに生える竹に生まれ変わるのに」やさしいエリの魂はその日を待って、今も万年竹のそばにいるのだった。

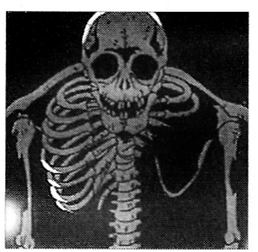


第11話
毛羽毛現とがしゃどくろ

新しく霊山に開通したハイウェイはいつも渋滞していた。夜になってもすいてくるようすはない。たちこめる霧。何だ？　霧の中から聞こえてくる大きな足音にドライバーが目をこらすと、高層ビルほどもある巨大なガイコツが迫っていた！

　鬼太郎が新聞で事件を知り、ハイウェイにやってきた。巨大なガイコツは妖怪・がしゃどくろだ。鬼太郎は、なぜあばれるのかがしゃどくろにたずねるが、答えずに次と車をふみつぶしていく。やむをえず妖怪ぶえのムチで足をしばると、かんたんに転んでバラバラになってしまった。しかし、油断して近づくと、こんどはろっ骨が鳥かごのように組みあわさり、鬼太郎を捕らえて山奥へ飛びさってしまったのだ。





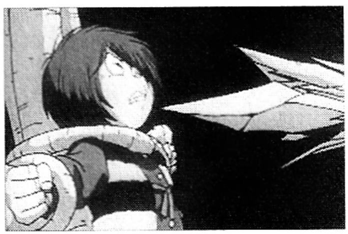
　がしゃどくろをあやつっていたのは、妖怪の中でも実力者の毛羽毛現だった。しかも体が大きい。毛羽毛現は鳥や獣のぬけた毛でできていた。動物の死体が多いほど大きくなるのだ。毛羽毛現が大

きくなったのは、自然保護地区のはずの霊山に道路ができたためだった。そんな計画が通ってしまうのは、ずるい建設会社の社長が、自然保護省の大臣にお金をわたしたからだ。鬼太郎はその大臣と社長をこらしめるために、妖怪に協力することにする。
　霊山で新しく発見された地獄温泉にいきましょう、とねずみ男にだまされた大臣と社長が、オンボロバスに乗せられてくる。ハイウェイのまわりにあるはずの自然はすっかり壊れ、さすがに大臣たちも気分が悪くなったようだ。



　着いた先は旅館とは名ばかりのあばら屋。無理やり強いお酒をのまされフラフラの大臣たち。「女の子との混浴」につられて露天風呂に入ってみれば、まわりは動物ばかり。ついには妖怪におどかされて、裸のまま逃げだした。それでも妖怪は追いかけてくる。最後は逃げ切れないと知って大臣と社長は土下座をして妖怪や動物たちにあやまり、それ以上の無計画な開発は中止となるのだった。
　これで少しは自然破壊もおさまるだろう。





第12話

陰謀！ 猫仙人の猫王国

祐子の友達の次郎は、お母さんに飼ってはいけないといわれてネコのミケをすてにきた。場所は近所では有名なネコすて場になっているゴーストタウンだ。次郎の足にすがるミケ。次郎は心ならずもミケをけとばしてその場をさっていった。

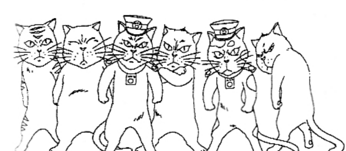
よく日、ねずみ男はとなり町でノラネコが増えて困っている、といううわさを聞き、ひともうけしようとネコ取り屋をはじめるが、注文はまったくない。



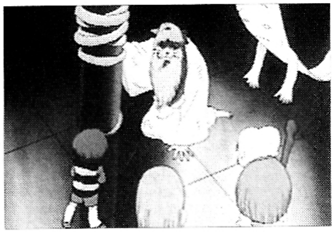
一方鬼太郎は次郎が行方不明になったことを祐子に聞き、ネコの妖怪のしわざではないかと考える。しかし、ネコ族妖怪のねこ娘は気が進まない。とりあえずミケをすてた場所にきてみると、なんと、ネコたちが人間のようにふるまい、お店を経営し、選挙演説までやっている！

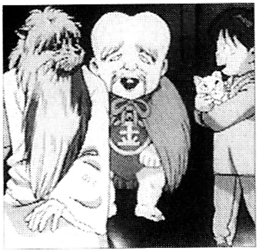
さらにペットショップでは人間が売られていた。店主の大黒猫は「今まで人間がネコにしてきたことをそのましているだけだ」といい、鬼太郎に裁判を見ないかとさそう。訴えられているの

●警備猫



はねずみ男と次郎だ。ミケは裁判官の大黒猫に、すてられた以外にされたことはないか、とたずねられるが、けとばされたことはいわなかった。すてたのは次郎の本心ではないことがわかっているからだ。次郎はペットの刑にされることになるが、そのとき、ねずみが裁判所に入ってきて大騒ぎになる。しょせんネコはネコ、人間のようにふるまっていたのは、大黒猫にあやつられていたためだった。大黒猫の正体は妖術使いの猫仙人だ。一度退却した鬼太郎





たちは、ねずみ男をオリに入れてリヤカーで運ぶ。追いかけてきたネコたちはねずみ男ごと土管に閉じこめられた。これで相手は猫仙人だけだ。無限にのびる腕で鬼太郎に襲いかかる猫仙人。しかし、その腕を逆に柱に結びつけられ、身動きできなくされてしまう。猫壺に封印してしまおうとする鬼太郎に、ゆるしてほしいとたのんだのは、ねこ娘だった。

人間たちもネコを乱暴にあつかわない、と約束したので、猫仙人は山奥へノラネコとともにさっていった。



●次郎



●仔猫ミケ

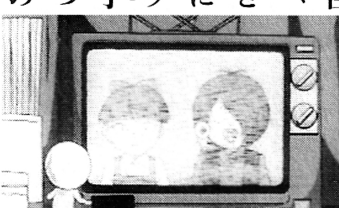
第13話

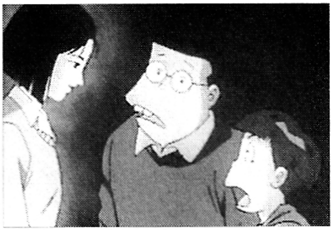
妖怪屋敷へいらっしゃい

とつぜん家庭のテレビにねずみ男が映る。「妖怪屋敷へいらっしゃい。最後まで逃げださなかった人には百万円!!」とねずみ男。テレビには、でたおぼえもないのにねこ娘も映っているのだった。

鬼太郎たちが妖怪屋敷へやってきてねずみ男に話を聞くと、おどかすのを手伝ってくれ、という。勝手にコマーシャルに使われた妖怪たちが、文句をいいに、ここへやってくるのを計算の上ではじめた商売だったのだ。「そんなこと手伝えるか!」帰ろうとする鬼太郎だったが……。「妖怪なんて非科学的なものは断じて認めん」と偉そうな学者先生。「妖怪なんて役立たずは絶滅しちまえ」とヤクザ風。これは妖怪としてちょっと聞きずてならない。屋敷の中では筋肉モリモリのボクシングチャンピオンが、妖怪なんかぶちのめしてやる、と鼻息も荒い。と、いきなりチャンピオンの体にたくさんの目が! ヤクザはあまりのこわさに子泣き爺をピストルで撃つが、ぜんぜんきかないの

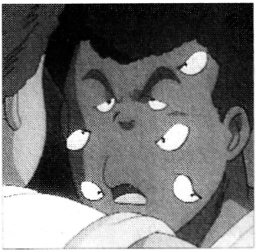






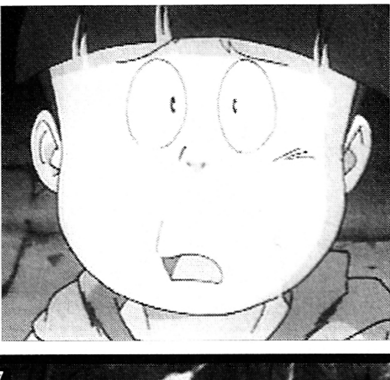
で逃げるしかない。学者先生は特に念入りにおどかされ、最後は妖怪信者に変わっていた。

しかし、ひとりだけ、まったく驚かないものがいた。小学生の太郎だ。腰をぬかしているお父さんにたずねると、1年前に母親が死んでから表情が変わらなくなってしまったのだという。泣くのでもいい、子どもらしい感情を取りもどしてほしいと思って妖怪屋敷にきたのだ。妖怪たちは全力で泣かそう、あるいは笑わそうとするが、太郎の表情はぜんぜん



変わらない。鬼太郎にとってもこんなに手強い相手ははじめてだ。

だが、気がつくと太郎のそばにずっと人魂がついているのだ。ちゃんちゃんこをかぶせると、それは母親の姿になった。太郎の目の前で車にはねられてしまったお母さん。しかし、それはたまたまバーゲンの看板に気を取られてしまったためで、太郎が声をかけたせいではなかった。それを知らない太郎は、ずっと自分のせいでお母さんが死んだと思っていたのだ。これで太郎に感情がもどった。



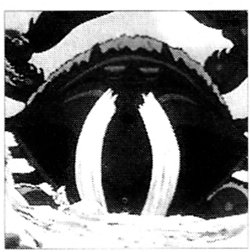
第14話

蜃気楼海竜・みずち

会社の一室。気の弱そうなサラリーマン・松本敏男が残業を押しつけられている。今日は息子の健吾の誕生日。早く帰ってキャッチボールをしてやる約束だったのに……。帰りはとうとう終電になってしまい、いねむりをして終点のゆめみ海岸までいってしまう。そのとき、仙人のような姿の老人が現れ、永遠の極楽・蓬莱島にこないかとさそった。

健吾のお父さんの行方不明を祐子から聞いた鬼太郎は、捜しだす約束をする。手がかりは「蓬莱島にいる」とだけ書かれた敏男からの手紙だ。蓬莱島のことにくわしいかに坊主は、蓬莱島とは、自分がまだふつうの上海ガニだった2千年ほどまえ、自分を日本につれてきた方士・徐福のめざしたこの世の極楽だ。いきたいと願うもののみのいける場所である、と教える。ただし、邪念のあるものにはその場所を教えたくない、とジロリとねずみ男を見た。





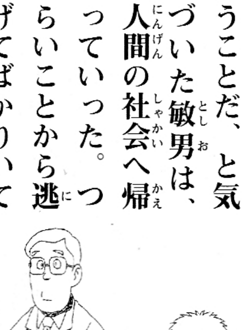
ねずみ男を海岸にしばりつけ、鬼太郎一行はかに坊主に乗って蓬莱島へ

むかう。蓬莱島に着くや、とつぜん仙人が襲いかかってくる。その術には鬼太郎もかなわず、ヒョウタンの中に閉じこめられてしまった。その仙人が徐福だった。鬼太郎たちを宝物めあてのドロボウだと思ったのだが、目的が敏男を探しにきたと知り案内してくれる。敏男は健吾の顔を見ても、それが誰だか思いだせないほどボーッとしていた。

そのとき、とつぜん蓬莱島が消えはじめる。タライに乗って追ってきたねずみ男のせいだ。ねずみ男が宝石だと思って地面からはがしたのは蛟のウロコだったのだ。蛟はふだんはおとなしく蜃気楼をはいて蓬莱島を作っているのだが、ウロコをはがされると怒ってあばれるのだ。鬼太郎とかに坊主が必死に蛟を止め、ねずみ男はしぶしぶウロコを返した。

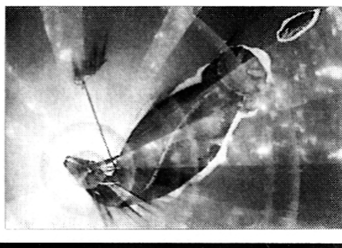
敏男は、健吾にキャッチボールをせがまれ、だんだんと以前のことを思いだす。年をとらないということは、成長もしないということだ、と気づいた敏男は、人間の社会へ帰っていった。つらいことから逃げてばかりいてもだめなのだ。





●松本敏男

●松本健吾

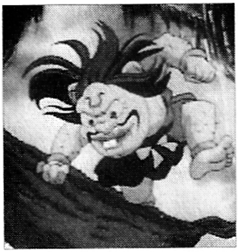


第15話

悪夢！ 妖怪まくら返し

どことも知れないふしぎな場所。祥一が、大きな切り株をケンケンのように渡って遊んでいる。そこへ変なオジさんが現れ「もっと奥へこないか」とさそう。「いいよ、もう塾にいかなくっちゃ…」ハッと気がつくと、それは夢だった。

よく日、翔太は祥一をゲームにさそうが、祥一の手帳は習いごとのスケジュールでいっぱい。「夢の中の方がいいや、思いっ切り遊べるもん」と、なんだか年よりみたいだ。

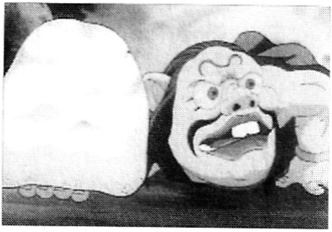




さらによく日、祥一の姿はふとんの中からこつ然と消えていた。心配する両親からいくらかせしめようと、ねずみ男がやってくる。夢占い、などと名乗ってはみたがいい方法があるはずもない。けっきょく鬼太郎に相談。「それは、まくら返しのしわざじゃろう」と目玉おやじはいう。こんな世の中より夢の中の方がいい…、と思ってばかりいると、まくら返しにつれさられてしまうのだ。鬼太郎とねずみ男は夢の世界へ入るため、迷いの森へむかった。

虹の橋を渡って夢の世界へ入ると、祥一がまゆに閉じこめられ、幸せそうな顔で眠っている。だが、助けだそうとしたところでまくら返しが登場、鬼太郎は薬で眠らされてしまう。ここでふだんのねずみ男なら見すてて逃げてしまうところだが、今回は謝礼がかかっている。目玉おやじのアドバイスもあり、落ちていた岩塩でまくら返しの手を溶かし、追いはらった。

祥一を取り返し、まくら返しの手を手に入れたふたりは、古寺に仲間を集めてまくら返





しをむかえ撃つ。だが、まくら返しは次々とみんなを眠らせ、祥一をつれていこうとする。眠ったものは幸せな夢を見ていた。この気持ちよさにいつまでも眠っていると、そのうちまくら返しに魂を盗られてしまうのだ。鬼太郎は髪の毛でまくら返しをしばり、必死に足どめ。そこにねずみ男が漬物屋さんからくすねてきた塩をまくら返しにぶつける。

まくら返しは封印されて、祥一はもどった。「どうしてお礼をもらわないんだ」またもねずみ男だけがふきげんだった。

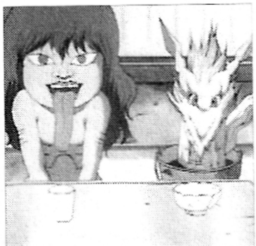


第16話

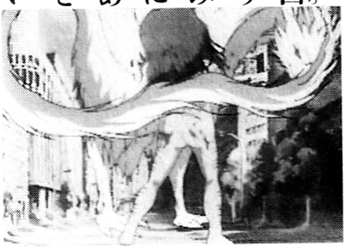
あかなめと白うねり

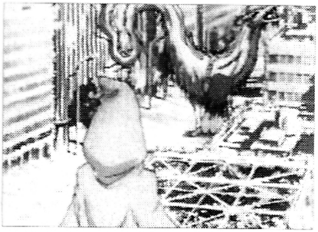
すさまじくきたないカビだらけの部屋。そのカビがモゾモゾと動く。ねずみ男だ。「なんだこりゃ?」さすがにこのよごれ方は彼のせいだけではないようだ。ねずみ男が流し場へいくと、そこには白うねりが、風呂場にはあかなめがいた。カビは白うねりのせいだったのだ。「ここに住まわせてやるから、おれのいうことを聞け」ねずみ男はまたセコい商売を思いついたようだ。

　人間の掃除道具では取れないよごれを白うねりにつけさせ、それをクリーニングといつわりあかなめに取らせる、というのがねずみ男の作戦だった。これでボロもうけ、と喜んでいると、鬼太郎たちがやってくる。調子に乗りチラシまでまいたためだ。「そんなことをされては妖怪の信用ガタ落ちじゃ」



　仕事を止められては白うねりとあかなめを養うことはできない。ねずみ男は白うねりをバケツに入れてドブ川に流し、あかなめには心ならずもさよならをいって別れてい





った。
よく朝。とつぜんドブ川からカビが吹きだし、町中をおおっていく。あまりにきたない都会のよごれをめいっぱい吸収したため、怪獣のように巨大になり、性格も凶暴に変わってしまった白うねりのしわざだ。鬼太郎もまったく歯が立たない。ねずみ男のことも忘れてしまったらしい。カビを吐きかけられたねずみ男を助けたのは、これも巨大になったあかなめだった。あかなめは白うねりをなめて小さくしようとするが、はげし



くあばれる白うねりに倒されてしまう。
そのとき、砂かけ婆によばれた雷神と風神が現れる。彼らは風雨をおこしてあかなめと白うねりを洗い流した。「もうやめてくれ～」小さくなり、おとなしくなった白うねりとあかなめをかばうようにねずみ男が立ちふさがり、泣いて命ごいをする。ねずみ男にもそんな心があったのだ。雷神と風神は、そのようすを見た鬼太郎に説得され、空の彼方へとさっていくのだった。
やはり、都会は妖怪には住みにくいところなのだろうか……。



第17話

海奇！ 妖怪さざえ鬼

夜の海岸。逃げてくる子どもの影。またそれを追う怪しい影。

よく朝。ねずみ男は縁起物の人魚のミイラを老漁師に売りつけようとしていた。だが、よく見るとキューピーさんに干物をくっつけたインチキである。そんなもの売れるはずもない。と、むこうから鬼太郎がやってくる。しかも人魚の子どもをかかえているではないか。

「どうするんだ、それ」

「売ってお金にするのさ。今の世の中、お金がなくちゃなにもできないからな」鬼太郎にしてはめずらしいことをいう。

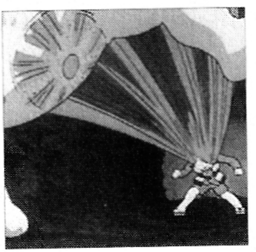
ねずみ男がそんな鬼太郎と別れると、またも鬼太郎がやってきた。

「さっきの売れたかい」

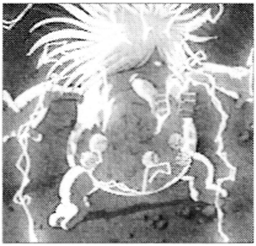
「何いってんだ。今きたところだよ」人魚を売り歩いていたのはニセ鬼太郎だったのだ。



ニセ鬼太郎が人魚を捕ったという天狗岩にふたりがきてみると、子どもたちと人魚の子どもがいた。さざえ鬼が現れて、人魚をさらっていくというのだ。鬼太郎がその子人魚の案内で海底にむか



うと、そこにあった怪しい鉄扉が開き、彼らを吸いこんでしまった。
ニセ鬼太郎の正体こそさざえ鬼だった。より強い妖力を得るため、鬼太郎を食おうと考えたさざえ鬼は、わざとめだつ行動をして鬼太郎をおびきよせたのだ。毒薬で力を失った鬼太郎に迫るさざえ鬼。鬼太郎は最後の力をふりしぼり放電するが、ついに岩にはさまれ、食べられてしまった。人魚に恩を売っておけば、のちのち天狗岩にレジャーランドが作れる、と考えたねずみ男が助けにきたが、かなうはずがない。やはり食べられそうになるのを救ったのは子人魚だった。石をぶつけられてひるむさざえ鬼。その体から汗のような液体が流れだした。「何だこりゃ？」。その液体が蒸発するように煙りたち、だんだん人の形に……。鬼太郎だ！　死んではいなかったのだ。さざえ鬼はちゃんちゃんこで動きを止められ、弱点である舌の目を髪の毛バリで撃ちぬかれる。



力をなくしたさざえ鬼の正体は、年をとった弱々しいさざえだった……。



●磯の少年達



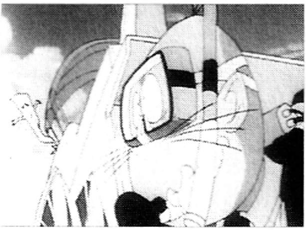
第18話
深海の奇跡！　化け鯨

ドラムカンにつめられた怪しげな液体を海にすてている男たち。『不法投棄』というやつだ。いくつかのドラムカンの口が開いてしまい、中身が流れだす。すると、それが合図だったかのように巨大な影が動きだした。

　その近くで昔の難破船が発見され、宝探しダイビングツアーが行われることになった。が、巨大な化け物のうわさは鬼太郎の耳にもとどいていて、ねこ娘と現場へ向かった。「宝探し」につられたねずみ男も、先に一反木綿とむかっていた。

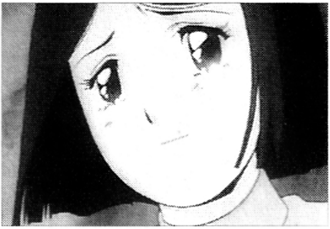


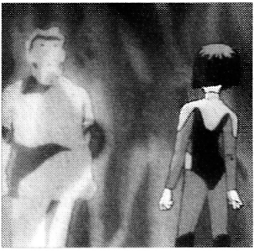
　ダイビングツアーの船の上では参加者の女性たちがはしゃいでいる。だが静子だけはひとりしんみり。静子のお父さんは有名なクジラの研究家だったが、この近くで行方不明になっていたのだ。客たちは難破船をめざして潜っていく。



　一反木綿に乗ってきたねずみ男は、船に忍びこみ潜水具を盗み、なにくわぬ顔でツアーに参加。一方近くに沈んでいた例のゴミのふたがまた開いてしまう……。

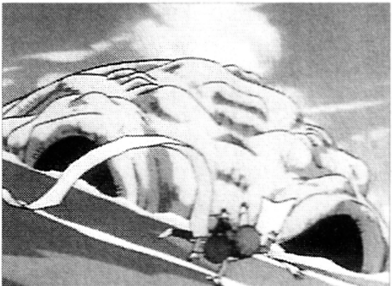
鬼太郎たちがやってきて、船に結びつけられていた一反木綿をほどいていると、すさまじい霊気がただよってくる。「ここはクジラの墓場じゃ！」化け鯨が巨大な姿を現した。ブイにつかまっていたねずみ男と、船から落ちた静子は化け鯨に飲みこまれてしまう。後を追う鬼太郎。化け鯨の腹の中では、ねずみ男がふるえていた。だが、静子は「私を呼ぶ声がする」と、どんどん奥へ入っていってしまう。そこには静子のお父さんの魂がいた。お父さんは





嵐で死んで、はじめて追い続けていた謎のクジラ『化け鯨』に会うことができたという。「こんど結婚するのよ」静子はただそれを伝えたいために、お父さんをさがしていたのだ。うれしそうなお父さん。彼は「化け鯨は、クジラたちの神聖な場所である墓を守っているだけで、人間を襲うつもりはない。ここに近づかないように人々に伝えてください」といって消えた。

潮吹き穴から外へだされる鬼太郎たち。静子は、化け鯨の消えていった海をいつまでも見つめていた……。

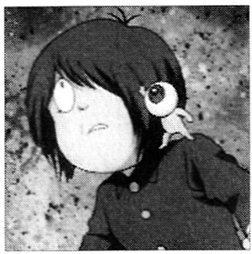


第19話

恐怖！　妖怪くびれ鬼

パソコンができなくてきげんの悪い中年のサラリーマン・筒井俊彦。そんな俊彦に声をかける黒ずくめの男がいた。楽しかった子どものころに連れていってくれるという。はたしてそんなことができるのだろうか……？

それから、俊彦はきげんが良くなった。しかし、いつもニコニコしてはいるが、体はどんどんやせている。心配する娘の晴美は祐子の友達だった。手紙を見た鬼太郎は、夜タバコを買いにでた俊彦の後をつけるが、俊彦は怪しい人物と路地に入って消えてしまう。そこにはかすかに妖気が残っていた。



俊彦がいたのは、まさに自分の子ども時代の世界だった。自分も子どもにもどり、紙芝居のオジさんにもらった駄菓子を食べる。こんな幸せがまたとあろうか……。しかし、ここは黄泉の世界だった。黄泉の世界にきたものは幸せな理想郷につつまれるが、そこでものを食べれば現実世界のものが食べられなくなり、ついには死んでしまうのだ。も





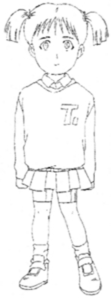
どってきた俊彦を妖怪遠眼鏡で見ると、魂は激ヤセ。もうひと口黄泉の世界のものを食べれば死んでしまうだろう。

ふたたび追いかけていた俊彦を鬼太郎たちは見失ってしまう。だが、妖気のただよう場所に砂かけ婆が砂をまくと、神だなのような形の黄泉への入口が現れる。俊彦をさがす鬼太郎たち。あやうく黄泉の世界のオハギを食べてしまうところだった俊彦を救ったのは、なんとねずみ男だった。オハギを先に食べてしまったのである。



紙芝居のオジさんの正体はくびれ鬼だった。鬼太郎の力も黄泉の世界ではくびれ鬼には通じない。そこで妖怪ぶえのムチを次元の穴に通し、現実世界へくびれ鬼を引きずりだす作戦を行う。ついにちゃんちゃんこでくるまれて動けなくなったくびれ鬼は、えらいお坊さんのお墓のある山に封じられることになった。

俊彦は「つらいことばかり考えず、自分の両親がそうしてくれたように、しっかり生きて、子どもを育てます」と、約束するのだった。



●筒井晴美



●筒井敏子

第20話

冒険！　絶海の人食い島

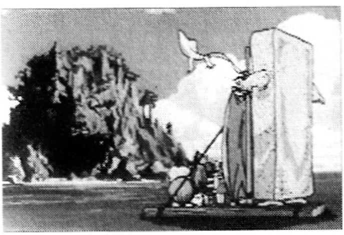
人食い島近海。その近くに伝説の宝物がある、といううわさを聞き、ダイバーたちがやってくる。彼らがもぐって調べようとすると、とつぜん津波がおき、一瞬にしてダイバーたちはのみこまれてしまった。

イカダで現場へやってくる鬼太郎たち。心を入れかえ、人助けをするというねずみ男がまっ先に飛びこむが、もちろん本心はお宝めあてであることはいうまでもない。

そこにまたも津波が襲った。ねずみ男は人食い島の洞くつにのみこまれ、鬼太郎たちは浜に流れつく。洞くつを調べようとすると、中はツルツルでいっぺんに深い底へすべり落ちてしまった。

先に洞くつに入っていたねずみ男は、中で出会ったダイバーたちの忠告を聞かなかったため、恐ろしくくさいドロ（実はウンコ）にもみくちゃにされ、海の中へ放りだされる。と、そこに光るものが……。伝説のお宝だ！

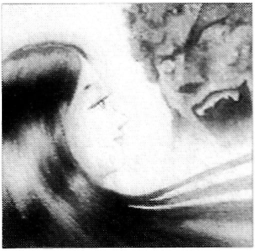
一方ダイバーたちは一反木綿につかまって脱出

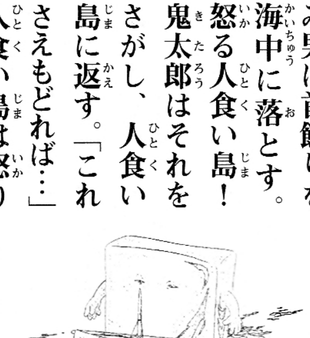




しようとするが、洞くつの入口はなくなっていて、あふれてきた液体に押しもどされてしまう。こんどは鬼太郎たちがむかっていくと、クシャミのような音がして、突風とともに外へはきだされた。見ると島の海面下は人の体のような形をしているではないか！　人食い島自体が、巨大な妖怪だったのだ。早く助けないとダイバーたちが胃液で溶かされてしまう。

ねずみ男は命からがらイカダにしがみつく。その手にはりっぱな真珠の首飾りがにぎられていた。それを見た人食い島が動きだした。首飾りは千年前、人食い島が人を食べていたころ、ひとりの美しい娘にもらったものだった。「私の命と、この首飾りを差しあげますから、他の人を食べるのをやめてください」という娘の心にうたれ、現代まで約束を守ってきたというのに……。人食い島があばれだしたためにねずみ男は首飾りを海中に落とす。怒る人食い島！　鬼太郎はそれをさがし、人食い島に返す。「これさえもどれば…」人食い島は怒りをしずめた。





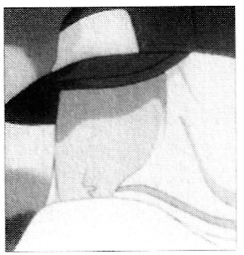
●イカダ

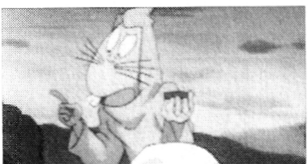


第21話 白粉婆とのっぺらぼう

夕ぐれ。ハイキング帰りの若いふたりの女性が山道を歩いている。と、わき水のところにかがんでいる老婆が。クルリと振りむいた、その顔は！

ねずみ男が村のオバさんたちを集めて白粉を売っている。「ぬればたちまち若がえる。都会のデパートで買えば1万円の品が3千円！」いつものインチキ商売にくらべればまだマシに思えたのだが…。その白粉をつけた人々は次々と顔をなくしていった。3日後に結婚をひかえた葉子は「これではお嫁にいけない」と泣き暮らしている。弟はうわさに聞こえた鬼太郎に手紙を書いた。



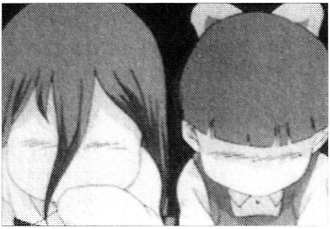


やってきた鬼太郎は、近所でのっぺらぼうを見たとカラスに聞く。道をたずねようと農作業をするおじさんに声をかけると、なんとのっぺらぼうだった。グルメののっぺらぼうは自分で料理の材料を作るのにいそがしく、もう人の顔は盗っていないという。逆に事件解決に協力することを約束した。のっぺらぼうは、その手口から「のっぺら一族はグルメなので材料に

もこだわる。あんな乱暴な顔の盗り方はしない」と鬼太郎につげた。

そのころ、事情を知らない砂かけ婆やねこ娘も、ねずみ男の白粉で顔を盗られていた。「女はいくつになっても若がえるという言葉に弱いのじゃ」「ええぃ、なさけない。のう、子なき」子泣き爺も顔を盗られていた……。

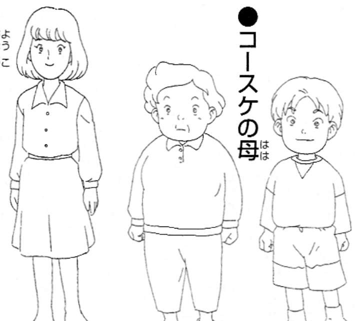
みんなに袋だたきにされるねずみ男。「知らねぇよ。売り上げは全部やるから売ってこい、ってたのまれたんだ」。鬼太郎は敵の正





体をさぐるため、自分の顔にその白粉をぬってみると……。顔を集めていたのは白粉婆だった。自分が若がえるための材料として、女の人の顔を集めていたのだ。「あなたには顔を盗られた人の気持ちがわからんのでしょう」と白粉婆の顔を盗んでしまうのっぺらぼう。ここにいたり白粉婆もついにかんねんし、盗んだ顔を返した。

「人助けは気持ちがいいですね」と、のっぺらぼうは目のない顔で笑い、鬼太郎たちとともに葉子の嫁入りをあたたかく見送るのだった。



●コースケ

●コースケの母

●葉子

第22話

蜂起！ 妖怪泥田坊

田園地域も開発され、都市化が進む。トボトボ夜道を歩いていたねずみ男は、「田を返せ！」という声とともに田んぼから現れた腕に驚いて逃げだした。

ねずみ男から話を聞いた鬼太郎は、さわぎになる前に調べようと、その町にやってくる。同じころ、筒井直也が、お父さん、お母さんとともに、その町にあるおじいちゃんの家をたずねてきた。おじいちゃんの家はこのあたりに残った数少ない

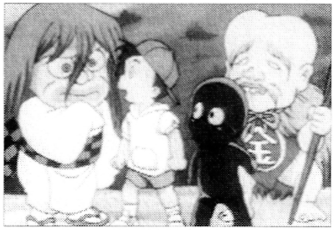


農家で、毎年田植えの手伝いにくるのだ。都会の学校に通う直也は、これが楽しみだった。虫やザリガニを追いかける直也。見ると泥でまっ黒によごれた子どもが、ニコニコと立っている。夕方、その子をつれておじいちゃんの家にもどり、井戸水で体を洗っていると……。いつの間にかその子の姿が消えていた。実は水に溶けて流れていたのだ。

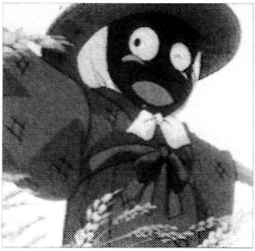
その夜。もう農業はやめようかと相談するお父さんとおじいちゃん。まわりはどんどん宅地にな



り、また年よりだけで農業はできない。でも、田んぼがなくなったら、田の守り神・泥田坊はどうするのだろう。心配したとおり、行き場を失った泥田坊はぞろぞろと現れ、道にもあふれ、車を壊してあばれはじめた。



消防車がきて放水をはじめる。それで一度は溶けて流れた泥田坊たちだったが、そのドロが集まり、巨大な泥田坊になった。きのうの子どもも泥田坊も復活して、直也とともに巨大泥田坊を説得しようとするが、耳を貸さない。鬼太郎もドロで固められてしまった。学校に避難していた人たちは、火をたいて泥田坊をかわかそうとする。ひび割れて苦しむ泥田坊。ねこ娘に助けられた鬼太郎が、やむをえず泥田坊を倒そうと妖怪ぶえのムチをだすが、直也が止めに入った。「泥田坊は住むところがなくなると思ったんだ。うちの田んぼに返してあげて!」と。



お父さんは毎週末、おじいちゃんの農家を手伝うことにきめた。できる限り農家を続けて、少しでも泥田坊に長くいてもらうためだ。



●直也

●直也の両親

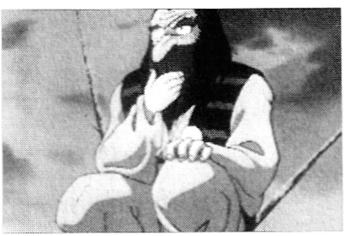
第23話

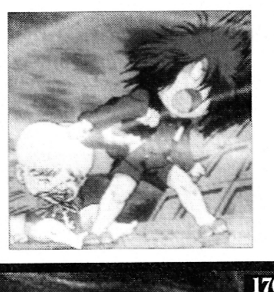
風魔！ 妖怪雨降り天狗

風吹き峠でレースまがいの暴走をする若者たち。そこにとつぜんはげしい風が吹き、車ごとどこかへ飛ばされてしまう。峠近くの駐在所をたずねてくる晴夫。となり町へ往診にいったお父さんが帰ってこないのだ。そこで晴夫は鬼太郎に手紙を書いた。

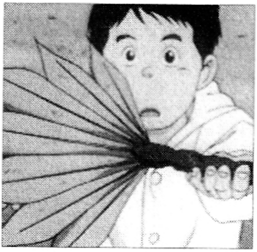
鬼太郎の家のポストには、晴夫のもの以外にも、風吹き峠の行方不明事件に関してのものがたくさん入っていた。

現場にいってみると、行方不明事件は道路ができてからだと駐在さんはいう。そのとき、はげしい風が吹き、ねずみ男と一反木綿が飛ばされてしまう。風をおこしたのは天狗だった。鬼太郎はゲタ攻撃をみごと右目に当てるが、逃げられてしまう。雨がふってきたので、とりあえず晴夫の家で作戦会議ということになった。





鬼太郎たちが晴夫の家にいると、診療所に天狗がやってきて、右目を診てほしいという。顔はそのままだが、スーツを着て、人間に化けているつ



もりらしい。晴夫のおじいちゃんが診てやると、天狗は感謝して帰った。診察の間に天狗の帽子に入りこんだ目玉おやじは、鞍馬の大天狗と名乗り、なぜあばれるのかたずねた。実は道路が通り、車が走るようになってから、食べ物のカスミ草がかれてしまったので、人間をおどかして追い返そうとしていたというのだ。おやじは人々が風穴に閉じこめられていることも聞きだすが、うっかりして正体がばれてしまった。

やってくる鬼太郎たち。そのとき、またも雨がふりはじめた。

あわてて岩になる天狗。

「こいつは雨降り天狗じゃ。雨からウチワを守るために岩になるんじゃ」今のうちにと人々を助けようとするが、雨があがって天狗が風穴にもどってきた。ゲタでウチワを弾き飛ばす鬼太郎。ウチワをなくした天狗に、石をぶつけようとする人々を押しとどめたのは晴夫のおじいちゃんだった。

「カスミ草は村で責任を持って栽培する。あばれるのはやめてもらえまいか」その言葉を信用すると、天狗はおとなしくなるのだった。





第24話

怪談！ 妖怪陰摩羅鬼

ある田舎町。荒れたお寺から、ぶきみな声が聞こえる。「墓を放ったらかすのは誰じゃ！」と。

そのボロ寺の前でねずみ男が倒れていると、寺の中から若い娘が現れ、彼を助けおこした。人が住んでいたのか……。

だされたご飯をガツガツと食べるねずみ男に、娘は小百合と名のった。住職だったお父さんが死んでから、寺がさびれて困っているのだという。「私と結婚して住職になってもらえませんか？」





と夢のような申し出だ。

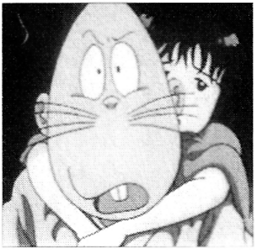
すっかりマジメな坊さんしているねずみ男にかくれ、誰かと話す小百合。「もうこれ以上の悪さはできません」「寺を荒らした村人の責任だろう！」なにやら仲たがいのようす。

お祝いにむかう鬼太郎たちは悲鳴を聞き、かけつけると男を襲っていた巨大な鳥のような影が逃げていく。

小百合のるす中に寺に、棺桶が運ばれてきた。「なんだ、住職がきたのか。ここが無人寺になってからよく死体が歩くんだ」と不吉な発言。ねずみ男

が、自分は小百合の夫だというと「小百合さんはとっくの昔に亡くなっているよ！」という。ねずみ男はふるえあがり、やってきた鬼太郎に助けを求めた。
　小百合がもどってくると、画家に化けた鬼太郎が「肖像画を描くから、質問に答えてください」という。実はこれは『正体あばき』の秘術なのだ。質問の答えに合わせて紙に印をつけていく鬼太郎。「最後の質問です。魂を吸うのは好きですか？」「はい」と答えた小百合の体から、何





か離れると同時に、紙の上に現れたのは陰摩羅鬼だった。死者の魂を自由にあやつる陰摩羅鬼は、墓場から次々と死人を呼び寄せて抵抗するが、最後は正体あばきの紙で封印される。「陰摩羅鬼さんは荒れた寺を救おうとしてくれたんです。殺さないでください」そういうと小百合はねずみ男にあやまりながら消えていった。
　新しい住職がくることになり、直される荒れ寺。小百合の墓に参るねずみ男は、その墓標の陰に一輪の百合の花を見た。小百合のような花を…。



第25話

古都の妖怪・おぼろ車

古い神社やお寺の残る街。ここでも若者が暴走し、通りをレース場とかんちがいしている。その若者のスポーツカーを追いかけてくる、奇妙な車があった。たちまち追いつき横にならんだその車には巨大な顔が！「うわぁっ!!」次々と事故をおこしていく若者たち。

事故のせいで丘の上に病院を建てる計画も遅れており、市長と警察署長もしぶい顔。「わたしが妖怪を退治しましょう」そこに調子よく現れたのは、もちろんねずみ男だった。

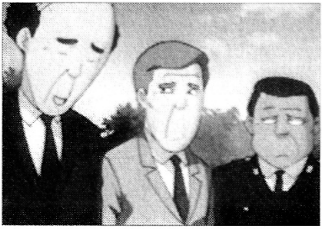


ガラクタで祭だんを作り、お札を1枚20万円で買えなどと市長たちと話していると……。

でた！ 謎の車だ。「は、早く退治してくれ」あわてる市長の前を、妖怪はねずみ男をひきつぶして走りさる。まったく相手にされていなかった。

次々と事故を引きおこしていく妖怪。鬼太郎がかけつける。「あれはおぼろ車じゃ」鬼太郎は一反木綿に乗って必死に追いかけるが、おぼろ車は、病院建設予定地の山道で

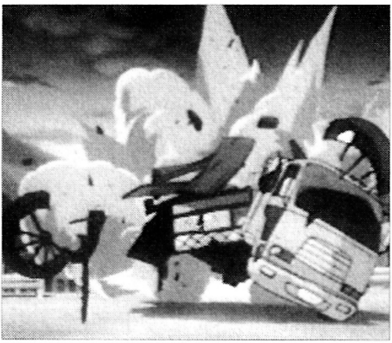




スウッと消えてしまった。丘の上には小さな博物館があった。鬼太郎が入っていくと、展示されている牛車の車輪がドロでよごれている。この博物館はきょうで閉館で、展示物が次々運びだされているのだが、この牛車は引取り手がないという。遺跡で見つかった木片から再現したもので、当時のものではなかった。そこへねずみ男もやってくる。「こいつが妖怪の正体だ。燃やしちまおうぜ」と、そのとたん牛車はおぼろ車に変わり、ふたたびあばれだした。



おぼろ車に飛び乗った鬼太郎は1ヵ所だけ材料の古い部分を見つける。そこにはおぼろ車の記憶が残っていた。主人は自分をとても大事に使ってくれたが、戦で死に、自分も燃えてしまった。数百年ぶりに掘りだされて、再現され、もといた場所に展示されたのに、そこがなくなってしまうなんて……。おぼろ車は怒りにまかせて現場にむかうトラックに突進し、ぶつかってこっぱみじんに壊れて、消えていくのだった……。



第26話

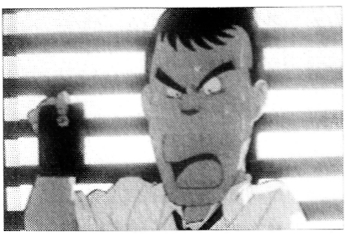
復活！　妖怪天邪鬼

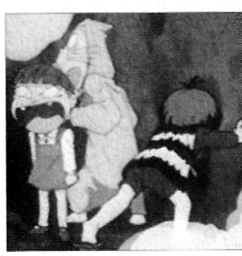
はげしく雨のふる夜。稲光の中に浮かぶ、大男の影とむかいあうねずみ男。冷や汗をたらす……。

高級別荘地の軽石沢。鬼太郎とねこ娘がなんと、ねずみ男の誕生パーティーに招待された。やってきた家はこの近辺でも特別りっぱな建物だ。食堂もホテルのレストランのような感じ……のはじにちゃぶ台が出され、おしんことみそ汁が用意されている。「いつも世話になってるからよう」ねずみ男の言葉に、鬼太郎はそまつなおかずでもニコニコと食べた。

そのとき、パトカーのサイレンの音がひびいてくる。1台や2台ではない。気がつくとねずみ男はさっさと逃げていた。なにかたくらんでいたようだ。

鬼太郎たちは誘拐犯とまちがわれたらしい。さらわれたのは大河内百合香という、お金持ちのお嬢さんだということだ。鬼太郎たちが取り調べを受けていると、とつぜん、赤い体でパンツ一丁の大男が現れ、警察署を壊しての大あばれ。

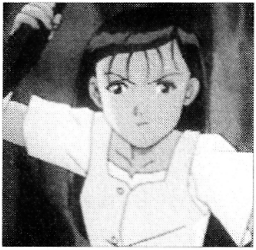




警官では相手にならず、鬼太郎たちを小脇にかかえて走り去ってしまった。人の困ることをしてよろこぶ妖怪・天邪鬼である。

百合香をさらったのも天邪鬼だった。幸せなヤツを見るとムカムカする、という天邪鬼は自分の封印を解いてくれたはずのねずみ男までも洞くつに放りこみ、大岩でふたをして、火をつける。このままではみんな燻製になってしまう。鬼太郎たちはなんとか脱出しようと穴を掘る。だが、百合香だけは手伝いもせず「早く助けなさい！お金ならいくらでもはらうから」と高飛車な女だった。

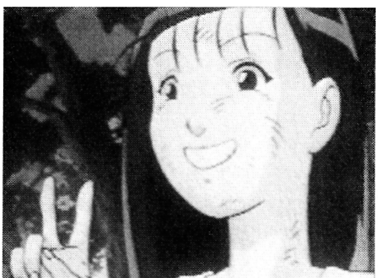
そこにぬりかべが到着。穴をふさいでいた大岩をどけてくれた。



そして鬼太郎と天邪鬼の一騎討ち。天邪鬼はすさまじい怪力を見せるが、最後には巨大な石の風車を頭上に落とされ、両手のふさがったところを、仏像で封印された。

お礼をよこせ、というねずみ男に「世の中には必死にやっても、むくわれないこともあるのよ」という百合香。やれやれ、どっちもどっちのおふたりさんだ。





第27話

吸魔！　妖怪野づち

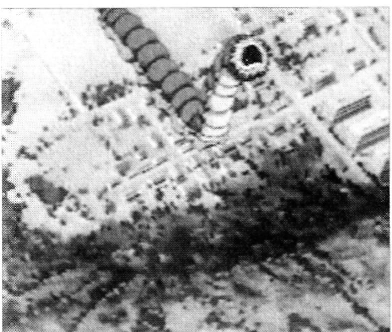
その昔。はかなく破れた恋の思いをつづった手紙をつぼにおさめ、野づち塚にすてる女性がいた。

　そして現在。ぐうぜんからその野づち塚が無限に深い穴だと気づいたねずみ男は、調子に乗って廃品回収を開業。ゴミをどんどんすてていた。

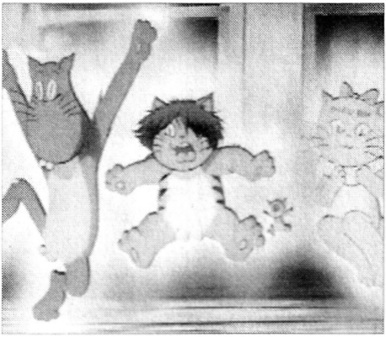
　しかし野づち塚ははるか昔、なんでも吸いこんでしまう妖怪野づちを、神さまが苦労して封印した場所だった。ねずみ男がしめ縄をはずしてしまったために、あばれだす野づち。際限なくものを吸いこめるその力に街は壊滅状態。鬼太郎も吸いこまれてしまうが、淳にメビウスの環の話を聞いた砂かけ婆は、みずから野づちの腹に飛びこみ、鬼太郎と野づちの腸のねじれをのばす。

　腹の中のものを、空間のすきまからいっせいにはいた野づちは、自分のしっぽをくわえて身動きがとれなくなり、ふたたび封印された。

　砂かけ婆が、他人には見られたくない、といい野づちの腹から持ってでた古いつぼは、どこかで見おぼえのあるものだった。



第28話 幻想譚・猫町切符



会社をクビになった中年サラリーマンの秀夫が、行方不明になった。「最近野良ネコが多いですね」「行方不明者が増えると野良ネコも増えるというがのう」などと鬼太郎たちが話していると、ねずみ男が秀夫さがしを手伝ってほしいと現れる。足どりを追ってふたりが河原までくると、野良ネコが現れた。猫町の存在を教えられたふたりは地下鉄猫町線でそこへむかうが、着くころにはネコになっていた。2匹は猫町でネコになった秀夫に会うが、人間の世界には帰りたくないという。

そのうちにねずみ男の正体がばれて、リーダーの猫又に殺されそうになってしまう。助けにきてくれたのはねこ娘だった。秀夫はもどらず、生活に困った奥さんの方が猫町へやってきた。その方がいいのかもしれない。

「最近野良ネコが多いですね」「行方不明者が増えると野良ネコも増えるというがのう」鬼太郎たちは、猫町での記憶をすっかり失っていた……。

第29話

巨人伝説ダイダラボッチ

海水浴場の子どもたち。翔太と祐子が浮き輪を取りあい争っていると、淳が「けんかをするとダイダラボッチに食べられちゃうよ」とからかう。

そのとき、とつぜん地くずれがおこり、巨大な目玉が飛びだした！

続いて、やはり巨大な鼻や口が次々と現れ、集まってくる。それらはまさにダイダラボッチのものだった。

またもねずみ男が金もうけをたくらんで、バラバラに閉じこめられていたダイダラボッチの封印をといたのであった。

ダイダラボッチの好きな食べ物は『争う人間』なのだ。子どもたちを見すてた民宿のオヤジや、先に逃げだそうとしたバスの運転手が、次々とのみこまれていく。もとにもどすには、まだ封印のとけていないダイダラボッチの『脳』に、クイをうたねばならないのだ。しかし、なかなかクイをうてずあせる鬼太郎たち。そこで鬼太郎は仲間と争うふりをして、ダイダラボッチを引きつけ、なんとかそれを成功させるのだった。

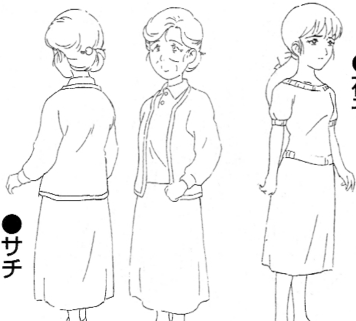


第30話
妖花！夏の日の記憶

本屋の店員・花子にまとわりつく妖気が気になった鬼太郎は、そっと後をつけてみる。花子に想いをよせる良雄は、夜の公園でプロポーズをするが、彼女にはずっと気になっていることがあって、それをすなおに受けられなかった。

アパートの花子の部屋をたずねた鬼太郎はビックリ。熱帯地方にあるような、奇怪な花が部屋中に咲いているではないか。毎年、夏になると決まって咲くのだという。そして、両親のいない彼女をずっと育ててくれたおばあさんが、3年前にとつぜん行方不明になっており、なにか関係があるらしい。

妖怪仲間の協力で、その花の原産地である、名もない南方の島のことを知った鬼太郎は、花子をつれてそこへむかう。巨木と化したその花の根元には、ふたつの遺体があった。それは行方不明になっていた花子のおばあさんと、戦争中にここで死んだ花子のおじいさんだ。花子がたずねてくるのを知っていたように、手紙がそえられてあったのである。

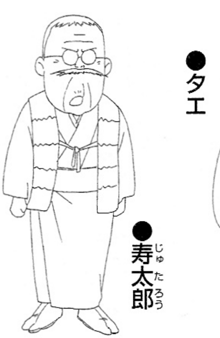


●花子

●サチ

第31話

妖怪変化！傘化け



人里離れた場所に隠れ住んでいた傘化けは、あやしげな仙人にだまされ、お金持ちになろうとする。鬼太郎からうばい取ったちゃんちゃんこの霊力で、みごとに死んだはずの大金持ち伊集院寿太郎に化け、その家に入りこんだ。

お手伝いさんはきみ悪がってでていくが、寿太郎の奥さんだったタエは、やさしい顔で世話をやいてくれる。そして「お金がなくてもふたりで一生懸命働いていたころが幸せだった」という。「おかしいな、仙人さまの話では、お金があった方が幸せなはずなのに」

仙人の正体は、もちろんねずみ男だ。みんなに責められ、傘化けをだましたことを白状する。

自分のしたことは悪いことだと理解した傘化けは、もう一度だけ寿太郎に化け「わしはもう死んでおるのじゃ。最後のお別れをいいそびれたので、こうしてでてきたんじゃよ」とタエにいう。タエは答えた「今度は私がそちらへいく番ですから」と。

第32話

電気妖怪カミナリ！

雷雲から直接電気エネルギーを取りだす実験中。雲の中に入ったロケットから乗組員が消えてしまう事件があった。その後も落雷とともに人が消えてしまう現象が次々とおこる。

どうしてカミナリがそんな悪事を働くようになったのか、鬼太郎はねずみ男や子泣き爺とともに雲の中に入っていった。

カミナリは宙に浮かんだ岩に住んでおり、人々もそこに捕らえられている。人の家にロケットを打ちこむようなマネをして、人間は無礼だ、とはげしく怒るカミナリは鬼太郎の話に耳をかさない。戦いになり、カミナリは子泣き爺と取っ組みあったまま地上へ落ちていった。ねずみ男の持っていた蓄電池で岩の電気エネルギーを吸収し、地上へおりた鬼太郎は、カミナリの電気を吸い取っておとなしくさせる。

目玉おやじに説教され、やっと自分たちのやり方が無神経だったことに気づいた学者たちは、実験はひかえることを約束し、カミナリは納得して空へ帰っていった。



第33話
逆襲！ 妖怪さら小僧

ライブハウスまわりをする憂歌団。今日もガラの悪い客にヤジを飛ばされケンカさわぎ。そんな憂歌団にねずみ男は「名曲を教えてやる。売れたらオレにも分け前をよこせ」と近づく。

ねずみ男に妖怪の演奏場につれていかれ、さら小僧の歌を聞かされた憂歌団のメンバーは、たちまちその曲「ぺったらぺたらこ」にほれこんでしまった。そして、彼らがぺったらぺたらこを歌うとたちまち大ヒット。紅白夏の歌合戦への出場も決まったが……。

おもしろくないのは持ち歌を盗られたさら小僧だ。さら小僧は憂歌団のメンバーをさらうが、鬼太郎と戦ってやぶれ、あっさり返してくる。しかし、さら小僧のしかえしはこれからだった。紅白夏の歌合戦出場で舞いあがった憂歌団は、歌ってはいけない、といわれていた4番を歌ってしまったのだ！

たちまち憂歌団の時間は逆もどり。気がつくと安酒場に座り、自分たちが大ヒット曲を歌っていたことも忘れていた。



●憂歌団の皆さん

ゲゲゲの鬼太郎放映リスト

話数	放映日	サブタイトル	脚本	演出	作画監督	美術
1	1/7	妖怪！見上げ入道	武上純希	西尾大介	飯島弘也	浦田又治
2	1/14	妖怪目目連の涙	橋本裕志	明比正行	遠藤明夫	鹿野良行
3	1/21	ギターの戦慄！夜叉	雪室俊一	貝澤幸男	木下和栄	伊藤岩光
4	1/28	恐怖！鏡の国の鏡爺	武上純希	川田武範	海老沢幸男	鹿野良行
5	2/4	ダイヤ妖怪・輪入道	橋本裕志	吉沢孝男	八島善孝	松宮正純
6	2/11	暴走！鬼太郎牛鬼	武上純希	明比正行	出口としお	鹿野良行
7	2/18	妖怪のっぺらぼう！	橋本裕志	宇田鋼之介	直井正博	松宮正純
8	2/25	妖怪かに坊主と河童	武上純希	川田武範	木下和栄	鹿野良行
9	3/3	爆走！鬼太郎機関車	雪室俊一	吉沢孝男	飯島弘也	松宮正純
10	3/10	怪奇！妖怪万年竹	島田　満	西尾大介	遠藤明夫	鹿野良行
11	3/17	毛羽毛現とがしゃどくろ	武上純希	宇田鋼之介	海老沢幸男	松宮正純
12	3/24	陰謀！猫仙人の猫王国	橋本裕志	明比正行	八島善孝	鹿野良行
13	3/31	妖怪屋敷へいらっしゃい	島田　満	川田武範	出口としお	松宮正純
14	4/7	蜃気楼海竜・みずち	武上純希	吉沢孝男	直井正博	渡辺佳人
15	4/14	悪夢！妖怪まくら返し	大橋志吉	明比正行	木下和栄	松宮正純
16	4/21	あかなめと白うねり	武上純希	宇田鋼之介	飯島弘也	鹿野良行
17	4/28	海奇！妖怪さざえ鬼	大橋志吉	西尾大介	海老沢幸男	松宮正純
18	5/5	深海の奇跡！化け鯨	大橋志吉	川田武範	遠藤明夫	渡辺佳人
19	5/12	恐怖！妖怪くびれ鬼	武上純希	吉沢孝男	八島善孝	松宮正純
20	5/19	冒険！絶海の人食い島	橋本裕志	明比正行	出口としお	浅井和久
21	5/26	白粉婆とのっぺらぼう	大橋志吉	宇田鋼之介	直井正博	松宮正純
22	6/2	蜂起！妖怪泥田坊	武上純希	川田武範	木下和栄	渡辺佳人
23	6/9	風魔！妖怪雨ふり天狗	大橋志吉	吉沢孝男	飯島弘也	松宮正純
24	6/16	怪談！妖怪陰摩羅鬼	武上純希	佐藤順一	海老沢幸男	橋本和幸
25	6/23	古都の妖怪・おぼろ車	大橋志吉	宇田鋼之介	八島善孝	松宮正純
26	6/30	復活！妖怪天邪鬼	雪室俊一	西尾大介	稲葉　仁	渡辺佳人
27	7/7	吸魔！妖怪野づち	武上純希	明比正行	直井正博	松宮正純
28	7/21	幻想譚・猫町切符	大橋志吉	吉沢孝男	出口としお	鹿野良行
29	7/28	巨人伝説ダイダラボッチ	橋本裕志	川田武範	木下和栄	松宮正純
30	8/4	妖花！夏の日の記憶	島田　満	明比正行	海老沢幸男	渡辺佳人
31	8/11	妖怪変化！傘化け	武上純希	宇田鋼之介	八島善孝	松宮正純
32	8/18	電気妖怪カミナリ！	大橋志吉	吉沢孝男	直井正博	橋本和幸
33	8/25	逆襲！妖怪さら小僧	武上純希	佐藤順一	飯島弘也	松宮正純

【スタッフ】　企画／清水賢治（フジテレビ）　鈴木専哉（フジテレビ）　木村京太郎（読売広告社）　プロデューサー／清水慎治　制作担当／樋口宗久　原作／水木しげる　シリーズディレクター／西尾大介　音楽／和田薫　キャラクターデザイン・総作画監督／荒木伸吾　姫野美智　美術デザイン／浦田又治　編集／片桐公一　録音／今関種吉　音響効果／森川永子　今野康之　選曲／西川耕祐

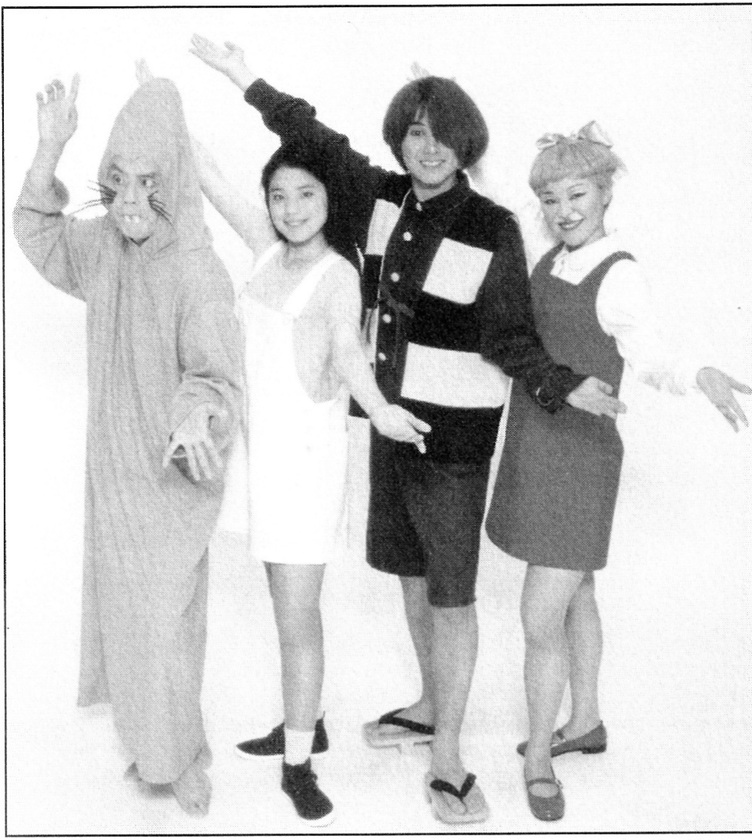
【キャスト】　鬼太郎／松岡洋子　目玉おやじ／田の中勇　ねずみ男／千葉繁　子泣き爺／塩屋浩三　砂かけ婆／山本圭子　一反木綿／龍田直樹　ねこ娘／西村ちなみ　ぬりかべ／龍田直樹

鬼太郎に会いに行こう!!

後楽園ファミリーミュージカル

ゲゲゲの鬼太郎

なんと鬼太郎が歌って踊ってミュージカルになった！



主催フジテレビ／東京ドーム　企画・制作（株）イマジン／山田比古三

期間　'96 7月27日（土）～9月1日（日）まで

場所　東京ドーム前　プリズムホール

交通　JR総武線「水道橋駅」下車／営団地下鉄　丸の内線、南北線「後楽園駅」下車／都営地下鉄三田線「水道橋駅」下車

料金　入場料（座席指定）大人3.500円（中学生以上）
子供2.500円（小学生以下3歳児以上）
＊座席が必要な場合は3歳児未満のお子さまでも入場券が必要です。

この夏、ゲゲゲの鬼太郎がミュージカル劇となった！
おなじみの妖怪たちはもちろん、祐子も活躍するそのストーリーは……その先が知りたければプリズムホールに観にいこう!!

チケット販売
- ●チケットピア
03-5237-9999
- ●チケットセゾン
03-5990-9999
- ●JR東日本みどりの窓口
- ●有楽町そごうサービスセンター
- ●東京ドーム前売所

お問い合わせ・電話予約03-3817-6288

月	8															
日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
曜	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
11時30分	○	○	○	○	休演	○	○	○	○	○	○	休演	○	○	○	○
2時30分	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○

月	8															9
日	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1
曜	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
11時30分	○	○	休演	○	○	○	○	○	○	休演	○	○	○	○	○	○
2時30分	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○

キャラフェスタ'96
世界最大のアニメ博



このチラシ、ポスターが目印!!

キミたちが生まれる前、いや、お父さんやお母さんが生まれる前のアニメのことがわかる博覧会だ。鬼太郎を作っている東映動画が、40年間製作してきたアニメ作品が集まった、楽しい博覧会なんだ。

期間　'96 8月3日（土）～8月25日（日）まで

場所　新高輪プリンスホテル飛天

交通　JR線　京浜急行品川駅下車徒歩5分

入場料金　当日券／大人1.600円　子ども（4～12歳）1.000円
前売券／大人1.400円　子ども（4～12歳）800円

開催時間　10:00～17:30　●ご入場は閉場の30分前までとさせていただきます

お問い合わせ・ご予約

チケットセンター 03-3442-1055　チケットセゾン 03-5990-9999
チケットぴあ 03-5237-9999　プリンスホテル予約センター 03-3209-8686
西武観光予約案内センター 03-3985-8181

■主催/バンダイ・東映動画・新高輪プリンスホテル
■後援/テレビ朝日・フジテレビジョン・集英社・講談社　■協力/東映・円谷プロダクション

イベント内容としては、メインのアニメ博の他に、●鬼太郎やドラゴンボールGTなどの日替りキャラクターショー●ゲームや手作りホビーが楽しめるキャラクタープレイランド●昔の作品が見られる日替りアニメシアター（夜7時からで別料金）などがある。他にもアニメグッズコーナーや、インターネット体験コーナー、キャラクターレストランなどもあるぞ。宿泊する人にはキャラクターの部屋に泊まれる宿泊プランというのもあるんだ。鬼太郎やアニメのことにくわしくなるなら、ここにいこう！

ゲゲゲの鬼太郎ショー

8月3日
8月9日
8月15日
8月21日
の各13:00～
16:00～

伊豆洋らんパーク・トロピカリウム
ゲゲゲの鬼太郎ミステリーツアーズ

（期間） 平成8年8月19日(月)～8月25日(日)
（ショータイム） 1回目：午後6時～
2回目：午後8時～
（場所） 伊豆洋らんパーク・トロピカリウム内
植物園にて
（料金） 前売（大人）1100円（子ども）700円
当日（大人）1200円（子ども）800円
（チケットお求め方法）
電話予約制　伊豆洋らんパーク・トロピカリウム
「ゲゲゲの鬼太郎ミステリーツアーズ」係まで
電話0558-76-3355
〒410-23　静岡県田方郡大仁町田京195-2

日本で初めて、植物園を使ってくりひろげられるロールプレイングショー。鬼太郎と南方妖怪の戦いに参加しよう。

鬼太郎に逢える街・鳥取県境港市

水木しげるロード

さあ、鬼太郎たちのいる街について、もっとくわしく紹介していくぞ。



妖怪のオブジェたちはJR境港駅からのびる商店街の歩道、約800mに渡って置かれているんだ。

これぞ妖怪と共存するモデル地区

境港市では、平成元年から「緑と文化のまちづくり」をテーマに街づくりを進めてきた。その計画のひとつ、市のシンボルロードとして、この「水木しげるロード」は作られてきた。

現在ではオブジェ80体、レリーフ5基の他にも、道路には絵タイルがはめこまれていたりと、妖怪との密接な街作りが行われているんだ。

その他トイレや電話ボックスなども、いろいろおもしろく作られているんだ。



電話ボックスもこんな形。「鬼太郎の家」とある



市内のメインストリートに妖怪の像を配置

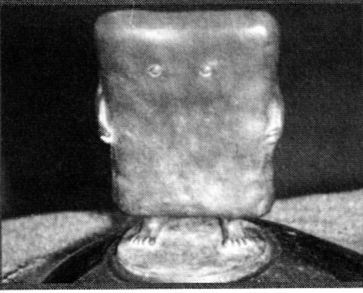








妖怪オブジェ

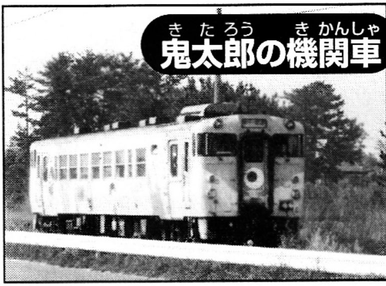








鬼太郎の機関車



絵タイル







境港市では、今後も水木しげる記念館（仮称）など、鬼太郎を軸に楽しい街おこしを計画しているそうだ。来年7月12日（土）～9月の28日（日）まで、境港市では「ジャパンエキスポ鳥取'97 山陰・夢みなと博覧会」も行っているので、夏休みに足を運んでみよう。

さらにくわしいことは、境港市観光協会 電話（0859・47・0121）までお問い合わせを。

境港は日本一の漁獲量を誇るところだ。魚がうまいぞ。

妖怪オブジェ80体

河童の三平・タヌキ・カッパ		高女	がしゃどくろ	ぬっぺっぽう
百々爺	死神	雷獣	ぬらりひょん	ガラッパ
あかなめ	田の神	口裂け女	青女房	ばけぞうり
豆腐小僧	大かむろ	山猰	すねこすり	つるべおとし
鍛冶媼	輪入道	畳叩き	ばく	濡れ女
キジムナー	山童	網切り	浪小僧	川赤子
提灯小僧	見上げ入道	砂かけ婆	百目	小豆はかり
ろくろくび	鉄鼠	泥田坊	こなき爺	河童
袖引小僧	ねこ娘	ぬりかべ	家鳴り	朱の盆
海女房	鬼太郎と目玉おやじ	ねずみ男	川猿	やまびこ
白うねり	倉ぼっこ	足長手長	川うその化け物	毛羽毛現
海坊主	木の葉天狗	雨降り小僧	鬼太郎	鬼太郎のゲタ
目玉おやじ	すっぽんの幽霊	小豆洗い	お歯黒べったり	かみきり
一反木綿	石見の牛鬼	ねずみ男	うわん	油すまし
カシャボ	豆狸	天井なめ	鬼太郎(赤ん坊)とお父さん	
のんのんばあとおれ		針女	土転び	座敷童子

妖怪レリーフ5基

河童穴	妖怪会議	妖怪学校	虫たちのコーラス会	海にひそむ妖怪



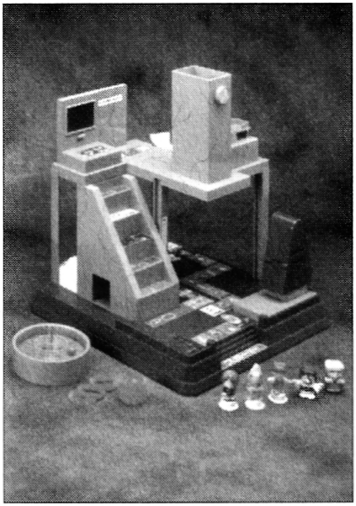
提供／海とくらしの史料館・櫓庵

プレゼント

海とくらしの史料館のおみやげ所・櫓庵さんから、境港にいかなければ手に入らないグッズを、読者のキミたちにプレゼントしてもらったぞ。くわしくは205ページを見て送ってね。

鬼太郎グッズ大公開

（株）バンダイ　TOY



学校の七不思議

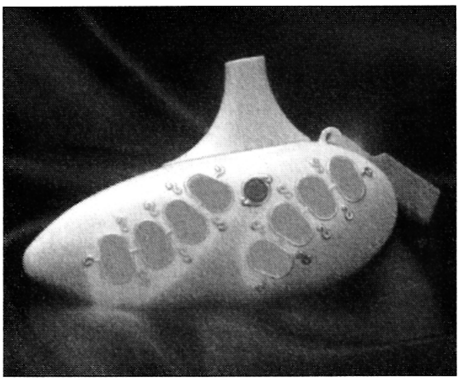
　学校を舞台に、マグネットギミックのしかけられた7つの難関を突破しよう。鬼太郎たち（マグネット付き人形）を使って、スゴロクゲームができるオモチャのハウスだ。誰がいちばん最初にゴールできるかな？

——◉ 5,980円

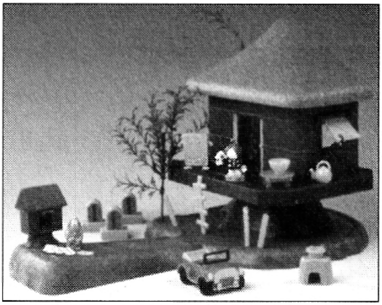
妖怪オカリナ

　オカリナのボタンを押すと、3つのモードでゲゲゲの歌などを演奏。鬼太郎も持っいてるグッズで、音と光の妖怪ハーモニーを楽しもう。

——◉ 3,800円



DXゲゲゲハウス



扉が開く、ポストが開く、妖怪自動車が走るなど、3つのマグネットギミックで楽しさ満載。別売の人形、ゲゲゲファミリーも使って楽しめるぞ。

◉ 3,980円



アクション&メロディ DXゲゲゲの鬼太郎

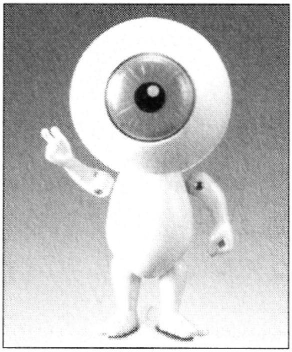
妖怪アンテナである髪が飛びだし、メロディが流れるギミックを持ったアクション人形。ポーズをとらせることもできる！

◉ 2,980円

変録目玉おやじ

ボイスチェンジ機能が付いていて、キミが録音した声を目玉おやじの声のように変えることができるんだ。

◉ 3,500円





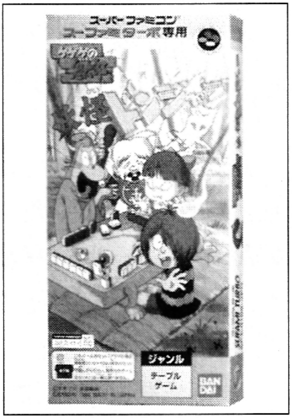
目玉おやじ妖怪電卓

目玉おやじがちょこんと上に乗っかった電卓。キーを押すと、目玉おやじの声で楽しく計算してくれるぞ。

——◎ 3,980円

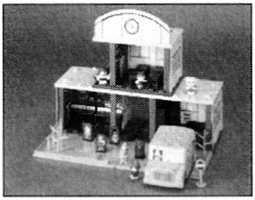
スーパーファミターボ専用ソフト

ゲゲゲの鬼太郎妖怪ドンジャラ



スーパーファミコンをさらに楽しくする、スーパーファミターボの対応カセットなのだ。ドンジャラの他にも、2つのゲームを遊ぶことができるんだ！

——◎ 3,980円



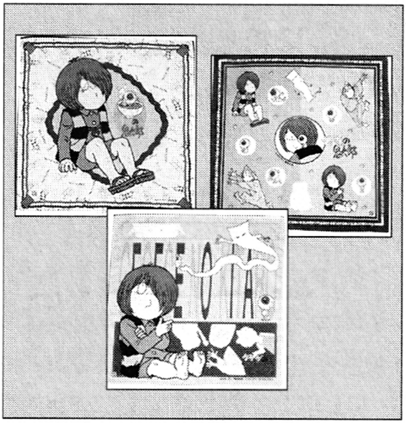
ゲゲゲスクール



5種類あるオマケを集めると、学校が完成するキャンディトーイだ。

——◎ 各300円

ハンカチ



鬼太郎の絵が入ったハンカチ。絵がらは写真のように3種類。使い方をいろいろ考えてみよう。鬼太郎ファンなら3枚とも集めたいね！

◉ 各250円

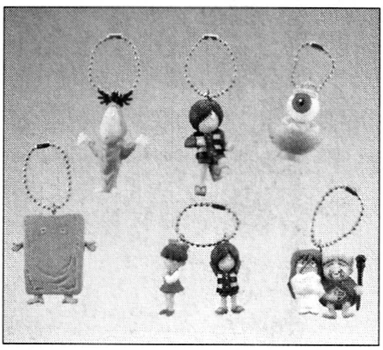
バスタオル

鬼太郎の絵が入った、こちらはバスタオルだ。風呂あがりやプール、昼寝のときなど、いつでもどこでも鬼太郎といっしょにいられるぞ。これを持ってれば、妖怪も近づかないぞ！



◉ 1,500円

ゲゲゲスイング



200円のガシャポンに新しく仲間入りしたカプセル玩具。いろんな物にぶらさげて行ける、マスコット人形たちだ。

◉ 各200円

P200～P203の商品定価に消費税は含まれておりません。

ワーナーミュージック・ジャパン CD



オープニング&エンディングテーマ

もうみんなおなじみの鬼太郎の主題歌だ。「ゲゲゲの鬼太郎」「カランコロンの歌」の2曲はもちろん、そのカラオケも入っているから、みんなで歌おう！

WPD6-9072◉ 1,000円(税込)



オリジナルサウンドトラックVol.1

鬼太郎の劇中で使われているBGMを収録したCD。戦いのテーマなどかっこよくてたのしいCDだぞ。

WPC6-8212◉ 3,000円(税込)



'96夏 東映アニメフェア「ゲゲゲの鬼太郎～大海獣～」劇場版オリジナルサウンドトラック

この本でも紹介した、映画「大海獣」で使われたBGMを収録したCDだ。

WPC6-8225◉ 2,500円(税込)

もくじ

ゲゲゲの鬼太郎プレゼント

読者の君たちにドーンとプレゼント
ほしいプレゼントの番号をひとつだけ
P207のアンケートハガキに書いて送ってね
〆切り'96年10月31日（当日消印有効）

①学校の七不思議（バンダイ）――――――3名
②スーファミターボ専用ソフト
ゲゲゲの鬼太郎妖怪ドンジャラ（バンダイ）――3名
③ミニクリップコレクション（海とくらしの史料館・櫓庵）-5名

応募者多数の場合は抽選、当選者の発表は
発送をもってかえさせていただきます。

編集・構成／竹中　清（STUDIO HARD）
原　　稿／多賀もちゆき（總藝舎）
模型製作／總藝舎
カバーデザイン／田村　宏
本文デザイン／能島健二、寳達美由紀（SOMKA DESIGN）
協　　力／東映動画株式会社、東映株式会社、（株）バンダイ、
wea japan、（株）イマジン、境港市観光協会、
（株）アクター（順不同）

ゲゲゲの鬼太郎大百科

発　行　人　加納　将光
編　集　人　鈴木　好和
発　行　所　株式会社　勁文社
〒164　東京都中野区本町３丁目32番15号
TEL03-3372-3281（編集）03-3372-3291（営業）
振替00190-8-13311番
印　刷　所　錦明印刷株式会社
製　本　所　明興製本工業株式会社

落丁、乱丁本は当社にておとりかえいたします。
発行日、定価は、カバーに表示してあります。

ISBN4-7669-2550-5 C9476

50円切手を はって ください

郵便はがき

1 6 4

東京都中野区

本町3丁目32番15号

株式会社　勁文社

ゲゲゲの鬼太郎係

氏名		年齢	歳	性別	男・女
住所	電話　－　－				
学年					

この本をどこのお店で買いましたか？

区・市・町・村　　　　書店

愛読者アンケート

★キミのほしいプレゼント番号を書いてください。

[ ]

★キミの好きな妖怪は何ですか？

[ ]

★キミはどんな雑誌を読んでいますか？

[ ]

★キミはどんなスポーツが好きですか？

[ ]

★キミがいま一番ほしいものは何ですか？

[ ]

★この本を読んだ感想を書いてください。

ご協力ありがとうございました。

株式会社 勁文社 発行 平成8年9月12日 初版

ケイブンシャの大百科

ゲゲゲの鬼太郎(きたろう)大百科







ISBN4-7669-2550-5

C9476 P760E

9784766925500

1919476007606

●定価760円(本体738円)

雑誌 63553-58